
令和4年度 事業報告書

社会福祉法人 鹿児島県社会福祉協議会

目 次

令和4年度事業実施概要	1
事業報告	
Ⅰ 地域福祉活動の推進	3
Ⅱ ボランティア活動の促進	13
Ⅲ 社会福祉施設・団体等の活動促進及びすこやか基金による活動助成等	25
Ⅳ 福祉サービスの利用支援及び苦情解決の推進	29
Ⅴ 福祉人材の養成・確保	37
Ⅵ 介護実習・普及センターの運営	55
Ⅶ 生活福祉資金貸付事業の推進	69
Ⅷ すこやか長寿社会づくり運動の推進	75
Ⅸ 地域医療介護総合確保基金事業の推進	80
X 県社会福祉センターの管理・運営	87
XI 会務の運営並びに連絡調整等	89

令和4年度事業実施概要

社会福祉を取り巻く環境は、市町村を基盤とした地域福祉の推進が図られる一方で、急速に進む少子高齢化や単身世帯の増加に伴う地域社会の変容、人と人とのつながりが希薄化したことによる孤立・孤独の問題など、複雑かつ多様な生活・福祉課題が顕在化してきています。

さらに、物価高などの厳しい社会経済情勢等を背景に、家族、企業、地域それぞれにおける個人を支える相互扶助機能の低下や人口減少等を背景として、担い手不足に困難さを増す介護人材の確保など対応すべき多くの課題があります。

地域福祉の中核的推進組織である県社協は、複合化・複雑化してきた福祉ニーズに的確に応えるために、「全社協 福祉ビジョン2020」が掲げる「ともに生きる豊かな地域社会の実現」をめざし、令和4年度の基本目標を次のとおり定め、地域福祉の推進に全力を傾注して参りました。

この中で、具体的な事業としては、地域住民の参加による生活支援の仕組みづくり等を目的とした「住民参加型福祉サービス支援事業」の実施や、共同募金配分金を財源とした「在住外国人生活支援モデル事業」において、在住外国人の孤立感の解消や地域における生活課題の解決に関する取り組みなど、市町村社協等における地域福祉活動の充実・強化に努めた他、新型コロナウイルス感染症の影響による生活困窮の課題に対応した特例貸付については、令和4年9月末をもって終了し、引き続き償還事務を開始するとともに、償還免除や償還猶予を行うことにより、適切な債権管理に努めて参りました。

また、福祉人材の養成・確保においては、就職面談会の開催を含め、介護分野への元気高齢者等参入促進セミナー事業等による介護未経験者や高齢者等の多様な人材の参入を図るための取り組みを進めました。

さらに、新たにフェイスブックを開設するなど情報発信の強化に努め、地域福祉についての県民の関心と理解を深めるための取り組みを進めました。

以上に加え、ボランティア活動の促進、福祉サービスの利用支援や苦情解決の推進、すこやか長寿社会づくり運動の推進等についても、関係機関・団体と連携を図りながら引き続き取り組みました。

基本目標

1 地域福祉活動の推進

- (1) 複雑化・複合化した支援ニーズに対応する地域支援基盤づくりの推進
- (2) 生活福祉資金貸付事業の的確な運用と債権管理

2 福祉人材の養成・確保の強化

- (1) オンラインの活用等による福祉人材育成事業の拡充
- (2) 介護人材の確保・業務効率化の取り組みの支援

3 社協の認知度アップにつながる情報発信の強化

事業報告

I 地域福祉活動の推進		地域福祉部
1 地域福祉推進支援事業	所管部署	地域福祉部
<p>令和4年度事業計画</p> <p>(1) 地域福祉推進支援事業 ア 巡回指導及び研修会への職員派遣</p>	<p>事業実施概要等</p> <p>在宅福祉サービス・地域福祉活動展開についての実施手法の指導や近隣保健福祉ネットワーク、社協運営等について、訪問及び研修会等での指導援助を行った。 市町村社協巡回指導数：7回 研修会等への指導：14回（市町村社協等）</p>	<p>具体的成果等</p> <p>市町村社協ほか関係機関等に積極的な出向き、福祉活動の支援に資することができた。</p>
<p>イ 市町村等への情報提供</p>	<p>① 地域福祉の分野で先駆的な活動として取り組まれている県内外の有益な情報を収集し、県下の地域福祉関係者に情報発信するとともに市町村で開催された在宅福祉アドバイザー等の研修会に反映させた。</p> <p>② 県内の地域福祉の一層の推進に資するため、県内外の先進的な地域福祉の取組事例や関連情報を収集・整理し、市町村社協等に情報提供を行った。105回（文書、ファックス、メール）</p>	<p>最新情報等を迅速に提供する ことで、市町村社協運営に関する情報共有につながった。</p>
<p>ウ コミュニティワーカークラス（2コース）の実施</p>	<p>地域福祉に関わる人材の資質・技能等の向上を図るための研修会を実施した。</p>	<p>地域福祉に携わるコミュニティーワーカークラスの資質向上のため、左記の研修会を実施し、地域課題解決に繋がる法務能力の向上が図られた。</p>
<p>コース</p>	<p>基礎編</p>	
<p>開催日</p>	<p>令和5年1月20日（金）</p>	<p>令和5年1月20日（金）</p>
<p>形式</p>	<p>集合形式</p>	<p>集合形式</p>
<p>参加者</p>	<p>28人</p>	<p>28人</p>
<p>内容</p>	<p>〈講義〉 法に明るい社協職員を目指して 〈講師〉 自治体法務ネットワーク 森 幸二 氏</p>	<p>〈講義〉 法的な考え方で課題の解決を図る 〈講師〉 自治体法務ネットワーク 森 幸二 氏</p>

<p>(2) 福祉コミュニケーションづくり事業 ア あんしん・安全ネットワー ク セミナーの開催 (1回)</p>	<p>公的サービスや見守り、サロン活動だけでは対応できない地域住民の多様な生活課題に対応し、「誰もがあんしんで安全な生活を送れる地域社会」を作るという視点から、“地域づくり”についての県内の先駆的な事例を参考に、地域課題や生活課題への対応や地域の変化、住民の巻き込み方を学ぶことを目的に開催した。</p>	<p>コロナ禍における小地域ネットワーク活動での地域課題の把握や対応策等を共有することを実施した。また、オンラインで実施したこと、県内各地から多くの関係者の参加を得ることができた。</p>						
<table border="1"> <tr> <td>開催日・形式</td> <td>令和4年11月18日(金)・オンライン (ZOOM)</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>422人</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>(1) 開会挨拶 (2) 健康体操：鹿児島県レクリエーション協会 指導員 中村美智子 氏 (3) パネルディスカッション コーディネーター：鹿児島県社会福祉協議会 地域福祉部 会長 パネリスト：薩摩川内市 朝陽地区コミュニティ協議会 成枝 親久 氏 出水市米ノ津東地区コミュニティ協議会 松田 正幸 氏 宇検村役場 保健福祉課 浅尾 晋也 氏</td> </tr> </table>			開催日・形式	令和4年11月18日(金)・オンライン (ZOOM)	参加者	422人	内容	(1) 開会挨拶 (2) 健康体操：鹿児島県レクリエーション協会 指導員 中村美智子 氏 (3) パネルディスカッション コーディネーター：鹿児島県社会福祉協議会 地域福祉部 会長 パネリスト：薩摩川内市 朝陽地区コミュニティ協議会 成枝 親久 氏 出水市米ノ津東地区コミュニティ協議会 松田 正幸 氏 宇検村役場 保健福祉課 浅尾 晋也 氏
開催日・形式	令和4年11月18日(金)・オンライン (ZOOM)							
参加者	422人							
内容	(1) 開会挨拶 (2) 健康体操：鹿児島県レクリエーション協会 指導員 中村美智子 氏 (3) パネルディスカッション コーディネーター：鹿児島県社会福祉協議会 地域福祉部 会長 パネリスト：薩摩川内市 朝陽地区コミュニティ協議会 成枝 親久 氏 出水市米ノ津東地区コミュニティ協議会 松田 正幸 氏 宇検村役場 保健福祉課 浅尾 晋也 氏							
<p>イ サロン活動研究集会の開催 (1回)</p>	<p>サロン活動を支援する関係者の資質向上、情報交換の場を提供することを通し、サロン活動の一層の普及・定着を図ることを目的に、「ふれあい・いきいきサロン研究集会inかごま」を開催した。 <期 日>：令和5年2月21日 (火) <会 場>：かごま県民交流センター 1階 県民ホール他 <参加者>：130名 <内 容>：全体会 「子育てサロンと子育てをめぐる状況について」 状況説明 鹿児島県社会福祉協議会 地域福祉部 事例発表1 薩摩川内市社会福祉協議会 子育て支援員 有馬 真理子 氏 地域福祉課 戸木田 智博 氏 事例発表2 鹿児島市南部親子つどいの広場 たっこりん 館長 吉元 至子 氏 分科会 【第1分科会】ディスカッション 進行：鹿児島県社会福祉協議会 地域福祉部</p>							

1 地域福祉推進支援事業	所管部署	地域福祉部																		
<p>令和4年度事業計画</p>	<p>事業実施概要等</p> <p>【第2分科会】赤十字幼児安全法 講師：日本赤十字社 鹿児島県支部 指導員 中山 忠順 氏 指導員 田島 菜穂美 氏</p> <p>【第3分科会】親子ふれあい遊び 講師：日本幼年教育研究会 高附 恵子氏</p> <p>【第4分科会】おもちゃ遊び 講師：鹿児島県レクリエーション協会 指導員 徳永 孝子 氏 指導員 鎌田 泰代 氏</p>	<p>具体的成果等</p>																		
<p>2 県社会福祉協議会会長表彰事業</p> <p>県社会福祉協議会会長表彰の実施 (地域福祉推進大会で表彰)</p>	<p>永年、社会福祉の向上に貢献された個人と団体を表彰し、本県に おける社会福祉の一層の向上を図った。 なお、表彰は「地域福祉推進大会」において行った。</p> <p>〈表彰〉</p> <table border="0"> <tr> <td>① 民生委員児童委員</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>② ホームヘルパー</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>③ 相談員</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>④ 社会福祉施設の長及び職員</td> <td>133人</td> </tr> <tr> <td>⑤ 社会福祉事業関係団体の役員</td> <td>59人</td> </tr> <tr> <td>⑥ 社会福祉事業関係団体</td> <td>4団体</td> </tr> <tr> <td>⑦ ボランティア個人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>⑧ ボランティアグループ・団体</td> <td>11団体</td> </tr> <tr> <td>⑨ 社会福祉の向上に功績のあった者</td> <td>0人</td> </tr> </table> <p>合計 (262人, 15団体)</p> <p>〈審査会〉 令和4年8月18日(木)開催</p>	① 民生委員児童委員	35人	② ホームヘルパー	14人	③ 相談員	3人	④ 社会福祉施設の長及び職員	133人	⑤ 社会福祉事業関係団体の役員	59人	⑥ 社会福祉事業関係団体	4団体	⑦ ボランティア個人	18人	⑧ ボランティアグループ・団体	11団体	⑨ 社会福祉の向上に功績のあった者	0人	<p>地域福祉部</p> <p>全体の表彰数は対前年度83.9%であり、民生委員・児童委員が対前年度17.8%(162人減)、ホームヘルパーが対前年比155%(5人増)、社会福祉施設の長及び職員が対前年度192%(64人増)となった。 表彰は、永年にわたり社会福祉の充実発展に尽力された多くの福祉関係者の励みとなっている。</p>
① 民生委員児童委員	35人																			
② ホームヘルパー	14人																			
③ 相談員	3人																			
④ 社会福祉施設の長及び職員	133人																			
⑤ 社会福祉事業関係団体の役員	59人																			
⑥ 社会福祉事業関係団体	4団体																			
⑦ ボランティア個人	18人																			
⑧ ボランティアグループ・団体	11団体																			
⑨ 社会福祉の向上に功績のあった者	0人																			
<p>3 制度改正等対応市町村社協支援事業</p> <p>(1) 制度改正等説明会の開催 ア 制度改正等説明会 (2回)</p>	<p>市町村社協等に対し、制度改正の情報提供や対応について支援を行うため開催した。</p> <p>〈期 日〉 令和5年3月9日(木)</p>	<p>地域福祉部, 生活支援部</p> <p>社協活動に関連する法制度等の改正や、今後の社協活動のあり方について、必要な情報を提</p>																		

<p>イ 生活支援体制整備事業連絡会 (2回)</p>	<p>〈形式〉オンライン (ZOOM) 〈参加者数〉93人 〈内容〉 講義: 社会福祉法人におけるインボイス制度への対応 基調説明: 重層的支援体制整備事業の実施について 実践報告: 重層的支援体制整備事業への移行準備事業について セッション: 重層的支援体制整備事業への移行準備から見える地域福祉</p> <p>説明: 生活福祉資金貸付事業の現状と今後の対応について 説明: 不祥事故防止について</p> <p>①第1回 〈期日〉 令和4年6月10日 (金) 〈形式〉 オンライン (ZOOM) 〈参加者数〉 30人 〈内容〉 説明: 県内の生活支援体制整備事業の状況について 情報交換: 今後の活動展開についてWithコロナ</p> <p>②第2回 〈期日〉 令和5年3月7日 (火) 〈形式〉 オンライン (ZOOM) 〈参加者数〉 27人 〈内容〉 報告: 日置市での生活支援体制整備事業の取組みについて 情報交換: 地域の変化と評価, 今後の活動展開について</p>	<p>供することができた。</p>
<p>ウ 生活困窮者自立支援事業市町村社協担当職員研修会 (2回)</p>	<p>生活困窮者自立支援事業を受託している社協を中心に、それぞれの取組状況を把握・共有し、効果的な相談支援業務を展開するために担当職員研修会を開催した。</p> <p>○第1回生活困窮者自立支援事業市町村社協担当職員研修会 〈期日〉 令和4年10月17日(月) 〈開催方法〉 Web会議システム (Zoom) 〈参加者数〉 35人 〈内容〉 講義① 「生活福祉資金の特例貸付における受付状況と償還免除状況について」 講義②・グループワーク① 「生活困窮者支援の基本的なスタンスと相談員の対応力について」</p>	

3	制度改正等対応市町村社協支援事業	所管部署	地域福祉部, 生活支援部
令和4年度事業計画	<p style="text-align: center;">事業実施概要等</p> <p>グループワーク② 「生活困窮者へのアウトリーチ力と対応力の向上について」 講師：全国社会福祉協議会 中央福祉学院 教授 淑徳大学 社会福祉学科 准教授 山下 興一郎 氏</p> <p>○第2回生活困窮者自立支援事業市町村社協担当職員研修会 〈期 日〉 令和5年3月13日(月) 〈開催方法〉 Web会議システム (Zoom) 〈参加者数〉 32人 〈内 容〉 講義① 「生活困窮者支援に関わる福祉動向について」 講義② 「県内外における居住支援活動における最新動向について～『身寄り』問題も含めて～」 講師：NPO法人 やどかりサポート鹿児島 理事 長 芝田 淳 氏</p> <p>グループワーク 「相談員における何でも相談会」</p>	<p>県外の先駆的な社協活動の実践報告を参考に、県内市町村社協の今後の社協活動の展開やヒントを得るため開催した。</p> <p>〈期 日〉 令和4年4月21日 (木) 〈形 式〉 オンライン併用 〈参加者数〉 75人 〈内 容〉 講演 福智町における社会福祉法人連携と社協の役割 講師 福岡県福智町社会福祉協議会 事務局 長 中野 雅浩 氏</p>	<p style="text-align: center;">具体的成果等</p>
4	<p>地域福祉推進大会開催事業</p> <p>地域福祉推進大会の開催 ア 開催期日 令和4年10月28日(金) イ 場所</p>	<p>所管部署</p> <p style="text-align: center;">地域福祉部</p>	<p>永年にわたり地域福祉の発展に寄与された方々の表彰や地域福祉に関する記念講演の開催により、地域福祉を推進する社協</p>

<p>川商ホール (鹿児島市民文化ホール)</p> <p>ウ 内容 ① 永年地域福祉の発展に寄与された方々の表彰 ② 地域福祉の推進に関する講演 ③ 見守り活動等の実践報告</p> <p>エ 参加者数 1,200人程度</p>	<p>〈会場〉 川商ホール (鹿児島市民文化ホール) 第1ホール 〈参加者数〉 608人 〈内容〉 ① 式典 (表彰) ② 記念講演 演題: 「みんなが元気になるコミュニケーションづくり ～地域共生社会をめざして」 (講師) 鹿児島大学 法文学部 法経社会学科 准教授 金子 満 氏</p>	<p>や関係機関・団体等が、今後の地域福祉のあり方を考える機運の醸成につながった。 また、各種感染防止対策を講じ、幅広い関係機関から参加を得ることができた。</p>
<p>5 生活支援コーデイネーター体制構築事業</p>		
<p>(1) 市町村における生活支援体制整備の支援 (県生活支援体制推進コーデイネーターの設置) ア 市町村が設置する生活支援コーデイネーターへの指導・助言、相談対応 イ 高齢者支援にかかる担い手の育成・研修についての支援 ウ その他、市町村が設置する生活支援コーデイネーターへの支援 エ 市町村が設置する協議体への支援</p>	<p>県生活支援体制推進コーデイネーターを設置し、市町村が設置する生活支援コーデイネーターへの指導・助言・相談対応や高齢者の支援にかかる担い手の育成・研修についての支援など、市町村が実施する生活支援体制整備について支援を行った。 ① 市町村が設置する生活支援コーデイネーターへの指導・助言・相談 〈相談件数〉 (実件数) 84件 〈相談内容〉 (延べ件数) 294件 ・ 協議体の運営方法について 18件 ・ 生活支援コーデイネーターの選任について 4件 ・ 地域ニーズの見える化、問題提起 59件 ・ 地縁組織等多様な主体への協力依頼などの働きかけについて 42件 ・ 関係者のネットワーキングについて 59件 ・ 目指す地域の姿・方針の共有・意識の統一について 55件 ・ 生活支援の担い手の養成やサービス開発について 28件 ・ ニーズとサービスのマッチングについて 27件 ・ その他 2件 ② 高齢者の支援にかかる担い手の育成・研修についての支援 〈研修支援回数〉 15回 〈市町村等数〉 5市1町1村 ③ その他、市町村が設置する生活支援コーデイネーターの支援等 〈訪問支援回数〉 40回 (研修支援含む) 〈市町村等数〉 11市5町1村</p>	<p>生活支援体制を整備すること を目的として市町村に配置され た生活支援コーデイネーターの 人材育成及び資質向上を図るこ とにより、地域住民が主体的に 関わりながら地域課題を解決す る地域包括ケアシステムの構築 に資することができた。</p>
<p>(2) 生活支援コーデイネーター養成研修の企画 ア 研修企画会議の開催 (年2回)</p>	<p>① 第1回研修企画会議 〈期 日〉 令和4年5月25日 (水) 〈形 式〉 オンライン (ZOOM) 〈参加者数〉 12名</p>	

5	生活支援コーディネーター体制構築事業	所管部署	地域福祉部
<p>令和4年度事業計画</p>		<p>具体的成果等</p>	
<p>イ 県独自カリキュラムの作成 ウ 生活支援コーディネーターのネットワーキング構築を目的とした情報交換会の立ち上げ支援</p>	<p>事業実施概要等</p> <p>〈内容〉 基礎編の内容検討，実践編の方向性について他 ② 第2回研修企画会議 〈期日〉 令和4年10月3日（月） 〈形式〉 オンライン（ZOOM） 〈参加者数〉 12名 〈内容〉 実践編の内容検討他</p>		
<p>(3) 生活支援コーディネーター養成研修の開催 ア 基礎編の開催（年1回） イ 実践編の開催（年1回）</p>	<p>① 基礎編 〈期日〉 令和4年8月3日（水） 〈形式〉 オンライン（ZOOM） 〈参加者数〉 36名 〈内容〉 行政説明「地域包括ケアシステム構築の推進に向けて」 グループワーク 他</p> <p>② 実践編 〈期日〉 令和4年12月12日（月）～13日（火） 〈形式〉 集合形式 〈参加者数〉 49名 〈内容〉 特別講義 「住民主体の助け合いをあと押しする」</p>		
<p>(4) 生活支援コーディネーター養成研修並びに活動の評価 ア 研修等評価会議の開催（年1回）</p>	<p>生活支援コーディネーター養成研修や県生活支援体制推進コーディネーターの活動を分析評価し、今後の支援を効果的に展開することを目的とした「生活支援コーディネーター養成研修等評価会議」を開催した。</p> <p>〈期日〉 令和5年2月3日（金） 〈形式〉 オンライン（ZOOM） 〈参加者数〉 12名 〈内容〉 1 生活支援コーディネーター養成研修に関する分析及び評価 2 県生活支援体制推進コーディネーター活動実績及び評価 3 次年度の研修内容の検討</p>		

6 在住外国人生活支援モデル事業	所管部署	地域福祉部
事業実施概要等		具体的成果等
<p>(3) 令和4年度事業計画 ア 地域つながり支援事業 社協事業等への在住外国人 の参加促進</p> <p>イ 地域住民との異文化交流会 の実施</p>	<p>事業実施概要等</p> <p>技能実習生をはじめとする在住外国人を雇用している企業を訪問し、社協事業の紹介を行うとともに、モデル地区の出水市社協が実施しているボランティアフェスティバルやフードドライブ事業への積極的な参加について働きかけを行った。また、技能実習生に対し、フードドライブで集まった食材やお菓子を配布する等、在住外国人をはじめ、企業担当者や関係機関等に対して社協事業への理解促進を図ることができた。</p> <p>在住外国人の外出活動の促進や、相互理解を図ることを目的に、異文化交流（外出支援）活動を行った。活動を通じて、在住外国人が日本の伝統文化に触れることができたとともに、地域住民との交流機会の確保につながった。</p> <p>〈期 日〉 令和5年3月19日(日) 〈会 場〉 出水市「中井勝郎美術・古文書館 竹林庭園」 〈内 容〉 出水市「竹燈籠製作」、地域住民との昼食会 〈協 力〉 出水透彫竹燈籠同好会、有限会社やなせ</p>	
<p>(4) 全県対象事業 ア 在住外国人支援に関するセミナー等の開催</p>	<p>外国人からの相談を受ける県内の関係機関や団体の担当者等が、在住外国人の生活支援について学ぶとともに、関係機関の支援体制ネットワークの構築を図ること等を目的に、在住外国人生活支援研修会を開催した。</p> <p>〈期 日〉 令和5年2月28日(火) 〈方 法〉 ZOOMによるオンライン形式 〈参加者〉 県、市町村、市町村社協、民生委員児童委員、国際交流関係団体等 〈内 容〉 事業説明「在住外国人生活支援モデル事業について」 講義「外国人住民の相談対応について」 (講師) 公益財団法人兵庫県国際交流協会 外国人県民インフォメーションセンター スペイン語相談員・社会福祉士 村松紀子 氏 実践発表①「地域での生活を通じて外国人が感じるこ と」 (発表者) RISKI RAHAYU PUTRI (リスキ ラハユ プトリ) 氏 実践発表②「在住外国人が住みよい街づくりに向けて」 (発表者) 株式会社SLA 事務局長 鹿丸あい子 氏</p>	

II ボランティア活動の促進		所管部署	ボランティアセンター
1 県ボランティアセンターの運営		具体的成果等	
令和4年度事業計画		事業実施概要等	
(1) 県ボランティアセンターの設置	県ボランティアセンター事業の推進を図るため、ボランティア相談や保険加入手続き等に対応したほか、各種研修会の企画実施、市町村社協が主催するボランティア講座への支援、市町村社協ボランティア担当職員の研修等で指導助言を行った。	多様な相談への対応や各種研修の企画及び実施、各団体が実施するボランティア講座等の支援を行うことを通して、ボランティアへの理解と関心を高めることにつながった。	
(2) 福祉救済ボランティア活動連絡会の開催	県内外で大規模災害が発生した場合の福祉救済活動・災害ボランティア活動支援を迅速かつ効果的に行えるように、関係機関団体等における平常時や災害時の取り組みの共有、関係者間の顔の見える関係づくりなどを図るため、連絡会を次のとおり開催した。 〈日時〉 令和5年2月3日(金) 午後1時30分～午後3時 〈会場〉 県社会福祉センター7階 第2会議室 〈内容〉 ア 県社協による災害ボランティア活動支援の取り組みについて イ 出席団体による防災・被災者支援等の取り組みについて ウ その他 県災害対策課、県社会福祉課、日本赤十字社県支部、県共同募金会、日本防災士会県支部、日本青年会議所九州地区鹿児島ブロック協議会、県生活協同組合連合会、県社会福祉士会の8機関10人	平時において、災害が発生した際の取り組みや連携等に係る関係機関団体等との情報共有が図られ、災害ボランティアセンターが果たすべき役割や機能について、周知することができた。	
(3) 県総合防災訓練、桜島火山爆発総合防災訓練への参加 ア 県総合防災訓練 ・期日 令和4年11月上旬(祝) ・場所 志布志市方面(祝)	① 県総合防災訓練への参加 令和4年度は、志布志市において次の内容で訓練を行った。 なお、今回の被害想定が南海トラフ地震による地震・津波災害だったことから、県と志布志市のほか大崎町、東串良町の4者共催で開催された。 〈日時〉 令和4年11月5日(土) 午前9時～午前11時50分 〈会場〉 志布志市総合体育館 〈参加者〉 曾於・肝属地区内の市町村協、青年会議所関係3団体 志布志市ボランティア連絡協議会等 計46人	大規模訓練において、ICTを活用した訓練を導入したことで、災害ボランティアセンターの運営効率化はもとより、感染防止対策にも効果的であることの理解が関係者に周知できた。	

<p>イ 桜島火山爆發総合防災訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期日 令和5年1月上旬(予定) ・ 場所 鹿児島市 	<p>〈実施内容〉 志布志市災害ボランティアセンター設置・運営訓練</p> <p>志布志市と大崎町の2社協スタッフを中心に災害ボランティアセンター内のボランティア受付、オリエンテーション、マッチング、模擬の被災者支援、活動報告、被災者ニーズの聞き取りロールプレイなど一連の流れについての訓練を実施した(東串良町社協は地元で単独実施)。また、QRコードによるボランティア受付や動画視聴によるオリエンテーションの展開などICTを一部活用した訓練を初導入した。</p> <p>② 桜島火山爆發総合防災訓練への参加 鹿児島市が主催する桜島火山爆發総合防災訓練に参加し、鹿児島社協が設置する災害ボランティアセンターの設置運営訓練にかかわる訓練資料の貸出し及び当日の運営支援を行った。 なお、感染拡大防止のため参加人数の制限が設けられ、この訓練には、鹿児島市社協と県社協のみの参加となった。 〈日 時〉 令和5年1月7日(土) 午前9時30分～午後12時30分 〈会 場〉 鹿児島市立甲東中学校グラウンド 〈参加者〉 20人(鹿児島市社協18人、県社協職員2人) 〈実施内容〉 鹿児島市災害ボランティアセンター設置・運営訓練</p> <p>鹿児島市社協職員を中心に、災害ボランティアセンターでのボランティア受付、オリエンテーション、マッチング、被災者ニーズの聞き取り、活動報告等の一連の模擬動作を行い、使用資機材やスタッフの動きや流れなどについて確認した。</p>	<p>桜島火山爆發総合防災訓練については、人数制限はあったものの、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮した災害ボランティアセンター設置・運営訓練が実施できたことで、三密・滞留等の回避などを考慮した訓練に集中することができた。</p> <p>参加者数：対前年度 ±0人</p>
<p>(4) 指導・連絡・研修</p>	<p>① 市町村社協及び行政、教育委員会等が行うボランティア講座等から要請を受け助言指導等を行った。 〈講座等出席回数〉 計18講座 〈上記の内訳〉 市町村社協等の講座15回、その他の講座3回</p> <p>② 市町村社協による災害支援体制構築に向けた支援等 ア 出水市社協と伊佐市社協による災害時相互応援協定 (締結日：令和4年7月5日)</p>	<p>オンライン活用と演習メニューの工夫等により、前年度より多くの指導要請に答えられた。 ・ 指導回数：対前年度 4回増 近隣市町村社協同士の協定締結により、災害時における長期間の支援体制の構築に資する。</p>

1 県ボランティアセンターの運営	事業実施概要等	所管部署	ボランティアセンター
令和4年度事業計画	<p>イ 青年会議所九州地区鹿児島プロジェクト協議会と連携し、枕崎市社協と枕崎青年会議所による災害時応援協定締結に向けた働きかけを令和4年4月令和5年2月の2回行った。</p> <p>③ 全社協、九州各県・指定都市社協との連絡調整・会議・研修等全国社会福祉協議会（全社協）及び九州社会福祉協議会連合会（九社連）の主催会議等への参加は次のとおり。 なお、感染拡大防止のため一部を除いてオンライン形式による開催である。</p> <p>ア 都道府県・指定都市社協ボランティア・市民活動センター所長・担当者会議（全社協）</p> <p>イ 都道府県・指定都市社協福祉教育担当者会議（全社協）</p> <p>ウ 都道府県・指定都市社協災害ボランティア等に関する情報共有会議（全社協）</p> <p>エ 全社協の災害支援体制と災害支援活動の強化に関する会議（全社協）</p> <p>オ ボランティア全国フォーラム2022（全社協）※集合型</p> <p>カ 都道府県・指定都市社協災害ボランティアセンター担当者連絡会議（全社協）</p> <p>キ 九州各県・指定都市社会福祉協議会業務部課長会議（九社連）</p>	<p>また、青年会議所との協定に ついても、令和5年度上半期に締結できる見込みとなった。</p> <p>オンラインの活用により会議や研修参加の機会を確保できたことで、最新の情勢や情報等の収集につながった。</p>	<p>全国的に積極的に応募したことで、研修運営のノウハウを習得でき、研修プログラムの完成後の本県での円滑な研修実施につながることが期待できる。</p>
(5) その他 (全社協モデル研修の受入れ)	<p>全社協が開発中の災害ボランティアセンターのマネジメント実務や災害時の社協活動全般に関する支援調整等を担う人材養成のため、研修プログラムについて検証の場となる「災害ボランティアセンターマネジメント研修」（モデル研修）の開催に応募し、次のとおり開催した。</p> <p>〈開催期間〉 令和4年12月6日(火)～7日(水)（集合研修の日程） 〈参加者数〉 37人（市町村社協28人、県社協7人、熊本県社協2人） 〈7.プログラム〉 ①事前研修〔集合研修前までのオンライン配信視聴による〕 オリエンテーション、災害VC設置にあたって知っておくべき事、連携・協働の基本的な考え方、被災者支援の公的支援制度、活動資源、クラウドジキング</p>	<p>全国で4か所しかないので、全国的に積極的に応募したことで、研修運営のノウハウを習得でき、研修プログラムの完成後の本県での円滑な研修実施につながることが期待できる。</p>	<p>全国的に積極的に応募したことで、研修運営のノウハウを習得でき、研修プログラムの完成後の本県での円滑な研修実施につながることが期待できる。</p>

	<p>② 集合研修〔1日目〕10:00～17:00 オリエンテーション、災害VCのあり方、運営マネジメント(1)、災害VC設置に関する演習、ふり返り</p> <p>③ 集合研修〔2日目〕10:00～17:00 前日の復習、運営マネジメント(2)、行政との連携、NPO等との連携、災害VCの機能拡充に関する演習、ふり返り</p> <p>〈講師陣〉 倉敷市社会福祉協議会地域福祉課長 佐賀雅宏 呉市社会福祉協議会総合相談支援室長 近藤吉輝 にいがた災害ボランティアネットワーク理事 李仁鉄 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク事務局長 明城徹也 全国ボランティア・市民活動振興センター副部長 楠 聖伸</p>	<p>所管部署</p> <p>ボランティアセンター</p>
<p>2 福祉教育推進事業</p> <p>(1) 児童・生徒のふれあいボランティア活動啓発促進事業の推進 ポイントカード・スタンプの作成配布 イ 導入済社協連絡会の開催(1回) ウ 未導入市町村社協への導入促進</p>	<p>地域における児童・生徒の様々なボランティア活動にスタンプを付与し、スタンプが一定量貯まると活動認定証を交付する取り組みを普及啓発するため、スタンプを600個、カードを小学校用30,000枚と中学校・高校用30,000枚作成し、既導入市町村社協へ配布した。また、未導入の市町村社協へ導入を促すための働きかけを随時行うとともに、この事業の担当者を対象にした連絡会を開催した。</p> <p>① 導入促進 延べ8市町村の社協や教委、小中高校等を訪問して働きかけた結果、新たに大崎町、東串良町及び宇検村の3町村社協が導入を決め、令和4年度中に事業を開始した。</p> <p>② 担当者オンライン連絡会 ア 日 時：令和5年2月1日(水) 午後1時30分～午後4時 イ 参加社協：既導入社協28か所、導入検討中社協1か所 ウ 内 容：講 義 「ボランティア活動・福祉教育を推進するための社協の役割について」 講師：県社協ボランティアセンター 推進員 事例発表 日置市社協、志布志市社協</p>	<p>導入促進に向けて積極的に働き掛けたことで、この事業を導入する社協が34社協から37社協に増えた。 また、コロナ禍ではあったものの、活動認定証の交付も順調に推移しており、児童生徒がボランティア活動を行いやすい環境づくりにつながっている。</p> <p>既導入社協 (34社協)</p> <p>鹿児島市、薩摩川内市、伊佐市、垂水市、日置市、南さつま市、南大隅町、始良市、志布志市、さつま町、霧島市、西之表市、龍郷町、伊仙町、天城町、喜界町、肝付町、鹿屋市、湧水町、南九州市、阿久根市、曾於市、</p>

2 福祉教育推進事業	所管部署	ボランティアセンター																								
令和4年度事業計画	<p>事業実施概要等</p> <p>意見交換 他機関との連携、住民への広報啓発及び他事業との連携のあり方</p> <p>工 まとめ：県社会福祉課、ボランティアセンター</p> <p>③ 活動認定証の交付状況（単位：延べ人）</p> <table border="1" data-bbox="438 705 614 1534"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>小学生</th> <th>中学生</th> <th>義務教育校</th> <th>高校生</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前年度までの累計 A</td> <td>4,617</td> <td>325</td> <td>13</td> <td>340</td> <td>5,295</td> </tr> <tr> <td>令和4年度実績 B</td> <td>914</td> <td>46</td> <td>1</td> <td>26</td> <td>987</td> </tr> <tr> <td>交付総数 (A+B)</td> <td>5,531</td> <td>371</td> <td>14</td> <td>366</td> <td>6,282</td> </tr> </tbody> </table>	区分	小学生	中学生	義務教育校	高校生	合計	前年度までの累計 A	4,617	325	13	340	5,295	令和4年度実績 B	914	46	1	26	987	交付総数 (A+B)	5,531	371	14	366	6,282	<p>具体的成果等</p> <p>中種子町、南種子町、出水市、奄美市、錦江町、屋久島町、長島町、瀬戸内町、徳之島町、和泊町、知名町、与論町</p> <p>新規導入社協（3社協）</p> <p>大崎町、東串良町、宇検村</p>
区分		小学生	中学生	義務教育校	高校生	合計																				
前年度までの累計 A	4,617	325	13	340	5,295																					
令和4年度実績 B	914	46	1	26	987																					
交付総数 (A+B)	5,531	371	14	366	6,282																					
<p>(2) 大学・短大生等ボランティア活動連携推進事業の推進</p> <p>ア 学生ボランティア交流会（1回）</p> <p>イ 大学・短大ボランティア支援担当部署との情報交換の実施（1回）</p> <p>ウ 県内の大学・短大生等が参加しやすいボランティア体験プログラムの検討会（3回）</p>	<p>① 学生ボランティア交流会の開催 県内の大学・短大生のボランティア活動の更なる活性化と連携・協働の促進を図るため、実施希望のあった鹿児島国際大学と連携し、障害者スポーツボランティアをテーマに交流・研修イベントを次の内容で実施した。 〈日時〉令和5年1月30日(月) 午前9時30分～正午 〈会場〉鹿児島国際大学フイールドハハウスほか 〈参加人員〉1年生から3年生までの53人 〈内容〉ア オリエンテーション イ 講義「障がい者スポーツについて」 ウ 実技研修・交流 視覚障害者の誘導、フライング エ ディスクの体験や競技ボランティア体験など オ 障害者スポーツボランティアのまとめ 〈講師〉鹿児島県障害者フライングデイス協議会会長 加治屋哲郎 氏</p> <p>② 大学・短大ボランティア担当職員情報交換会 大学・短大生のボランティア活動の活性化を図るため、各大学・短大ボランティア支援担当職員との情報交換会を次のとおり開催した。 〈日時〉令和4年9月5日(月) 午後2時～午後4時 〈会場〉県社会福祉センター7階 第3会議室 (オンライン/集合の併用型)</p>	<p>令和5年10月の特別全国障害者スポーツ大会（燃ゆる感動かごしま大会）に学生ボランティアの参加が期待されていることもあり、同大会への学生ボランティアの参加促進に寄与できた。</p> <p>コロナ禍のため学外会議等へ参加制限のある担当職員に配慮し、会場参加とオンラインを併用したことで前年度並みの参加を得ることができた。 〔参加数：対前年度1枝増・1人増〕</p>																								

	<p>〈内 容〉 ア 各大学からの情報提供 (学生の動向やボランティア活動状況等) 話題提供 「学生主体を育むボランティア活動の場づくり ～学生がボランティア活動に参加することの意義と大学としての支援について～」 講師：元 東京都立大学ボランティアコーディネーター 足立陽子 氏</p> <p>ウ ボランティアフィード (仮称) 開設検討会の設置についての意見交換</p> <p>〈参加大学〉 会場参加…鹿児島大学, 鹿児島純心女子大学, 志学館大学, 鹿児島県立短期大学, 鹿児島純心女子短期大学, 第一幼児教育短期大学, 第一幼児教育短期大学, 鹿屋体育大学, 鹿児島国際大学, 第一工科大学 計 9大学から9人</p>	<p>検討会に学生の参加を得たことと、今の学生のボランティア事情や情報入手方法など、学生目線の「ボランティアフィード」基本構想」づくりができた。</p>	
<p>回数</p> <p>開催日時</p> <p>場所</p> <p>参加人数</p> <p>検討内容</p>	<p>第 1 回検討会</p> <p>令和4年10月30日(日) 午後1時～午後3時</p> <p>県社会福祉センター 第3会議室</p> <p>12人</p> <p>ア 検討会の目的について イ 検討内容 (ア) 現在の学生のボランティア事情について (イ) (ア)を踏まえてボランティアフィード (仮称) イメージ図案の改善等のグループ検討</p>	<p>第 2 回検討会</p> <p>令和4年12月11日(日) 午前10時～午前11時30分</p> <p>県社会福祉センター 第3会議室</p> <p>12人</p> <p>ア 具体的な仕組みづくりについて (前回のふり返りを含む) イ ボランティアフィード (仮称) に関する事前説明会等について (学生への周知方法等の具体的な手段等) ウ 取り組みやすい (趣加的) なメニュー案について</p>	<p>第 3 回検討会</p> <p>令和5年2月19日(日) 午前10時～午前11時30分</p> <p>県社会福祉センター 第3会議室</p> <p>8人</p> <p>ア 第2回検討会までの検討内容の確認について イ 会員 (参加) 登録方法や更新方法、ボランティア情報の提供方法及びボランティア活動へのエントリ方法等について ウ 効果的な広報手段やタイムイング等について エ 基本構想案のイメージ、とりまとめ・今後について</p>

2 福祉教育推進事業	所管部署	ポランティアセンター
<p>令和4年度事業計画</p>	<p>事業実施概要等</p>	<p>具体的成果等</p>
<p>(3) 福祉教育推進セミナー等の開催 ア 福祉教育サポーターセミナー（オンライン研修・6月予定・1回） イ 福祉教育推進セミナー（集合研修・11月予定・1回） （介護実習・普及センターとの共管事業）</p>	<p>教育・福祉関係従事者、地域住民など幅広い関係者による福祉教育の多様な取り組みを推進し、心豊かな子どもたちの育みや地域の福祉力向上を図るため、次の2つのセミナーを開催した。</p> <p>① 福祉教育サポーターセミナー（オンライン/集合型の併用型） このセミナーは、地域住民に対する福祉教育の提供等に関する幅広い機関・団体等を対象に、地域の様々な福祉・生活課題の解決のため、地域住民が気づき、考え、能動的な実践につながる福祉教育の効果的な取り組みや連携等について学ぶ機会として、次のとおり実施した。</p> <p>〈日時〉令和4年6月24日(金)午後1時30分～午後4時30分 〈参加者〉34人（市町村福祉担当職員、市町村福祉担当職員、児童委員・児童委員等） 〈内容〉事例発表1 「薩摩川内市での住民福祉教育の取り組み」 ～地域ネットワークの実践を通して～ 発表者：薩摩川内市社会福祉協議会地域福祉課長 山内一宏 氏</p> <p>事例発表2 「遊び心と福祉教育をつなげて」 ～筑後市の取り組みを通して～ 発表者：筑後市社会福祉協議会地域福祉係長 卜部善行 氏</p> <p>講演 「地域を基盤とした福祉教育のこれから」 ～地域共生社会の実現をめざして～ 講師：筑紫女学園大学人間科学部人間科学科 教授 山崎安則 氏</p> <p>その他の（質疑応答及び意見交換）</p> <p>② 福祉教育推進セミナー（集合型） このセミナーは、教職員や幅広い福祉関係者を対象に、学校と多様な地域関係者による福祉教育の推進や連携のあり方などを具体的に学ぶ機会として次のとおり開催した。 なお、このセミナーには、鹿児島県総合教育センター主催</p>	<p>住民主体の福祉の学びや取り組みの広がりをねらった「福祉教育サポーターセミナー」と学校での福祉教育・ポランティア体験学習の広がりをねらった「福祉教育推進セミナー」に分けて実施したことで、対象者の違いによる取組手法やテーマ設定等の違い・留意点などが明確になり、取組み方への理解がより深まった。</p> <p>また、福祉教育推進セミナーについては、県総合教育センターと連携したこと、教職員からも多数の参加につながり、学校での福祉教育の広がりの足かりとなった。</p>

	<p>のボランティア・福祉教育に係る短期研修講座受講生（教員）も参加して一緒に学習した。</p> <p>〈日 時〉 令和4年11月24日(木) 午後1時30分～午後4時30分</p> <p>〈参 加 者〉 44人（市町村協議員、市町村教委・福祉担当職員、学校教職員、児童委員、児童委員、NPO関係者等）</p> <p>〈内 容〉 行政説明 「地域学校協働活動の推進について」 説明者： 鹿児島県教育委員会社会教育課 社会教育主事兼専門員 本山智彦 氏</p> <p>事例発表 「鹿児島大学附属小での福祉教育の取り組み」 ～総合的な学習の時間の実践を通して～ 発表者： 鹿児島大学附属小学校 教諭 渡邊健二 氏 他児童7人</p> <p>講 演 「学校・地域・家庭の協働による地域共生社会の実現をめざした福祉教育～福祉教育のテーマ設定と企画立案・実践のヒント～」 講 師： 大阪教育大学教育学部特任教授 新崎国広 氏</p> <p>事業説明「介護実習・普及センターの業務について」 説明者： 介護実習・普及センター所長</p> <p>そ の 他（介護実習・普及センターの見学等）</p>	
<p>③ 全国福祉教育推進員研修（全社協委託事業） 都道府県・指定都市域で活躍する福祉教育人材を養成するため、「令和4年度全国福祉教育推進員研修」に係る鹿児島県域分の演習プログラムの運営及び指導を担った。</p> <p>〈日 時〉 令和4年8月3日(月) 午前10時～午後5時</p> <p>〈会 場〉 県社会福祉センター2階 ボランティアコーナー</p> <p>〈受 講 決 定 数〉 鹿屋市2人，曾於市1人，薩摩川内市の計4人</p> <p>〈修 了 者 数〉 鹿屋市2人，曾於市1人の計3人</p> <p>〈内 容〉 開会式・オリエンテーション 演習1「福祉教育プログラムを磨く」 演習2「福祉教育ネットワークを考える」 全体会「研修の振り返り・まとめ」 鹿児島市社協ボランティアセンター 俣野悠希 氏 県社協ボランティアセンター主事及び推進員</p>	<p>都道府県社協がサテライトの役割を担うことで、全社協が進める地域の福祉教育プラットフォームを担う人材育成に寄与できた。(修了者累計：県社協3人、市町村社協10人)</p>	

3 養成・研修事業	所管部署	ボランティアセンター
<p>令和4年度事業計画</p> <p>(1) ボランティアコーディネーター・ボランティア担当職員セミナーの開催</p>	<p>事業実施概要等</p> <p>ボランティア活動団体・NPO団体及び福祉関係団体等との連絡調整、活動プログラムの企画や需給調整、各種ボランティア活動者の養成及び災害対応等を担うボランティアコーディネーター・担当職員の資質向上等を図るため、次のとおりセミナーを開催した。</p> <p>〈日 時〉令和5年1月25日(水)午後2時～午後5時(オンライン/集合併用型) 令和5年1月26日(木)午前9時15分～午後12時30分(集合型) 〈参加者〉19人(市町村社協ボランティアコーディネーター・ボランティア担当職員) 〈内 容〉【1日目】 説明Ⅰ「市区町村災害ボランティアセンター運営者研修について」 説明者：県社協ボランティアセンター所長 説明Ⅱ「全社協補償制度について～ボランティア保険関係を中心に～」 説明者：㈱福祉保険サービス営業部長 鈴木伸一氏 質疑応答・まとめ 【2日目】 講義・演習 「ボランティアコーディネーション力の向上について～「ボランティアコーディネーション」徹底実践テキストより～」 講師：日本ボランティアコーディネーター協会 運営委員 唐木理恵子 氏 質疑応答・まとめ</p>	<p>具体的成果等</p> <p>専門職として必要とされる知識や役割などの習得及び実践力向上を図ることができた。 なお、令和5年1月24日から25日にかけての大雪により、参加者数が前年度より大きく減少した。 (参加者数：対前年度 17人減)</p>
<p>(2) シニアボランティア講座の開催(1回)</p>	<p>シニア層が長年培ってきた豊かな経験や知識、趣味などをボランティア活動や地域活動に生かしてもらおうため、ボランティア活動等の最新情報や現に活動するシニア層のボランティア活動事例を紹介し、ボランティア活動への参画を促す機会となるよう次のとおり開催した。</p> <p>〈日 時〉令和4年9月28日(水)午後1時30分～午後4時30分 〈会 場〉県社会福祉センター一別館 〈参加者〉37人 〈内 容〉 説明：「ボランティアの意義と役割について～シニア世代を取り巻く環境とボランティア活動～」 説明者 県社協ボランティアセンター所長</p>	<p>ボランティア活動の担い手として期待のかかるシニア層に向けて、多種多様な取組事例を紹介することで、ボランティア活動等への理解を深めることに繋がった。 〔参加者数：対前年度 12人増〕</p>

	<p>実践事例紹介Ⅰ：「図書館ボランティア『かみふうせん』の取り組み」 山元一彦氏 ほか2人 活動発表：「鹿児島マジック愛好会のステーション」 前平喜久氏 ほか4人 実践事例紹介Ⅱ：「個人で取り組む地域ボランティア活動」 窪田弘文氏 活動の場の紹介Ⅲ：「鹿児島国体・全国障害者スポーツ大会でのボランティア活動紹介」 県国体・全国障害者スポーツ大会局 吉松孝展氏 ほか1人</p>	
<p>(3) 災害ボランティアセンター運営支援ボランティア養成講習会の開催（1回）</p>	<p>災害ボランティア活動に関心のある方や地域のボランティアリーダー等を対象に、災害発生時のボランティアセンター運営を支援するボランティアを養成するため、次のとおりオンラインで開催した。 〈日時〉令和4年7月1日(金)午後1時30分～午後4時 〈受講者〉市町村職員、市町村社協職員、民生委員・児童委員青年会議所会員、NPO職員やボランティア活動者等 〈修了者数〉36人 〈指導者〉県社協ボランティアセンター所長 〈内容〉 説明Ⅰ「災害ボランティアセンターとは『歴史的背景、被災者支援の基本的理解等』」 演習「衛生管理に配慮した災害VCの運営を支えるために」 説明Ⅱ「ICTを利用した災害ボランティア受付システムについて」</p>	<p>災害ボランティアの歴史的変遷、被災者支援の基本的考え方、支援活動の流れなどの基礎的知識から、ボランティア活動者や災害ボランティアセンター運営者向けに出された最新の感染防止対策指針等まで、最新かつ幅広い知識を持つ運営ボランティアの養成につながった。 ・修了者数：対前年度2人減</p>
<p>4 広報啓発事業</p>		<p>所管部署 ボランティアセンター</p>
<p>(1) 啓発用物品の整備・提供 ア ボランティア手帳の発行 (発行部数2,000部)</p>	<p>市町村社協等が開催するボランティア講座や研修会や資料として、また、学校での“総合的な学習の時間”等の学習用として、「私人的ボランティア手帳」4,632部を市町村社協等へ配布した。 なお、同手帳については、掲載内容や構成、デザイン等を一新し、新たに4,000部を発行した。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、講義やテキストを使った講座スタイル等が多かったことなどが影響し、手帳の需要が増え、幅広く活用された。</p>
<p>イ 啓発用物品の貸出・整備等</p>	<p>ボランティア学習・介護体験講座等に使用する疑似体験セット、車椅子、アイマスク等の貸し出しについては、新型コロナウイルス感染症に係る県の警戒基準がレベル2以上の場合、貸出しを停止することになっている。 令和4年度中は、同基準がレベル2を下回ることはなかったため、貸出しはなかった。</p>	<p>疑似体験セットなどの装具は、交互に着用したり、装着を補助しあったりする。また、学校では学級・学年単位で使用するケースも多いため、貸出しに一定の基準を設けるなどし、感染リスクの低減を優先した。 (対前年度 △151個増)</p>

4 広報啓発事業	所管部署	ポランティアセンター
令和4年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等
<p>ウ ポランティアルーム・コーナーの提供</p> <p>(2) 広報紙・ホームページ等による情報提供</p>	<p>③ ポランティアルーム・コーナー（会議室）の提供 ポランティアグループ等の活動の利便性を確保するため、同グ ループ等が行う研修会や講習会、打合せ等の場に活用できる会議 室を提供した。 ポランティアルーム：利用回数 83回，利用人員 580人 ポランティアコーナー：利用回数 98回，利用人員 364人</p> <p>① 広報紙の発行（年6回） 県社協広報紙「ふくしのひろば」にポランティアセンターが行 う事業や県内のポランティア・市民活動の様子、災害ポランティ ア活動支援の状況など最新のポランティア関連記事を掲載し、広 報に努めた。 〈部 数〉 13,700部×6回 〈配布先〉 市町村社協、市町村、学校、銀行、病院、その他関係 機関・団体等</p> <p>② その他WEBによる情報提供 県社協ホームページ内に、ポランティア活動に関する活動種別 や内容等の基本的事項を常時掲載するとともに、助成金情報や市 町村社協に登録するポランティア団体等の最新情報、そのほか被 災地の災害ポランティアセンター開設状況や被災者支援の取組状 況等を更新・掲載するなど情報発信に努めた。 また、今年度開設された県社協公式SNS（Facebook）に、ポ ランティアセンター事業等の告知や報告等を随時掲載した。</p>	<p>ポランティアルーム 利用回数：対前年度 15回増 利用人員：対前年度 73人増 ポランティアコーナー 利用回数：対前年度 34回増 利用人員：対前年度 128人増</p> <p>広報紙で活動事例等を紹介す ることで、県民やポランティ ア活動団体等への啓発や活動の推 進が図られた。 また、検索性や即時性の高い 情報をウェブ・SNS等で情報提 供することで、迅速かつ効率的 な情報提供が図られた。</p>
<p>(3) その他 ア サマーポランティア体験 月間の実施</p>	<p>① サマーポランティア体験月間（7月～8月） 地域や社会福祉施設等でのポランティア・介護体験等とおし て、県民のポランティア活動への理解と関心を深めるとともに、 ポランティア活動への参加のきっかけづくりとするため、「サマ ーポランティア体験月間」の実施を市町村社協へ呼びかけたが、 新型コロナウイルス感染症拡大防止への配慮から、実施社協数は前 年度並みとなった。 〈内 容〉 プロگرام数：34件（県内10市町村社協が実施） 〔 児童・生徒が自宅で描いた絵手紙を福祉施設へ 届ける活動、認知症の方への接し方・見守り方に ついての講座（座学主体）、屋外での障害者球-</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大 防止に配慮した体験プログル ムに内容を直すなど工夫して実 施したことにより、昨年度より プロگرام件数と参加者数は次 のとおり増加した。 ・プロگرام件数： 対前年度 8件増 ・実施社協数： 対前年度 1社協減 ・参加者総数： 対前年度 1社協減</p>

<p>イ ボランティアTシャツ等の頒布</p>	<p>ツボランティ体験、福祉施設の清掃や消毒等、災害時の炊き出し実演・体験、子ども食堂の手伝い(等) (参加者数) 744人 (男250人・女494人、小学生計348人、中学生計155人、高校生計230人、その他大学生から社会人等16人)</p> <p>② ボランティアTシャツ・半袖ポロシャツの頒布 ボランティアTシャツと半袖ポロシャツを製作し、有料頒布した。また、令和4年に発生した災害による被災者支援に役立ててもらったため、頒布益金から総額20万円を次のとおり寄付した。 (頒布着数) Tシャツ…481着、半袖ポロシャツ…3,204着 (義援金) …100,000円 [令和4年8月3日からの大雨災害義援金(中興共同募金会)] (同上) …100,000円 [令和4年台風第15号災害静岡県県義援金(静岡県共同募金会)]</p>	<p>対前年度 269人増</p> <p>ボランティア活動等に対する普及啓発が図られた。また、収益の一部を令和4年の大雨災害及び台風災害の被災者に、義援金として寄付することができた。 ・頒布着数：対前年度 Tシャツ151着増、ポロシャツ954着減</p>																														
<p>ウ 届け!!みんなの使用済切手 (使用済切手でボランティア)</p>	<p>県内の事業所や個人等から寄せられた使用済切手を換金・積み立て、令和5年に本県で開催される「特別全国障害者スポーツ大会(燃ゆる感動かごしま大会)」に参加するアスリートの滞在支援用具等に役立ててもらおう取り組みに努めた。 なお、令和4年度までの換金実績及び累計額は次のとおり。</p> <table border="1" data-bbox="790 705 1045 1601"> <thead> <tr> <th></th> <th>換金額 A</th> <th>換金累計額 B</th> <th>支出額 C</th> <th>残額 D (B-C) (翌年度への繰越額)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>106,000円</td> <td>106,000円</td> <td>0円</td> <td>106,000円</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>46,175円</td> <td>152,175円</td> <td>0円</td> <td>152,175円</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>115,090円</td> <td>267,265円</td> <td>0円</td> <td>267,265円</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>93,000円</td> <td>360,265円</td> <td>0円</td> <td>360,265円</td> </tr> <tr> <td>合計額</td> <td></td> <td>360,265円</td> <td>0円</td> <td>360,265円</td> </tr> </tbody> </table>		換金額 A	換金累計額 B	支出額 C	残額 D (B-C) (翌年度への繰越額)	令和元年度	106,000円	106,000円	0円	106,000円	令和2年度	46,175円	152,175円	0円	152,175円	令和3年度	115,090円	267,265円	0円	267,265円	令和4年度	93,000円	360,265円	0円	360,265円	合計額		360,265円	0円	360,265円	<p>使用済切手の収集がボランティア活動に繋がるのが徐々に県民に浸透しつつある。今後も「いつでもどこでも・だれでも」できるボランティアとして、多くの県民への周知に努めたい。</p>
	換金額 A	換金累計額 B	支出額 C	残額 D (B-C) (翌年度への繰越額)																												
令和元年度	106,000円	106,000円	0円	106,000円																												
令和2年度	46,175円	152,175円	0円	152,175円																												
令和3年度	115,090円	267,265円	0円	267,265円																												
令和4年度	93,000円	360,265円	0円	360,265円																												
合計額		360,265円	0円	360,265円																												
<p>5 市町村ボランティアセンターの活動促進</p> <p>ボランティア活動保険加入促進助成事業(助成総額1,000千円)</p>	<p>ボランティア活動に安心して参加できるようボランティア活動保険の加入を促進するため、同保険掛金の補助を行っている市町村社協に対し助成を行った。 (対象加入者数) 12,241人(20市町村社協) (助成金額) 900千円(＠73,52円) (助成対象期間) 令和4年4月～令和5年5月(2か月間) (助成条件等) 1人あたり100円以上の助成を行う市町村社協</p>	<p>所管部署 ボランティアセンター</p> <p>国庫補助基準額の引き下げにより当初の予定から100千円減の900千円の助成となったが、ボランティア活動の掛金補助を行うすべての市町村社協の財政支援に寄与できた。 ・加入者数：対前年度1,345人減 ・市町村数：対前年度±0社協</p>																														

Ⅲ 社会福祉施設・団体等の活動促進及びすこやか基金による活動助成等																																																																																																	
1 社会福祉振興資金の貸付		事業実施概要等						所管部署		地域福祉部（施設）																																																																																							
令和4年度事業計画		事業実施概要等								具体的成果等																																																																																							
民間社会福祉施設整備資金貸付事業		社会福祉施設整備のための貸付資金について、既貸付分の償還管理や残高照会など種々の問い合わせに適切に対応した。								既貸付分の償還状況は以下のとおり。																																																																																							
〔民間社会福祉振興資金 年度別貸付・償還状況〕																																																																																																	
年度	区分	年度貸付額（円） A	貸付累計額（円） B	年度償還計画額（円） C	年度償還済額（円） D	償還済累計額（円） E	貸付中額（円） B-E	償還率（%） D/C																																																																																									
令和3年度		0	1,544,561,000	1,016,000	1,016,000	1,543,550,000	1,011,000	100.0																																																																																									
令和4年度		0	1,544,561,000	1,011,000	1,011,000	1,544,561,000	0	100.0																																																																																									
2 福祉施設経営指導事業		専任指導員1人、兼任指導員1人を配置し相談に応じた。 〔相談内容別実績〕								所管部署		地域福祉部（施設）																																																																																					
(1) 個別相談及び集団指導の実施 福祉施設経営相談コーナーを設置し、専任職員及び兼任指導員による社会福祉施設経営上の各種相談に応じるとともに、役職員を対象に相談会等を行う。 ア 相談コーナーの運営 (主に会計・税務相談)		公認会計士・税理士を配置し、専門的な指導・助言により県下の社会福祉施設等の健全な運営に寄与できた。																																																																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設経営一般</th> <th>会計・税務</th> <th>入所者処遇</th> <th>職員待遇</th> <th>安全防災</th> <th>衛生管理</th> <th>施設整備</th> <th>人材確保対策</th> <th>労使問題</th> <th>預かり金</th> <th>地域交流</th> <th>その他</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>来所相談</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>電話文書</td> <td></td> <td>41</td> <td></td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>集団指導</td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>0</td> <td>43</td> <td>0</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table>										区分	施設経営一般	会計・税務	入所者処遇	職員待遇	安全防災	衛生管理	施設整備	人材確保対策	労使問題	預かり金	地域交流	その他	合計	訪問													0	来所相談		2											2	電話文書		41											41	集団指導													0	合計	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	① 相談内容は、会計・税務に関することが43件であった。 ② 施設別では、障害者支援福祉施設14件、老人福祉施設12件、児童福祉施設1件、市町村社協等その他の施設等13件、法人本部3件となっている。	
区分	施設経営一般	会計・税務	入所者処遇	職員待遇	安全防災	衛生管理	施設整備	人材確保対策	労使問題	預かり金	地域交流	その他	合計																																																																																				
訪問													0																																																																																				
来所相談		2											2																																																																																				
電話文書		41											41																																																																																				
集団指導													0																																																																																				
合計	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43																																																																																				

<p>イ 「社会福祉法人会計研修における県社会福祉法人経営者協議会との連携・協力（3回・オンライン併用）」</p>	<p>① 第1回会計研修 [令和4年 7月 5日(火), 参加者数: 155人] ② 第2回会計研修 [令和4年11月 8日(火), 参加者数: 214人] ③ 第3回会計研修 [令和5年 1月31日(火), 参加者数: 188人] ※ 全てオンライン開催</p>	<p>社会福祉法人会計の間違えや正しい科目と仕訳など、基本的な会計や決算時のポイントなどに関する研究を実施し、適正な会計事務及び健全な施設経営に寄与した。</p>
<p>(2) 福祉施設経営指導連絡協議会の開催</p>	<p>円滑かつ効果的な事業推進を図るため、県・市の行政関係職員及び福祉団体役員で構成する経営指導連絡協議会を開催した。 (1) 開催日: 令和4年5月11日(水) (2) 会場: 県社会福祉センター (3) 出席者: 県・市福祉関係課長, 県経営協正副会長等12人のうち10人出席</p>	<p>経営指導事業を推進するに当たり、情報収集及び関係行政機関・福祉団体との意見交換が図られた。</p>
<p>3 種別協議会の活動促進</p>	<p>所管部署 総務部, 地域福祉部</p>	<p>総務部, 地域福祉部</p>
<p>(1) 種別協議会研修費助成(8協議会)</p>	<p>① 県民生委員協議会 971千円 ② 県老人福祉施設協議会 500千円 ③ 県保育連合会 600千円 ④ 県知的障害者福祉協会 150千円 ⑤ 県児童養護協議会 200千円 ⑥ 県市町村社会福祉協議会連絡協議会 50千円 ⑦ 県障害者支援施設協議会 ⑧ 県母子生活支援施設協議会 50千円 [研修費助成総額:2,521千円] (⑦県障害者支援施設協議会は研修会中止のため助成なし。)</p>	<p>本会からの助成をとおして、種別協議会等の活動の円滑な事業実施を支援することができた。</p>
<p>(2) 種別協議会行事開催費助成(5行事)</p>	<p>① 知的障害者施設球技大会 400千円 ② 知的障害施設作品展示会 350千円 ③ 知的障害者関係施設文化祭 800千円 ④ 児童養護施設球技大会 300千円 ⑤ 社会就労センター協議会 300千円 [行事開催費助成総額:2,150千円]</p>	
<p>(3) 各種民生委員・児童委員研修への支援</p>	<p>① 各種研修会開催への支援 (4回) [研修会参加者 延べ 481人] ② 各種委員会等への支援 (17回)</p>	<p>各種研修会を開催することにより、高齢者の孤立・孤独の防止や児童虐待等社会的課題を学ぶことができ、各々の単位民児協及び各委員の日常活動の活性化が図られた。</p>

3 種別協議会の活動促進	事業実施概要等		所管部署	総務部, 地域福祉部
(4) その他 「かごしまおもいやりネットワーク事業」への支援	県社会福祉法人経営者協議会が、社会福祉法人連携による「地域における公益的な取組」として実施している「かごしまおもいやりネットワーク事業」について、周知・広報を行うとともに、研修会運営の支援を行った。		令和5年3月末現在 加入法人数：112法人 (施設経営法人85, 県市町村社協27)	具体的成果等
4 すこやか基金による活動助成等	(1) シルバー文化作品展「寺園賞」等の贈呈 すこやか基金の運用果実により、シルバー文化作品展入賞者へ記念品の贈呈を行った。 〈助成内容〉寺園勝志賞・県社協会長賞 〈助成額〉40,887円		総務部, 長寿社会推進部	高齢者の創作活動への励みとなっており、高齢者の生きがいづくりにつながった。
(2) 民間社会福祉活動等への助成 (計画：13件)	すこやか基金の運用果実により、次の県内の生活困窮者に対する支援を行う特定非営利活動法人・民間社会福祉団体等に活動に必要な機器等の備品購入助成を行った。 〔実績：12件 1,187,040円〕		財政基盤の弱い福祉事業所への助成を通じて、活動支援に資することができた。	財政基盤の弱い福祉事業所への助成を通じて、活動支援に資することができた。
〈すこやか基金助成状況〉			整備物品等	
No.	事業所名	助成額(円)		
1	野方deへそ会	100,000	テーブル 15	
2	大崎子ども食堂 いちごちゃん	100,000	冷蔵庫	
3	一般社団法人 一颯	100,000	マルチパーカー	
4	特定非営利活動法人障害児フォーラムかごしま	100,000	ノートパソコン ハットセット	
5	特定非営利活動法人徳之島インジエルクワ	98,970	ビジネスプリンター	
6	社会福祉法人栄光会 「茶のん家」	100,000	ノートパソコン	
7	おかえり子ども食堂	98,970	炊飯器 オブレンジ	
8	子ども食堂hanana	100,000	IH調理器 空気清浄機 トスター等	
9	特定非営利活動法人 林ノトあまみ	100,000	ハンガレット ipad	
10	一般社団法人鹿児島県フードバンクセンター	89,100	陳列棚	
11	cafe'ラジエ'みんなの食堂	100,000	ホットプレート レンジ IH調理器等	
12	特定非営利活動法人 DREAMワイルド	100,000	ノートパソコン ハットセット等	
		助成総額	1,187,040	

<p>(3) 福祉団体九州ブロック大会等助成 (3大会)</p>	<p>九州社会就労センター(セルブ)研究大会(令和4年10月12日開催) 100千円 第29回九州ブロック身体障害者相談員研修会(令和4年11月18日開催) 100千円 第56回全国ろうあ青年研究討論会(令和4年11月25-27日開催) 30千円 (助成合計額: 230千円)</p>
--------------------------------------	---

IV 福祉サービスの利用支援及び苦情解決の推進		福祉サービス利用支援事業の推進		福祉サービス利用支援室			
令和4年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等			
1	<p>(1) 基幹的社協としての相談・支援業務の実施 【所管：鹿児島市・三島村・十島村】</p> <p>(2) 市町村社協の支援（40か所）</p> <p>[契約締結件数及び契約終了件数（単位：人）]</p>	<p>福祉サービス利用支援事業を実施する基幹的社協（市町村社協）の円滑な事業運営を支援するための相談助言や情報提供等を行うとともに、鹿児島市において、福祉サービス利用の手続きや日常的な金銭管理等の利用者支援を行った。福祉サービス利用の手続きや日常的な金銭管理等の利用者支援は、次のとおりとなっている。</p>	<p>本事業の契約により、認知症や精神障害等で日常生活に支障のある方々が、住み慣れた地域で自立した生活が送れることの一助となった。</p> <p>・実利用者数：対前年度△13人</p>	所管部署	福祉サービス利用支援室		
基幹的社協名		契約締結件数		契約終了件数		実利用者数	
4年度		累計		4年度		累計	
① 県社協(鹿児島市分)	44	355	33	263	92	0	10
② 鹿屋市社協	5	418	16	353	65	2	16
③ 枕崎市社協	2	35	1	29	6	6	27
④ 阿久根市社協	12	227	8	171	56	1	27
⑤ 出水市社協	18	192	18	121	71	11	97
⑥ 指宿市社協	5	48	2	32	16	3	20
⑦ 西之表市社協	7	74	5	41	33	8	24
⑧ 垂水市社協	2	66	5	47	19	2	34
⑨ 薩摩川内市社協	15	506	13	408	98	0	10
⑩ 日置市社協	8	144	11	103	41	1	17
⑪ 曾於市社協	22	179	14	116	63	5	53
⑫ 霧島市社協	13	443	20	357	86	1	51
⑬ いちき串木野市社協	6	65	7	44	21	9	119
⑭ 南さつま市社協	3	311	9	263	48	4	86
⑮ 志布志市社協	16	197	12	131	66	2	44
⑯ 奄美市社協	6	308	9	254	54	4	29
⑰ 南九州市社協	4	109	3	88	21	12	124
⑱ 伊佐市社協	5	43	6	26	17	4	41
⑲ 始良市社協	14	221	20	154	67	1	25
⑳ さつま町社協	11	132	10	92	40	0	133
㉑ 長島町社協	0	14	0	6	8	294	5,166
㉒ 湧水町社協	7	67	7	44	23	307	3,882
		合計		294		3,882	
		※実利用者数＝契約締結件数（累計）－契約終了件数（累計）		23		1,284	

<p>(3) 契約締結審査会の開催 (12回)</p>	<p>福祉サービス利用支援事業の契約及び解約をするに当たり、利用希望者並びに解約希望者の判断能力等に疑義がある場合等、専門的見地から審査を行った。</p>	<p>6人の構成委員による審査や助言等により、本事業の契約締結等が適切に行われた。</p>																								
<p>(4) 専門員会議の開催 (2回)</p>	<p>相談から契約の締結に至るまでの業務を担う専門員の資質向上を図るための会議及び講演等を行った。</p> <p>【第1回】 〈開催日〉 令和4年7月29日(金) 〈会場等〉 県社会福祉センター別館会議室 (会場参加型とオンライン参加型の併用開催) 〈内容〉 ア 福祉サービス利用支援事業の実施状況及び実地業務調査等について イ 福祉サービス利用支援事業に係る事務処理について ウ 権利擁護センターの実践報告について エ 講演 「精神障害者における頻繁な訴えがある利用者の対応について」 〈参加者〉 60人(会場参加：6人、オンライン参加：54人)</p> <p>【第2回】 〈開催日〉 令和5年3月10日(金) 〈会場等〉 県社会福祉センター別館会議室 (会場参加型) 〈内容〉 ア 福祉サービス利用支援事業の実施状況及び実地業務調査結果等について</p>	<p>本事業の担い手である専門員に必要とされる知識や技術の習得により、今後の利用者支援への一助となった。</p> <p>・参加者数：対前年度△1人</p> <p>・参加者数：対前年度△23人</p>																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>開催日</th> <th>内 容</th> <th>出席者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>令和4年5月17日(火)</td> <td>審査案件(3件)、契約状況及び終了報告</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>令和4年7月19日(火)</td> <td>審査案件(2件)、契約状況及び終了報告</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>令和4年9月20日(火)</td> <td>審査案件(4件)、契約状況及び終了報告</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>令和5年1月17日(火)</td> <td>審査案件(3件)、契約状況及び終了報告</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>令和5年3月22日(水)</td> <td>審査案件(5件)、契約状況及び終了報告</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table>		回	開催日	内 容	出席者	第1回	令和4年5月17日(火)	審査案件(3件)、契約状況及び終了報告	6人	第2回	令和4年7月19日(火)	審査案件(2件)、契約状況及び終了報告	5人	第3回	令和4年9月20日(火)	審査案件(4件)、契約状況及び終了報告	5人	第4回	令和5年1月17日(火)	審査案件(3件)、契約状況及び終了報告	4人	第5回	令和5年3月22日(水)	審査案件(5件)、契約状況及び終了報告	3人	<p>(構成委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁護士 1人 ・司法書士 1人 ・精神科医 1人 ・社会福祉士 1人 ・精神保健福祉士 1人 ・学識経験者 1人 <p>計 6人</p>
回	開催日	内 容	出席者																							
第1回	令和4年5月17日(火)	審査案件(3件)、契約状況及び終了報告	6人																							
第2回	令和4年7月19日(火)	審査案件(2件)、契約状況及び終了報告	5人																							
第3回	令和4年9月20日(火)	審査案件(4件)、契約状況及び終了報告	5人																							
第4回	令和5年1月17日(火)	審査案件(3件)、契約状況及び終了報告	4人																							
第5回	令和5年3月22日(水)	審査案件(5件)、契約状況及び終了報告	3人																							

1	福祉サービス利用支援事業の推進	所管部署	福祉サービス利用支援室
令和4年度事業計画		具体的成果等	
事業実施概要等			
(5) 専門員セミナーの開催 (1回)	イ 福祉サービス利用支援事業に係る事務処理について (参加者) 35人 地域での暮らしを支える意思決定支援と権利擁護の積極的推進を担う専門員の資質向上等に資するためのセミナーを開催した。 (開催日) 令和5年3月10日(金) (会場等) 県社会福祉センター別館会議室 (会場参加型) (内容) ア 成年後見制度の利用促進における現状について イ 講演 「最後まで、一人暮らしの高齢者の生活を支える」 (参加者) 35人		福祉サービス利用支援事業を担当する専門員等の資質向上が図られ、適正な事業運営への理解が深められた。 ・参加者数：対前年度△23人
(6) 利用支援員研修会の開催 (5地区)	専門員の指示を受けて、具体的な支援を提供するとともに、利用者の生活状況の把握や利用料の徴収、支援実施記録票の作成等の業務を担う利用支援員を対象に、支援員の役割や支援の実務についての研修を実施した。 (開催日・会場・参加者) 令和4年10月31日(月) 川薩・出水会場 27人 令和4年11月24日(木) 大島会場 15人 令和4年12月1日(木) 始良・伊佐会場 24人 令和4年12月7日(水) 曾於・肝属会場 17人 令和4年12月9日(金) 鹿児島・南薩・熊毛会場 7人 計 90人 (内容) ア 福祉サービス利用支援事業の現状等について イ 講演 「高齢者等とのコミュニケーションの取り方」		実際の支援を行う利用支援員の実務や役割等の理解を深め、利用者支援に必要な知識を深めることができた。 ・参加者数：対前年度△4人

<p>(7) 実地等業務調査の実施 (40か所)</p>	<p>本事業は、利用者及び社会からの信頼の上になり立つ事業であることから、40か所の基幹的社協について、管理体制や取り組み状況及び預かり書類の確認等を行った。 〔実施状況〕 〈実地調査及び書類調査〉</p>	<p>基幹的社協の実態を把握し、指導・助言を行うことにより適正な事業実施の推進が図られた。</p>																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>基幹的社協名</th> <th>実施日</th> <th>基幹的社協名</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 枕崎市社協</td> <td>令和4年9月12日(月)</td> <td>⑪ 錦江町社協</td> <td>令和4年10月4日(火)</td> </tr> <tr> <td>② 南九州市社協</td> <td>令和4年9月12日(月)</td> <td>⑫ 肝付町社協</td> <td>令和4年10月20日(木)</td> </tr> <tr> <td>③ 日置市社協</td> <td>令和4年9月27日(火)</td> <td>⑬ 屋久島町社協</td> <td>令和4年10月26日(水)</td> </tr> <tr> <td>④ いちき串木野市社協</td> <td>令和4年10月3日(月)</td> <td>⑭ 奄美市社協</td> <td>令和4年11月2日(水)</td> </tr> <tr> <td>⑤ さつま町社協</td> <td>令和4年9月30日(金)</td> <td>⑮ 大和村社協</td> <td>令和4年11月1日(火)</td> </tr> <tr> <td>⑥ 長島町社協</td> <td>令和4年9月9日(金)</td> <td>⑯ 宇検村社協</td> <td>令和4年11月24日(木)</td> </tr> <tr> <td>⑦ 伊佐市社協</td> <td>令和4年9月22日(木)</td> <td>⑰ 龍郷町社協</td> <td>令和4年11月1日(火)</td> </tr> <tr> <td>⑧ 大崎町社協</td> <td>令和4年10月13日(木)</td> <td>⑱ 和泊町社協</td> <td>令和4年11月17日(木)</td> </tr> <tr> <td>⑨ 垂水市社協</td> <td>令和4年10月13日(木)</td> <td>⑲ 知名町社協</td> <td>令和4年11月17日(木)</td> </tr> <tr> <td>⑩ 鹿屋市社協</td> <td>令和4年10月17日(月)</td> <td>⑳ 与論町社協</td> <td>令和4年11月30日(水)</td> </tr> </tbody> </table>			基幹的社協名	実施日	基幹的社協名	実施日	① 枕崎市社協	令和4年9月12日(月)	⑪ 錦江町社協	令和4年10月4日(火)	② 南九州市社協	令和4年9月12日(月)	⑫ 肝付町社協	令和4年10月20日(木)	③ 日置市社協	令和4年9月27日(火)	⑬ 屋久島町社協	令和4年10月26日(水)	④ いちき串木野市社協	令和4年10月3日(月)	⑭ 奄美市社協	令和4年11月2日(水)	⑤ さつま町社協	令和4年9月30日(金)	⑮ 大和村社協	令和4年11月1日(火)	⑥ 長島町社協	令和4年9月9日(金)	⑯ 宇検村社協	令和4年11月24日(木)	⑦ 伊佐市社協	令和4年9月22日(木)	⑰ 龍郷町社協	令和4年11月1日(火)	⑧ 大崎町社協	令和4年10月13日(木)	⑱ 和泊町社協	令和4年11月17日(木)	⑨ 垂水市社協	令和4年10月13日(木)	⑲ 知名町社協	令和4年11月17日(木)	⑩ 鹿屋市社協	令和4年10月17日(月)	⑳ 与論町社協	令和4年11月30日(水)
基幹的社協名	実施日	基幹的社協名	実施日																																											
① 枕崎市社協	令和4年9月12日(月)	⑪ 錦江町社協	令和4年10月4日(火)																																											
② 南九州市社協	令和4年9月12日(月)	⑫ 肝付町社協	令和4年10月20日(木)																																											
③ 日置市社協	令和4年9月27日(火)	⑬ 屋久島町社協	令和4年10月26日(水)																																											
④ いちき串木野市社協	令和4年10月3日(月)	⑭ 奄美市社協	令和4年11月2日(水)																																											
⑤ さつま町社協	令和4年9月30日(金)	⑮ 大和村社協	令和4年11月1日(火)																																											
⑥ 長島町社協	令和4年9月9日(金)	⑯ 宇検村社協	令和4年11月24日(木)																																											
⑦ 伊佐市社協	令和4年9月22日(木)	⑰ 龍郷町社協	令和4年11月1日(火)																																											
⑧ 大崎町社協	令和4年10月13日(木)	⑱ 和泊町社協	令和4年11月17日(木)																																											
⑨ 垂水市社協	令和4年10月13日(木)	⑲ 知名町社協	令和4年11月17日(木)																																											
⑩ 鹿屋市社協	令和4年10月17日(月)	⑳ 与論町社協	令和4年11月30日(水)																																											
<p>〈書類調査〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">基幹的社協名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 指宿市社協</td> <td>⑧ 湧水町社協</td> </tr> <tr> <td>② 南さつま市社協</td> <td>⑨ 曾於市社協</td> </tr> <tr> <td>③ 薩摩川内市社協</td> <td>⑩ 志布志市社協</td> </tr> <tr> <td>④ 阿久根市社協</td> <td>⑪ 東串良町社協</td> </tr> <tr> <td>⑤ 出水市社協</td> <td>⑫ 南大隅町社協</td> </tr> <tr> <td>⑥ 霧島市社協</td> <td>⑬ 西之表市社協</td> </tr> <tr> <td>⑦ 始良市社協</td> <td>⑭ 中種子町社協</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑮ 南種子町社協</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑯ 瀬戸内町社協</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑰ 喜界町社協</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑱ 徳之島町社協</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑲ 天城町社協</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑳ 伊仙町社協</td> </tr> </tbody> </table>			基幹的社協名		① 指宿市社協	⑧ 湧水町社協	② 南さつま市社協	⑨ 曾於市社協	③ 薩摩川内市社協	⑩ 志布志市社協	④ 阿久根市社協	⑪ 東串良町社協	⑤ 出水市社協	⑫ 南大隅町社協	⑥ 霧島市社協	⑬ 西之表市社協	⑦ 始良市社協	⑭ 中種子町社協		⑮ 南種子町社協		⑯ 瀬戸内町社協		⑰ 喜界町社協		⑱ 徳之島町社協		⑲ 天城町社協		⑳ 伊仙町社協																
基幹的社協名																																														
① 指宿市社協	⑧ 湧水町社協																																													
② 南さつま市社協	⑨ 曾於市社協																																													
③ 薩摩川内市社協	⑩ 志布志市社協																																													
④ 阿久根市社協	⑪ 東串良町社協																																													
⑤ 出水市社協	⑫ 南大隅町社協																																													
⑥ 霧島市社協	⑬ 西之表市社協																																													
⑦ 始良市社協	⑭ 中種子町社協																																													
	⑮ 南種子町社協																																													
	⑯ 瀬戸内町社協																																													
	⑰ 喜界町社協																																													
	⑱ 徳之島町社協																																													
	⑲ 天城町社協																																													
	⑳ 伊仙町社協																																													
<p>(8) 関係機関・団体との連携</p>	<p>① 鹿児島県地域生活定着支援センター関係機関連絡会議 〈開催日〉 令和4年10月21日(金)</p>	<p>県及び関係機関等が主催する会議等へ出席し、関係者との意</p>																																												

<p>1 福祉サービス利用支援事業の推進 令和4年度事業計画</p>	<p>事業実施概要等</p>	<p>所管部署 福祉サービス利用支援室</p>
	<p>〈参加機関・団体〉 県保護司会連合会、県更生保護女性連盟、更生保護法 人草牟田寮、県知的障害者福祉協議会、県老人福祉施設 協議会、県民生福祉会、県障害者職業センター、鹿児島 会、県社会福祉士会、鹿児島保健観察所、鹿児島 健福局職業安定部職業課、鹿児島保健観察所、鹿 児島刑務所、鹿児島少年鑑別所、県精神保健福祉セン ター、県子ども総合療育センター、鹿児島知的障害者 更生相談所、かごしま子ども・若者総合相談センター、 県社会福祉課、県高齢者生き生き推進課、県障害福祉 課、県青少年男女共同参画課、鹿児島地方検察庁、県 弁護士会、県地域生活定着支援センター 令和3年度鹿児島地域生活定着支援センター事 業報告</p> <p>〈内 容〉</p>	<p>見交換を行い本事業についての理解が得られ、事業を推進する ための関係機関等とのネットワ ーク構築が図られた。</p>
<p>② 鹿児島市成年後見制度推進協議会 〈開催日〉 令和4年5月23日(月) 令和4年8月29日(月) 令和5年3月17日(金)</p> <p>〈参加機関・団体〉</p>	<p>県社会福祉士会、県弁護士会、成年後見センター・リ ーガルサポート会、鹿児島支店、南九州税理士会鹿児島県 連合会、コスモス保健福祉士協会、市社会福祉協議会、県 社会福祉協議会、市地域包括支援センター、市障害者基 幹相談支援センター、特定非営利活動法人介護支援専 門員協会鹿児島、県医師会、市老人福祉施設協議会、市 知的障害者施設連絡協議会、市公益社団法人認知症の人と 民生委員児童福祉協議会、市健康福祉局育成会、市精 家族の会鹿児島支店、県銀行協会、市健康福祉局す 保健福祉会連絡協議会、市健康福祉局福祉部 こやか長寿部、市健康福祉局福祉部 令和4年度鹿児島市成年後見センター業務実績に ついて</p> <p>〈内 容〉</p>	

	<p>イ 令和5年度鹿児島市成年後見センター業務計画について</p> <p>ウ 「鹿児島市成年後見制度利用促進計画」に基づく今後のスケジュールについて</p> <p>エ 第二期成年後見制度利用促進基本計画の概要について</p> <p>オ 受任者調整について 等</p>	
<p>(9) 広報・啓発活動の推進</p>	<p>① 県内各種関係機関団体研修会等での広報・啓発活動 ア 被保護世帯法律問題研修 〈開催日〉令和4年7月25日(月) 〈会場〉県社会福祉センター 〈参加者〉県・市ケースワーカー等 29人 〈内容〉福祉サービス利用支援事業について</p> <p>② リーフレットの配布 基幹的社協や行政等の関係機関に配布して、事業の広報に努めた。</p> <p>③ 本会広報紙「ふくしのひろば」への情報掲載等 事業内容や連絡先等を広報紙に掲載し、県内の各機関団体等に配布したほか、ホームページ等を通じて本事業の広報に努めた。</p>	<p>事業の説明や広報紙等の配布を行うことにより、本事業への理解及び協力体制が深められた。</p>
<p>2 福祉サービス苦情解決事業の推進</p> <p>(1) 福祉サービス運営適正化委員会の運営 ア 運営適正化委員会の開催 3回(5月,11月,3月) イ 福祉サービス利用支援事業運営監視委員会の開催及び福祉サービス利用支援事業実施社協現地訪問調査の実施 委員会4回(5月,9月,11月,3月) 訪問調査12か所(7~11月)</p>	<p>県社協に第三者機関として設置されている「福祉サービス運営適正化委員会」を運営し、福祉サービスの適正な運営を確保するとともに、福祉サービスに関する利用者等からの苦情の適切な解決に努めた。 また、多様化する苦情等の解決に向けた取組や情報共有等を図るため、九州ブロックの運営適正化委員会協議のほか、全社協研修会等にオンラインで参加した。 ① 運営適正化委員会 3回 ② 運営監視委員会 4回 ③ 運営監視委員会による福祉サービス利用支援事業実施社協現地訪問調査 12か所</p>	<p>所管部署 長寿社会推進部</p> <p>定期的な委員会開催により、福祉サービス利用支援事業の適正な運営が確保されるとともに、利用者等からの苦情に対して速やかな対応がなされた。 また、九州ブロックの運営適正化委員会協議のほか、全社協主催の研修会等にオンライン参加し、苦情案件の対応や事業所における苦情解決体制整備など情報交換の機会を得ることができた。</p>

2 福祉サービス苦情解決事業の推進	所管部署	長寿社会推進部
令和4年度事業計画		具体的成果等
事業実施概要等		
<p>ウ 福祉サービスに関する苦情解決委員会の開催6回(5月,7月,9月,11月,1月,3月)</p> <p>エ 運営適正化委員会委員を選考する選考委員会の開催1回(10月)</p> <p>オ 九州ブロック運営適正化委員会事務局連絡会議への参加1回(福岡県)</p>	<p>④ 苦情解決委員会 6回</p> <p>⑤ 運営適正化委員会委員を選考する選考委員会 1回</p> <p>⑥ 九州ブロック運営適正化委員会事務局連絡会議 1回</p>	
<p>(2) 相談・苦情の受付</p>	<p>福祉サービス利用者等からの苦情の受付 84件</p> <p>[内訳]</p> <p>① 申出人：利用者42件，家族33件，職員3件，その他6件</p> <p>② 対象種別：高齢者15件，障害者49件，児童15件，その他5件</p> <p>③ 解決結果：相談助言65件，紹介伝達12件，あっせん0件，県への通知0件，その他5件，継続中0件，不調2件</p> <p>その他問い合わせ・相談の受付 21件</p>	<p>受け付けた苦情については，助言や適切な機関等への伝達を図ることで，利用者等の福祉サービス利用につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苦情の受付件数 対前年度△15件 ・ その他問い合わせ件数 対前年度△37件
<p>(3) 広報・啓発活動の実施</p> <p>ア 広報紙「ふくしのひろば」，ホームページへの掲載</p> <p>イ ポスター・リーフレットの配布</p>	<p>① 広報紙「ふくしのひろば」への掲載(1回)</p> <p>② 本会ホームページによる広報啓発</p> <p>③ ポスター，リーフレットの配布</p> <p>ポスター配布数：457部，リーフレット配布数：409部</p>	<p>ホームページに調査結果や関係資料等を掲載するなど内容充実を図り，福祉関係者及び一般県民へのより一層の制度周知につながった。</p>
<p>(4) 研修会の実施</p> <p>相談・苦情解決事業に関する研修会(初級編)1回(9月頃)</p>	<p>令和4年度福祉サービスに関する相談・苦情解決事業研修会(初級編)の開催</p> <p>〈開催日〉令和4年9月26日(月)</p> <p>〈開催方法〉オンライン(Zoom)開催</p> <p>〈参加者〉苦情受付担当者・苦情解決責任者・第三者委員200人</p> <p>〈内容〉講義1：「運営適正化委員会の取り組み状況について」</p>	<p>事業者に必要な苦情解決の取組の基本や苦情解決に必要な基本的対応等を学んだことで，各事業所における苦情対応への参考となり，苦情受付担当者・解決責任者・第三者委員の役割と</p>

	<p>鹿児島県福祉サービス運営適正化委員会 副委員長 元 鹿児島純心女子大学教授 八田 冷子 氏 講義2：「苦情解決制度と苦情相談への対応」 ルーテル学院大学 総合人間学部 教授 福島 喜代子 氏</p>	<p>対応について、なお一層の理解が深まった。 ・参加者数：対前年度△114人</p>
<p>(5) 事業所への巡回訪問の実施 30か所</p>	<p>社会福祉事業の事業者段階における自主的な苦情解決が適切に行われるよう、県内の各事業所を訪問して苦情解決体制の整備状況を把握するとともに、体制整備に関する相談・助言に応じ、福祉サービスの質の向上につながることでできる苦情解決体制の構築に向けて、県内30事業所への巡回訪問を実施した。 (巡回内訳) 高齢分野事業所：10か所、児童分野事業所：10か所 障害分野事業所：10か所</p>	<p>巡回訪問を行った結果、それぞれの体制整備状況を把握でき、かつ第三者委員等の体制整備が図られていない事業所について、体制整備の構築につながった。</p>
<p>(6) 調査研究活動の実施 苦情解決マニュアルの改訂等</p>	<p>福祉サービス事業所において適切な苦情解決が図られるよう標準的な対応手順や苦情解決における留意事項をまとめた「苦情対応マニュアル（平成27年度作成・第2版）」を一部改訂して第3版として作成し、関係様式等データと併せてホームページ上で公表した。</p>	<p>改訂版「苦情対応マニュアル」と関係様式データを、ホームページ等で提供することで各事業所における苦情解決体制整備を促した。</p>

V 福祉人材の養成・確保		福祉人材・研修センター
1	福祉人材の安定的な確保を図るための支援	所管部署
令和4年度事業計画		具体的成果等
<p>(1) 福祉人材無料職業紹介業務 ア 求人開拓, 求人求職登録, 紹介あっせん</p>	<p>福祉施設及び福祉系学校を訪問し, 福祉人材無料職業紹介所の利用促進と求人求職者の開拓及び各種情報提供を行った。 また, 求人施設及び求職者に対して, 求人求職登録を推進した。</p> <p>① 求人求職者開拓 〈訪問延箇所数〉 968か所 (事業所 694か所, 学校等 274か所) 〈求人求職登録, 紹介あっせん業務〉 81人 ※3月末末数。4~3月累計は764人 409人 ※3月末末数。4~3月累計は7,092人 61人 ※ハローワーク相談等での実績含む。 ③ 相談件数 1,983件</p>	<p>キャリア支援専門員が中心となって福祉施設及び福祉系学校等を訪問することにより, 福祉人材無料職業紹介所の周知と利用促進に資することができた。 また, 求人や求職者の登録, 紹介あっせん業務を通じ, 求職者の就業支援及び福祉職場の人材確保に資することができた。</p>
<p>イ 広報誌, インターネット等 による各種情報の提供</p>	<p>福祉保健職場へ就職を希望する人等に対し, 事業所情報, 求人情報, 各種講座, イベントの開催, 資格取得方法等の詳細情報をメール配信やSNS (Facebook) 等により提供した。</p>	<p>事業所・求人情報や講座・イベント開催, 資格取得方法等の詳細情報提供により, 求職者の就業支援に資することができた。</p>
<p>ウ 関係機関・団体との連携, 情報交換</p>	<p>福祉人材無料職業紹介事業を円滑に推進するため「無料職業紹介事業に係る連絡会議」を開催した。 〈開催日〉 令和4年7月1日(金) 〈会場〉 県社会福祉センター 〈参加者〉 鹿児島労働局職業安定課, 県看護協会ナースセンター, 鹿児島公共職業安定所, 県社会福祉課, 県医師協同組合, 県社会福祉課, 県社協福祉人材・研修センター 〈議題〉 所管事業の最近の動向, 福祉・保健医療職場の人材確保に関する情報交換及び事業面での協力・連携について</p>	<p>無料職業紹介事業に係る連絡会議の開催により, 人材確保に向けた関係機関・団体との連携を円滑に行うことができた。</p>
<p>(2) 福祉・保健医療職場就職ガイダンスの開催 令和4年8月7日(日) 会場 鹿児島市</p>	<p>福祉・保健医療職場の人材確保及び就職希望者の求職活動を支援するため, 「就職ガイダンス」を開催した。 〈開催日〉 令和4年8月7日(日) 〈会場〉 鹿児島カトリックホテル 〈参加者〉 81法人 (65ブース) ※オンライン面談: 12法人 〈求人数〉 607人</p>	<p>福祉・保健医療職場に就職を希望する求職者と求人事業者が直接面談するイベントを開催することにより, 福祉・保健医療職場の人材確保及び就職希望者の求職活動が支援できた。</p>

<p>(3) 福祉の職場就職面談会の開催 ア 開催日 令和5年1月28日(土) イ 会場 鹿児島市</p>	<p>〈参加求職者〉 69人 〈面談者延人数〉 244人 〈採用決定者数〉 7人 〈共催団体〉 全国社会福祉協議会など4団体</p> <p>福祉の職場の人材確保及び就職希望者の求職活動を支援するため、「就職面談会」を開催した。 〈開催日〉 令和5年1月28日(土) 〈会場〉 かごしま県民交流センター 〈参加法人〉 58法人(40ブース) ※オンライン面談:13法人 〈求人数〉 495人 〈参加求職者〉 40人 〈面談者延人数〉 91人 〈採用決定者数〉 2人 〈共催団体〉 鹿児島公共職業安定所</p>	<p>年度末に向けて求人が多くなく、下半期に求職・求人側が直接面談するイベントを開催することと、福祉職場の人材確保及び就職希望者の求職活動が支援できた。</p>
<p>(4) 福祉人材総合メニュー講座の開催 ア 福祉職場就職支援講座 令和4年10月29日(土), 11月5日(土)</p>	<p>福祉に係る知識・介護技術の習得等、福祉人材に関する情報を提供するため各種講座を開催した。 ① 福祉職場就職支援講座 〈開催日〉 令和4年10月29日(土), 11月5日(土) 〈回数〉 全4講座 〈会場〉 かごしま県民交流センター 〈参加人員〉 全4講座で延べ19人 〈対象者〉 福祉職場に就職・復職を希望する一般の方々及び学生 〈内容〉 福祉の基礎知識及び介護技術の基礎(立位, ベッド上での移動, 車いす介助, 衣服着脱, 排泄介助) など</p>	<p>福祉についての理解を深めてもらうとともに、進路選択や福祉の職場で働くために必要な知識や技術を習得してもらい、福祉職場への理解と就職活動への支援に資することができた。</p>
<p>イ 福祉職場就活応援セミナー (2)の就職ガイダンスと同日開催</p>	<p>② 福祉人材養成講座(福祉職場就活応援セミナー) 〈開催日〉 令和4年8月7日(日) 〈会場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈参加人員〉 47人 〈対象者〉 福祉職場への就職を希望するなど福祉に関心がある者(シニア層含), 大学, 短大, 専門学校等の最終学年在学者 (1) 福祉の職場の現状と就職の心構え (2) 福祉のお仕事紹介(老人福祉施設, 障害者福祉施設, 児童養護施設, 老人保健施設)</p>	<p>就職希望者に福祉職場の概要等を学ぶ機会を提供することで、現場の雰囲気や伝わり、福祉職場に関するイメージアップと就職面談会での面談の促進に資することができた。</p>

1	福祉人材の安定的な確保を図るための支援	所管部署	福祉人材・研修センター																																													
	<p style="text-align: center;">事業実施概要等</p>	具体的成果等																																														
<p>(5) 福祉人材確保支援セミナーの開催</p> <p>開催日 令和4年9月5日(火)</p> <p>会場 歴史・美術センター 黎明館</p>	<p>質の高い福祉人材を安定的に確保し、また、安定した福祉経営を確立するため、適切な労務管理や働きやすい職場づくりなど、福祉職員の定着のための方策を学ぶセミナーを開催した。</p> <p>〈開催日〉 令和4年9月5日(火)</p> <p>〈会場〉 歴史・美術センター黎明館</p> <p>〈参加者〉 61人</p> <p>〈対象者〉 社会福祉法人代表者・役員、社会福祉施設等の施設長・事務長・人事担当者等</p> <p>〈内容〉 (1) 「育児・介護休業法の改正とパワハラ対策」 (2) 「職場のトラブル予防等について」 (3) 「最近の福祉動向とこれからの人材確保」</p>	<p>雇用や社会保険等、時宜を得たテーマを取り上げたり、安定した福祉経営と福祉人材の確保・定着に資する情報を提供することができた。</p>																																														
<p>2</p>	<p style="text-align: center;">福祉・介護人材確保事業</p>	<p>所管部署</p>	<p>福祉人材・研修センター</p>																																													
<p>(1) キャリア支援専門員の配置</p> <p>県社協本所2人</p> <p>鹿屋市社協1人</p> <p>奄美市社協1人</p> <p>合計4人</p>	<p>キャリア支援専門員4人を次のとおり配置し、求職者のニーズに合わせた職場開拓や職場紹介等を行った。</p> <p>① 配置先 県社協本所2人、鹿屋市駐在(市社協)1人、 奄美市駐在(市社協)1人 合計4人</p> <p>② キャリア支援専門員巡回活動状況</p> <table border="1" data-bbox="925 817 1220 1534"> <thead> <tr> <th>各ブロック</th> <th>訪問施設延件数</th> <th>相談</th> <th>紹介</th> <th>採用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鹿児島</td> <td>52</td> <td>147</td> <td>66</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>南薩・種子・屋久</td> <td>7</td> <td>19</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>始良・伊佐</td> <td>16</td> <td>306</td> <td>29</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>日置</td> <td>3</td> <td>54</td> <td>25</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>大隅</td> <td>108</td> <td>557</td> <td>70</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>北薩</td> <td>29</td> <td>146</td> <td>60</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>大島</td> <td>753</td> <td>539</td> <td>36</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>968</td> <td>1,768</td> <td>287</td> <td>61</td> </tr> </tbody> </table>	各ブロック	訪問施設延件数	相談	紹介	採用	鹿児島	52	147	66	2	南薩・種子・屋久	7	19	1	0	始良・伊佐	16	306	29	9	日置	3	54	25	0	大隅	108	557	70	29	北薩	29	146	60	0	大島	753	539	36	21	計	968	1,768	287	61	<p>キャリア支援専門員の巡回により、管轄下の施設・事業所との連携が図られ、求職者のニーズに合わせた職場開拓等や、求人施設と求職者のマッチングを行い、円滑な就労・定着等が図られた。</p> <p>・当事業による採用 61人</p>	
各ブロック	訪問施設延件数	相談	紹介	採用																																												
鹿児島	52	147	66	2																																												
南薩・種子・屋久	7	19	1	0																																												
始良・伊佐	16	306	29	9																																												
日置	3	54	25	0																																												
大隅	108	557	70	29																																												
北薩	29	146	60	0																																												
大島	753	539	36	21																																												
計	968	1,768	287	61																																												
<p>(2) 就職面談会の開催 (県内2か所)</p>	<p>福祉職場の人材確保及び就職希望者の求職活動を支援するため、就職面談会を開催した。</p> <p>① 介護の職場就職面談会《鹿屋市》 〈開催日〉 令和4年9月17日(土)</p>	<p>地方で求職者と求人事業所が直接面談するイベントを開催することで、福祉職場の人材確保及び就職希望者の求職活動が支</p>																																														

	<p>〈会場〉かのやグランドホテル 〈参加人数〉18法人（18ブース） 119人 〈参加求職者〉25人 〈面談者延人数〉59人 〈採用決定者数〉3人 〈共催団体〉鹿屋・大隅公共職業安定所，鹿屋市，鹿屋市社会福祉協議会</p> <p>② 介護の職場面談会《薩摩川内市》 〈開催日〉令和4年11月26日（土） 〈会場〉薩摩川内市総合福祉会館 〈参加人数〉21法人（18ブース）※うちオンライン面談：3法人 135人 〈参加求職者〉20人 〈面談者延人数〉45人 〈採用決定者数〉1人 〈共催団体〉川内・出水・伊集院・宮之城・大口公共職業安定所，薩摩川内市，薩摩川内市社会福祉協議会</p>	<p>援できた。</p>
<p>3 外国人介護人材受入支援事業</p>	<p>技能実習生等を対象とする外国人介護人材集合研修の実施 期日 令和4年12月～令和5年3月 実施地域 県内7地域（鹿児島，南薩，北薩，始良・伊佐，大隅，熊毛，大島）</p> <p>ウ 回数 14回（7地域×2回）</p> <p>県内の介護事業所で働く外国人技能実習生等を対象として、オンラインによる講義（座学）を1回，集合研修方式による演習を県内5地区で実施した。</p> <p>① オンラインによる講義（座学） 1回実施 ○開催日 令和5年1月19日（木） ○参加者 32事業所，71人 ○講義内容 ・接遇及び鹿児島のごとは ・介護現場で使う日本語 ・感染症予防対策 ・介護記録の書き方 ② 集合研修方式による演習（実技） 4回実施 ○開催月 令和5年2月 ○参加者 33事業所，76人 ○実施地区 5地区（鹿児島，南薩，北薩，始良・伊佐，大隅）</p>	<p>所管部署 福祉人材・研修センター</p> <p>入国後の期間が短い外国人技能実習生に対するオンライン講義及び集合研修による演習を通じて、相互交流を図り，生活や介護に関する不安を払拭するとともに，介護に関する基本的な知識や技能を深め，円滑な就労と職場への定着に資することができた。</p>

3	外国人介護人材受入支援事業	<p>所管部署</p> <p>福祉人材・研修センター</p>	<p>具体的成果等</p>																												
<p>事業実施概要等</p>																															
<p>○講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の技能（高齢者・障害者への理解を含む） <p>※ 鹿児島、南薩地区は合同開催、また、開催予定の熊毛、大島地区については、参加希望者がいなかったため、未開催となった。</p>																															
4	介護福祉士修学資金等の貸付	<p>所管部署</p> <p>生活支援部</p>	<p>修学資金等の貸付により、若者や他業種で働いていた方等の福祉・介護分野への参入が促進され、質の高い人材の確保と定着のための環境整備が図られた。</p>																												
<p>(1) 介護福祉士修学資金(等)貸付事業</p> <p>介護福祉士修学資金貸付 介護職を目指す学生に対する修学資金等の貸付 (7) 修学金(月額) 50千円以内 (4) 入学準備金 200千円以内(初回交付時) (9) 就職準備金 200千円以内(最終回交付時) (1) 生活費加算(月額)30千円以内 ※ (1)は生活保護世帯等が対象</p> <p>イ 介護福祉士実務者研修受講資金貸付 介護福祉士の資格取得を目指す実務者研修受講者に対する受講資金の貸付 (7) 貸付額 100千円以内</p> <p>ウ 介護人材再就職準備金貸付 離職した介護職員で介護職へ再就職する者に対する再就職準備金の貸付 (7) 貸付額 400千円以内</p> <p>エ 障害福祉分野就職支援金貸付 他業種で働いていた方等に対する障害福祉分野への就職支援金の貸付 (7) 貸付額 200千円以内</p> <p>オ 福祉系高校修学資金返還充当資金貸付 介護分野以外の障害福祉等福祉分野に就職した場合における返還金相当額の新たな貸付</p> <p>[令和4年度貸付状況] (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="718 739 957 1545"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>計</th> <th>画</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護福祉士修学資金</td> <td>72</td> <td></td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>介護福祉士実務者研修受講資金</td> <td>40</td> <td></td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>介護人材再就職準備金</td> <td>10</td> <td></td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>障害福祉分野就職支援金</td> <td>10</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>福祉系高校修学資金返還充当資金</td> <td>3</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>135</td> <td></td> <td>121</td> </tr> </tbody> </table>				区分	計	画	実績	介護福祉士修学資金	72		79	介護福祉士実務者研修受講資金	40		33	介護人材再就職準備金	10		7	障害福祉分野就職支援金	10		1	福祉系高校修学資金返還充当資金	3		1	合計	135		121
区分	計	画	実績																												
介護福祉士修学資金	72		79																												
介護福祉士実務者研修受講資金	40		33																												
介護人材再就職準備金	10		7																												
障害福祉分野就職支援金	10		1																												
福祉系高校修学資金返還充当資金	3		1																												
合計	135		121																												

<p>(2) 福祉系高校修学資金貸付事業 福祉系高校に通う学生に対する修学資金の貸付 (7) 修学準備金 (入学金を除く) 30千円以内 (4) 介護実習費 30千円以内 (年額) (6) 国家試験受験対策費用 40千円以内 (年額) (5) 就職準備金 200千円以内 (就職する場合及び最終回に限る)</p>	<p>[令和4年度貸付状況] (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>計画</th> <th>実績</th> </tr> <tr> <td>福祉系高校修学資金</td> <td>202</td> <td>12</td> </tr> </table> <p>事業の円滑な実施を図るため、福祉系高校8校を対象に、担当者会議を開催した。 (期日) 令和4年5月10日(火) (開催方法) Web会議システム (Zoom) (内容) 制度の概要説明</p>	区分	計画	実績	福祉系高校修学資金	202	12																			
区分	計画	実績																								
福祉系高校修学資金	202	12																								
<p>(3) 介護分野就職支援金貸付事業 他業種で働いていた方等に対する介護分野への就職支援金の貸付 (7) 貸付額 200千円以内</p>	<p>[令和4年度貸付状況] (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>計画</th> <th>実績</th> </tr> <tr> <td>介護分野就職支援金</td> <td>15</td> <td>12</td> </tr> </table> <p>平成21年度から平成23年度までの3年間に貸し付けた介護福祉士等修学資金借受者について、返還などの償還管理を行った。 ※参考：貸付(送金)は、平成27年度で終了。</p>	区分	計画	実績	介護分野就職支援金	15	12																			
区分	計画	実績																								
介護分野就職支援金	15	12																								
<p>(4) 介護福祉士(等)修学資金貸付事業 平成21年度から平成23年度までの3年間に介護福祉士コース等の学生に貸し付けた修学資金の償還管理</p>	<p>[令和4年度の状況] ① 返還免除 0人 ② 返還状況 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>償還計画額 A</th> <th>償還済額 B</th> <th>未償還額 (A-B)</th> <th>償還率 % (B/A*100)</th> <th>返還対象人数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>過年度分</td> <td>4,004</td> <td>452</td> <td>3,552</td> <td>11.3</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>現年度分</td> <td>348</td> <td>348</td> <td>0</td> <td>100.0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,352</td> <td>800</td> <td>3,552</td> <td>18.4</td> <td>実人員 7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	償還計画額 A	償還済額 B	未償還額 (A-B)	償還率 % (B/A*100)	返還対象人数 (人)	過年度分	4,004	452	3,552	11.3	6	現年度分	348	348	0	100.0	1	計	4,352	800	3,552	18.4	実人員 7	
区分	償還計画額 A	償還済額 B	未償還額 (A-B)	償還率 % (B/A*100)	返還対象人数 (人)																					
過年度分	4,004	452	3,552	11.3	6																					
現年度分	348	348	0	100.0	1																					
計	4,352	800	3,552	18.4	実人員 7																					
<p>5 保育士修学資金貸付等事業</p> <p>(1) 保育士修学資金貸付 保育士養成施設に通う学生に対し、修学資金の貸付を行う。 ア 貸付月額：60千円以内(2年間を限度) イ 入学準備金：200千円以内(初回交付時) ウ 就職準備金：200千円以内(卒業時)</p>	<p>保育士を目指す学生の就学を支援するとともに、卒業後の保育現場への就労・定着を促進するため、修学資金を貸付けた。</p>	<p>生活支援部</p> <p>所管部署</p> <p>保育士を目指す学生の就学を容易にすることにより、質の高い保育士の養成と県内の保育現場の人材確保に向けて環境整備が図られた。</p>																								

5	保育士修学資金貸付等事業	所管部署	生活支援部																																
令和4年度事業計画																																			
<p>(2) 未就学児を持つ保育士に対する 保育料の一部貸付 <small>未就学児を持つ潜在保育士に対し、自身が支払うべき未就学児の保育料の一部貸付を行う。</small> ○貸付月額：27千円以内(1年間を限度)</p>																																			
<p>(3) 就職準備金 <small>潜在保育士に対し、再就職する場合の就職準備金の貸付を行う。</small> ○貸付額：200千円以内(1回限り)</p>																																			
<p>事業実施概要等</p> <p>[令和4年度貸付状況] (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="344 772 497 1556"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>計画</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士修学資金貸付</td> <td>50</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>未就学児を持つ保育士に対する保育料の一部貸付</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>就職準備金</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>58</td> <td>49</td> </tr> </tbody> </table>				区分	計画	実績	保育士修学資金貸付	50	49	未就学児を持つ保育士に対する保育料の一部貸付	4	0	就職準備金	4	0	合計	58	49																	
区分	計画	実績																																	
保育士修学資金貸付	50	49																																	
未就学児を持つ保育士に対する保育料の一部貸付	4	0																																	
就職準備金	4	0																																	
合計	58	49																																	
社会福祉事業従事者等研修																																			
<p>(1) 県委託研修 ア 社会福祉施設等職員研修 (6コース)</p>																																			
<p>社会福祉事業従事者の資質向上等を図るため、次の研修を実施した。 ア 社会福祉施設等職員研修 (6コース)</p>																																			
<table border="1" data-bbox="821 259 1404 1601"> <thead> <tr> <th>研修区分 (受講対象)</th> <th>実施日</th> <th>受講者数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 新任職員研修 (総年数1~2年目の新任職員)</td> <td>令和4年5月11日~12日 6月27日~28日</td> <td>109人</td> <td>・受講者数：対前年度 △24人</td> </tr> <tr> <td>② 中堅職員研修 (社会福祉施設等に勤務する中堅職員)</td> <td>令和4年7月21日~22日</td> <td>80人</td> <td>・受講者数：対前年度 +43人</td> </tr> <tr> <td>③ 監督職員研修 (指導対場にある職員)</td> <td>令和4年12月12日~13日</td> <td>31人</td> <td>・受講者数：対前年度 +4人</td> </tr> <tr> <td>④ 施設長等運営管理職員研修 (正副施設長、事務長の運営管理職員)</td> <td>令和4年11月9日</td> <td>14人</td> <td>・受講者数：対前年度 △8人</td> </tr> <tr> <td>⑤-1 社会福祉施設監事等 研修 (法人の理事、監事及び施設長・事務長)</td> <td>令和4年10月5日</td> <td>45人</td> <td>・受講者数：対前年度 +24人</td> </tr> <tr> <td>⑤-2 市町村社会福祉協議会 監事研修 (市町村社協の監事)</td> <td>令和4年10月31日</td> <td>44人</td> <td>・受講者数：対前年度 +7人</td> </tr> <tr> <td>⑥ へき地保育所保育士・児童 厚生員研修 (大島地区)</td> <td>令和4年8月28日</td> <td>9人</td> <td>・受講者数：対前年度 △13人</td> </tr> </tbody> </table>				研修区分 (受講対象)	実施日	受講者数	備考	① 新任職員研修 (総年数1~2年目の新任職員)	令和4年5月11日~12日 6月27日~28日	109人	・受講者数：対前年度 △24人	② 中堅職員研修 (社会福祉施設等に勤務する中堅職員)	令和4年7月21日~22日	80人	・受講者数：対前年度 +43人	③ 監督職員研修 (指導対場にある職員)	令和4年12月12日~13日	31人	・受講者数：対前年度 +4人	④ 施設長等運営管理職員研修 (正副施設長、事務長の運営管理職員)	令和4年11月9日	14人	・受講者数：対前年度 △8人	⑤-1 社会福祉施設監事等 研修 (法人の理事、監事及び施設長・事務長)	令和4年10月5日	45人	・受講者数：対前年度 +24人	⑤-2 市町村社会福祉協議会 監事研修 (市町村社協の監事)	令和4年10月31日	44人	・受講者数：対前年度 +7人	⑥ へき地保育所保育士・児童 厚生員研修 (大島地区)	令和4年8月28日	9人	・受講者数：対前年度 △13人
研修区分 (受講対象)	実施日	受講者数	備考																																
① 新任職員研修 (総年数1~2年目の新任職員)	令和4年5月11日~12日 6月27日~28日	109人	・受講者数：対前年度 △24人																																
② 中堅職員研修 (社会福祉施設等に勤務する中堅職員)	令和4年7月21日~22日	80人	・受講者数：対前年度 +43人																																
③ 監督職員研修 (指導対場にある職員)	令和4年12月12日~13日	31人	・受講者数：対前年度 +4人																																
④ 施設長等運営管理職員研修 (正副施設長、事務長の運営管理職員)	令和4年11月9日	14人	・受講者数：対前年度 △8人																																
⑤-1 社会福祉施設監事等 研修 (法人の理事、監事及び施設長・事務長)	令和4年10月5日	45人	・受講者数：対前年度 +24人																																
⑤-2 市町村社会福祉協議会 監事研修 (市町村社協の監事)	令和4年10月31日	44人	・受講者数：対前年度 +7人																																
⑥ へき地保育所保育士・児童 厚生員研修 (大島地区)	令和4年8月28日	9人	・受講者数：対前年度 △13人																																
所管部署		福祉人材・研修センター 長寿社会推進部																																	
具体的成果等																																			

イ 社会福祉行政職員研修 (1コース)	イ 社会福祉行政職員研修 (1コース)			
① 社会福祉行政職員研修 (福祉事務所及び各種相談所並びに県立福祉施設に勤務する職員(生活保護担当者除く))	実施日	令和4年10月19日	受講者数	9人
	備考			・受講者数：対前年度 △4人
ウ 被保護世帯法律問題等研修 (5コース)	ウ 被保護世帯法律問題等研修 (5コース) 受講対象者：県・市町村福祉事務所等の生活保護担当職員			
	実施日	令和4年5月19日～20日	受講者数	67人
① 新任生活保護担当職員研修		令和4年6月7日～8日		・受講者数：対前年度 +11人
② 生活保護担当職員研修		令和4年7月25日～26日		・受講者数：対前年度 +1人
③ 法律問題研修 (扶養)		令和4年8月18日～19日		・受講者数：対前年度 △8人
④ 法律問題研修 (資産)		令和4年9月1日～2日		・受講者数：対前年度 +1人
① 法律問題研修 (他法他施策)				・受講者数：対前年度 +13人
エ 福祉サービス第三者評価調査者継続研修 (2コース)	福祉サービス第三者評価調査者に対して、業務を継続的に実施するために必要な知識等の付与及び資質向上のための福祉サービス第三者評価調査者継続研修を実施した。 〈開催日〉 令和4年7月30日, 9月10日 〈開催方法〉 オンライン(Zoom)開催 〈対象者〉 鹿児島県の評価調査者養成研修修了者名簿に記載されている者 〈受講者数〉 41人 〈内容〉 行政説明「第三者評価の実施状況と課題」 講義「地域共生社会と社会福祉法人の役割」 事例研修「事例に学ぶ役割の実践」			円滑な評価が行えるよう演習主体の研修を実施することで、調査者の資質向上が図られた。
(2) 独自研修 (社会福祉関係職員課題別研修) 〈開催方法〉 オンライン(Zoom)開催 ※救急法研修は、県社会福祉センター別館	社会福祉関係職員課題別研修			
ア 職場内研修担当者研修 (養成1回, フォローアップ1回)	実施日	令和4年10月12日～13日	受講者数	20人
① 職場内研修担当者研修 養成コース(職場内研修を推進する担当者)				・受講者数：対前年度 △2人

6	社会福祉事業従事者等研修		所管部署	福祉人材・研修センター 長寿社会推進部
令和4年度事業計画		事業実施概要等		
具体的成果等				
イ	カウンセリング研修 (基礎1回, 発展1回)	② 職場内研修担当者研修7回 -アツプコース(職内研修を推進する担当者) ③ カウンセリング研修(基礎) (各種相談業務従事職員)	13人	・受講者数: 対前年度 ±0人
ウ	救急法研修 (1回)	④ カウンセリング研修(発展) (各種相談業務従事職員)	27人	・受講者数: 対前年度 △7人
エ	ハラズメント研修	⑤ 救急法研修 (社会福祉施設及び市町村社協に勤務する職員)	23人	・受講者数: 対前年度 +2人
オ	課題別研修 (社会福祉施設等新任・ 中堅・監督・施設長等 運営管理職員研修)	⑥ ハラスメント研修 (社会福祉施設及び市町村社協に勤務する管理者 及び中堅職員)	22人	・受講者数: 対前年度 +6人
カ	福祉サービス苦情解決研修会 (中級編) 分野別2回 (1~2月頃)	⑦ 社会福祉施設等新任・ 中堅・監督・施設長等 運営管理職員研修	74人	・受講者数: 対前年度 +36人
<p>令和4年度福祉サービス苦情解決研修会(中級編)の開催 (開催日) 令和5年1月18日(木) (開催方法) オンライン(Zoom)開催 (参加者) 苦情受付担当者・苦情解決責任者 142人 (内容) 講義・演習 「コミュニケーション力と組織力を強化する 苦情解決能力向上研修」 株式会社ツクイスタッフ 専任講師 山郷 政史 氏</p>		<p>オンライン上でのグループワークを通して苦情の原因分析やコミュニケーションの知識及び苦情解決プロセスを学んだことで、各事業所における苦情対応の参考となり、苦情受付担当者・解決責任者等の役割の理解が深まり、対応スキルの向上が図られた。 また、事業所の管理者等を対象に上級編を開催し、事業所における備えるべきリスクや緊急時の対応について認識することができた。 (中級編) ・R3年度参加者 215人 ・対前年度 66.0%</p>		

<p>キ 福祉サービス苦情解決研修会 (上級編) 1回 (8月頃)</p>	<p>令和4年度福祉サービス苦情解決研修会(上級編)の開催 (開催日) 令和4年8月18日(木) (開催方法) オンライン (Zoom) 開催 (参加者) 福祉施設・事業所の管理者, リスクマネジメント担当者, 苦情解決責任者, 過去に福祉サービス苦情解決研修会(中級編)を修了した者 155人 (内容) 講義・演習 「リスク認識力向上研修～現場員が認識すべきリスク～」 株式会社フオオーサイツコンサルティング 代表取締役 浅野 睦 氏</p>	<p>(上級編) ・ R3年度参加者 168人 ・ 対前年度 92.2%</p>
<p>7 社会福祉事業従事者の福利厚生等</p>		<p>所管部署 福祉人材・研修センター 総務部</p>
<p>(1) 県民間社会福祉施設職員退職共済事業の運営</p>	<p>① 県民間社会福祉施設職員退職共済事業の実施状況(令和5年3月31日現在) 契約法人284法人 548施設 加入者数10,774人 ア 退職金の給付状況 1,357件 1,271,558,591円 イ 新規契約・解除の状況 新規契約 7施設 契約解除 3施設 ウ 退職共済積立金の状況(令和5年3月31日現在) 退職共済積立金額 15,301,618,326円…A (参考:元本 14,185,932,878円) 退職給付金要支給額 13,329,515,350円…B 差引(A-B) 1,972,102,976円(積立率114.8%)</p> <p>② 運営委員会の開催 2回 県民間社会福祉施設職員退職共済事業の適正な運営を期するため運営委員会を開催した。 ア 第1回運営委員会 (開催日) 令和4年7月22日(金) (Web会議システム Zoom) (内容) ・ 令和3年度事業報告及び収支決算について ・ 令和3年度年金財政決算報告について ・ 令和3年度運用実績について</p>	<p>契約法人が退職給付金支払資金に充当するための積立金を、運用基本方針に基づき金融機関3行に信託し、安定的な資産の運用・管理が適切に実施された。</p> <p>県内の民間社会福祉施設職員の福利を増進し、社会福祉事業の振興に寄与することができた。</p>

7	社会福祉事業従事者の福利厚生等		所管部署	総務部 福祉人材・研修センター											
令和4年度事業計画		事業実施概要等	具体的成果等												
	<p>イ 第2回運営委員会 〈開催日〉令和5年3月1日（水） 〈内 容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財政再計算報告 ・ 令和4年度補正予算について ・ 令和5年度事業計画及び収支予算について ・ 運用実績について <p>ウ その他（書面審議） 〈実施日〉令和4年10月11日（火） 〈内 容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間社会福祉施設職員退職共済事業 補正予算 <p>③ 契約法人に対する説明会 〈開催日〉令和5年2月17日（金）（Web会議システム Zoom） 〈参加者数〉112事業所 135人 〈内 容〉 説明Ⅰ 令和3年度事業実施状況・資産運用状況等について 説明Ⅱ 退職共済事業事務手続きについて 説明Ⅲ 福利厚生センター（ツェルクラブ）について</p>														
<p>(2) 福利厚生センター（ソウエルクラブ）への加入促進、利用促進及び会員交流事業の実施</p>	<p>① 会員交流事業 福利厚生センター（ソウエルクラブ）に加入している会員を対象に、安価な経費で会員間の親睦や交流を図る次の事業を実施した。</p> <p>[会員交流事業実績]</p> <table border="1" data-bbox="1173 524 1369 1601"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>開催日・期間</th> <th>場 所</th> <th>参加人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① DRUM TAO 2022 新作舞台</td> <td>令和4年6月4日</td> <td>川商ホール</td> <td>73人</td> </tr> <tr> <td>② TULIP 50周年記念 ツアー―鹿児島公演</td> <td>令和4年6月12日</td> <td>川商ホール</td> <td>66人</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	開催日・期間	場 所	参加人員	① DRUM TAO 2022 新作舞台	令和4年6月4日	川商ホール	73人	② TULIP 50周年記念 ツアー―鹿児島公演	令和4年6月12日	川商ホール	66人	<p>多くの会員の方の参加が得られ、福利厚生の上上が図られた。</p>	
事業名	開催日・期間	場 所	参加人員												
① DRUM TAO 2022 新作舞台	令和4年6月4日	川商ホール	73人												
② TULIP 50周年記念 ツアー―鹿児島公演	令和4年6月12日	川商ホール	66人												

③	おしりたんてい ミュージカル 2022鹿児島公演	令和4年6月19日	川商ホール	116人
④	スキマスイッチ TOUR2022	令和4年7月2日	宝山ホール	50人
⑤	大昆虫 ワンダーランド	令和4年7月16日～ 8月31日	かごしま県民交流 センター	423人
⑥	おかあさんと いっしょ	令和4年8月4日	川商ホール	201人
⑦	リアル恐竜シヨ一 恐竜パーク	令和4年8月26日	川商ホール	143人
⑧	デイズニー・オン ・クラシック 日本フイル	令和4年11月23日	川商ホール	84人
⑨	第48回九州公演 in2023 鹿児島	令和5年2月17日	宝山ホール	45人
⑩	クオカード販売	令和4年10月1日～		2,495人
⑪	クオカード販売 (離島会員限定)	令和4年12月13日～		61人
⑫	鹿児島水族館年間 パスポート販売	令和5年3月1日から 1年間有効	鹿児島水族館	392人
合 計				延べ 4,149人
② 福利厚生センター加入勸奨活動 (1) 未加入法人等への戸別訪問 (未加入10事業所訪問) ← 中止 (2) 福利厚生センター概要パンフレットの配布 (3) 加入勸奨のためのPR 県社協広報紙「ふくしのひろば」への掲載				(総加入数の状況) 加入法人数：54法人107事業所 会員職員数：2,812人

8	県指定事業	所管部署	福祉人材・研修センター 介護実習・普及センター
令和4年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
<p>(1) 介護支援専門員実務研修受講試験 ア 試験月 令和4年10月頃 イ 試験会場 鹿児島市(4会場) 奄美市(1会場) ウ 受験見込者 約1,400人</p>	<p>〈試験会場〉 令和4年10月9日(日) 4会場(鹿児島市:3会場, 奄美市:1会場) 鹿児島県社会福祉センター ホテル自治会館 鹿児島サンロイヤルホテル 奄美観光ホテル</p> <p>〈受験申込者数〉 1,266人 〈受験者数〉 1,130人 〈合格者数〉 174人 〈合格率〉 15.4%</p>	<p>介護保険制度において、中核的な役割を果たす介護支援専門員の確保・養成に寄与した。</p> <p>前年度 増減 受験申込者: 1,215人 増51人 受験者数: 1,091人 増39人 合格者数: 210人 減36人 合格率: 19.2% 3.8%減</p>	
<p>(2) 介護支援専門員更新・再研修(3回)</p>	<p>介護支援専門員の対象者及び再研修の対象者(証発行なし・期限切れの者)に対して、介護支援専門員更新・再研修(延べ10日間)を3回実施した。</p> <p>〈研修時間〉 54時間 10日間 〈研修日程〉 (第1班) 令和4年5月23日(月)~5月27日(金) 後期: 令和4年5月30日(月)~6月3日(金) (第2班) 令和4年7月4日(月)~7月8日(金) 後期: 令和4年7月11日(月)~7月15日(金) (第3班) 令和4年9月12日(月)~9月16日(金) 後期: 令和4年9月26日(月)~9月30日(金)</p> <p>〈受講者数〉 424人 〈修了者数〉 424人</p>	<p>受講者数: 前年度より237人増</p>	
<p>(3) 介護支援専門員実務研修(1回)</p>	<p>介護支援専門員実務研修受講試験合格者に対して、介護支援専門員実務研修(1回延べ17日間)を実施した。</p> <p>〈研修時間〉 92.5時間 17日間 〈研修日程〉 前期Ⅰ: 令和5年1月10日(火)~13日(木) 前期Ⅱ: 令和5年1月23日(月)~27日(金) 補完研修: 令和5年2月22日(水) 後期: 令和5年3月6日(月)~10日(金) 3月13日(月)~14日(火)</p>		

	〈受講者数〉 170人 〈修了者数〉 168人 (うち合格者155人, 過年度合格者13人)	研 修 名	実 施 年 月 日	参 加 見 込	修 了 者 数	受講者数 前年度より36人減
(4) 認知症介護実践者等研修						認知症高齢者の介護業務に従事する実践者や管理者等に対する研修機会を提供することにより、専門性の高い認知症介護の知識・技術の習得が図られ、サービス品質の確保に繋がるとともに、適正なサービス運営に資することができた。
ア 認知症介護実践者研修 (3回)		認知症介護実践者研修	①令和4年 5月10日～5月18日 令和4年 6月28日 ②令和4年 9月13日～9月22日 令和4年10月25日 ③令和4年12月13日～12月21日 令和5年 2月 7日	235人	215人	また、感染症予防対策に配慮したオンラインリモート研修形式を導入することにより安心・安全な受講環境が図られた。
イ 認知症介護実践リーダー研修 (1回)		認知症介護実践リーダー研修	令和4年 7月12日～7月15日 令和4年 7月20日 令和4年 8月30日	46人	40人	
ウ 認知症対応型サービス事業管理者研修 (2回)		認知症対応型サービス事業管理者研修	①令和4年6月30日～7月 1日 ②令和5年 2月9日～ 2月10日	65人	62人	
エ 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 (1回)		小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	令和4年10月27～28日 令和4年11月 1～ 2日	25人	24人	
オ 認知症対応型サービス事業開設者研修 (1回)		認知症対応型サービス事業開設者研修	令和4年11月11日	8人	8人	
		計		379人	349人	

8	県指定事業	所管部署	福祉人材・研修センター 介護実習・普及センター
令和4年度事業計画		事業実施概要等	
具体的成果等			
(5)障害福祉人材育成研修の開催	ア 相談支援従事者研修(18日間) (7)初任者研修 (2日間+5日間×2回)	相談支援専門員及びサービス管理責任者、児童発達支援管理責任者等の資格取得希望者に対して、障害福祉人材育成研修を実施した。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により対面形式を中止又はオンライン形式に変更の上、概ね計画どおり研修を実施し、県内における相談支援専門員及びサービス管理責任者、児童発達支援管理責任者、強度行動障害支援者の人材育成が推進された。
(イ)現任研修 (4日間)	(7) 初任者研修 (前期) 〈期 日〉 令和4年8月9日(火)～8月16日(火) (相談) 令和4年8月29日(月)～9月5日(月) (サビ管・児発管) 〈手法〉 オンライン配信 〈受講者数〉 633人 〈修了者数〉 602人 初任者研修 (中期～後期) 〈期 日〉 (中期) 令和4年9月6日(火)～7日(水) (後期) 令和4年10月14日(金)、11月10日(木)～11日(金) 〈手法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 125人 〈修了者数〉 112人	(前期) 定員600人に対し、100.3% (中期～後期) 定員120人に対し、93.3%	
(ウ)専門コース別研修 (1日間)	(イ) 現任研修 〈期 日〉 (前期) 令和4年11月15日(火)～22日(火) 〈手法〉 オンライン配信 〈期 日〉 (前期) 令和4年12月14日(水) (中期) 令和5年1月17日(火) (後期) 令和5年2月21日(火) 〈手法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 119人 〈修了者数〉 115人	定員90人に対し、127.8%	
(エ)ファシリテーター研修 (1日間)	(ウ) 専門コース別研修 〈期 日〉 令和5年2月7日(火) 〈手法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 94人 〈修了者数〉 87人	定員60人に対し、145.0%	
イ サービス管理責任者等研修 (24日間)	(エ) ファシリテーター研修 〈期 日〉 令和4年4月15日(金)・22日(金) 〈手法〉 Web会議システム「Zoom」 (7) 基礎研修 (共通講義) 〈期 日〉 令和4年9月21日(水)～28日(水)		

<p>(7) 基礎研修 (1日研修) + (2日間×4回)</p>	<p>〈手法〉 オンデマンド配信</p> <p>基礎研修-1 (演習) 〈期日〉 令和4年10月20日(木)~21日(金) 〈手法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 119人 〈修了者数〉 116人</p> <p>基礎研修-2 (演習) 〈期日〉 令和4年10月26日(水)~27日(木) 〈手法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 159人 〈修了者数〉 156人</p> <p>基礎研修-3 (演習) 〈期日〉 令和4年11月15日(火)~16日(水) 〈手法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 119人 〈修了者数〉 117人</p> <p>基礎研修-4 (演習) 〈期日〉 令和4年11月24日(木)~25日(金) 〈手法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 154人 〈修了者数〉 152人</p>	<p>定員120人に対し、96.7%</p> <p>定員120人に対し、130.0%</p> <p>定員120人に対し、97.5%</p> <p>定員120人に対し、126.7%</p>
<p>(4) 実践研修 (1日研修) + (2日間×4回)</p>	<p>(4) 実践研修 (共通講義) 〈期日〉 令和4年11月2日(水)~9日(水) 〈手法〉 オンデマンド配信</p> <p>実践研修-1 〈期日〉 令和4年12月1日(木)~2日(金) 〈手法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 139人 〈修了者数〉 134人</p> <p>実践研修-2 〈期日〉 令和4年12月19日(月)~20日(火) 〈手法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 134人 〈修了者数〉 132人</p>	<p>定員240人に対し、55.8%</p> <p>定員240人に対し、55.0%</p>
<p>(7) 更新研修 (1日研修×6回)</p>	<p>(7) 更新研修-1 〈期日〉 令和4年6月30日(木)</p>	<p>定員120人に対し、95.0%</p>

8	県指定事業	所管部署	福祉人材・研修センター 介護実習・普及センター
令和4年度事業計画		事業実施概要等	
具体的成果等			
<p>更新研修-2 〈手 法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 117人 114人</p> <p>更新研修-3 〈期 日〉 令和4年7月19日(火) 〈手 法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 119人 116人</p> <p>更新研修-4 〈期 日〉 令和4年7月27日(水) 〈手 法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 116人 113人</p> <p>更新研修-4 〈期 日〉 令和4年8月9日(火) 〈手 法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 115人 110人</p>		<p>定員120人に対し、96.7%</p> <p>定員120人に対し、94.2%</p> <p>定員120人に対し、91.7%</p>	
<p>ウ 強度行動障害支援者養成研修 (10日間)</p> <p>(7) 基礎研修 (2日間×3回)</p>	<p>(7) 基礎研修-A 〈期 日〉 令和4年11月17日(木)～18日(金) 〈手 法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 89人 83人</p> <p>基礎研修-B 〈期 日〉 令和4年12月8日(木)～9日(金) 〈手 法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 89人 82人</p> <p>基礎研修-C 〈期 日〉 令和4年12月15日(木)～16日(金) 〈手 法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 88人 86人</p>	<p>定員110人に対し、75.5%</p> <p>定員110人に対し、74.5%</p> <p>定員110人に対し、78.2%</p>	

<p>(4) 実践研修 (2日間×2回)</p>	<p>(4) 実践研修 (共通講義) 〈期 日〉 令和5年1月15日(日)～21日(土) 〈手 法〉 オンライン配信</p> <p>実践研修-D (演習) 〈期 日〉 令和5年2月2日(木)～3日(金) 〈手 法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 98人 〈修了者数〉 89人</p> <p>実践研修-E (演習) 〈期 日〉 令和5年2月9日(木)～10日(金) 〈手 法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 97人 〈修了者数〉 92人</p>	<p>定員120人に対し、74.2%</p> <p>定員120人に対し、76.7%</p>								
<p>(6) 福祉用具専門相談員養成研修 ア 研修期間 令和4年5月～6月 イ 研修時間 51時間(延べ8日間) ウ 定員 30人 エ その他 研修修了者は福祉用具専門 相談員の資格取得</p>	<p>介護保険法で定められた福祉用具販売・貸与事業所で勤務するための研修会 めに必要な「福祉用具専門相談員」の資格を取得するための研修会 を開催した。</p> <table border="1" data-bbox="751 701 979 1601"> <thead> <tr> <th>実 施 日</th> <th>定 員</th> <th>修 了 者 数</th> <th>講 座 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年 5月21, 22, 28, 29日 6月 4, 5, 11, 12日 (8日間 51時間)</td> <td>30人</td> <td>19人</td> <td>福祉用具の役割, 職業倫理, 介護保険制度等の考え方と 仕組み, からだとこころの 理解, 福祉用具の特徴など</td> </tr> </tbody> </table>	実 施 日	定 員	修 了 者 数	講 座 内 容	令和4年 5月21, 22, 28, 29日 6月 4, 5, 11, 12日 (8日間 51時間)	30人	19人	福祉用具の役割, 職業倫理, 介護保険制度等の考え方と 仕組み, からだとこころの 理解, 福祉用具の特徴など	<p>福祉用具専門相談員19人を養 成することができた。</p> <p>修了者数 定員に比べ11人減 前年度より 6人増</p>
実 施 日	定 員	修 了 者 数	講 座 内 容							
令和4年 5月21, 22, 28, 29日 6月 4, 5, 11, 12日 (8日間 51時間)	30人	19人	福祉用具の役割, 職業倫理, 介護保険制度等の考え方と 仕組み, からだとこころの 理解, 福祉用具の特徴など							
<p>9 教員免許介護等体験受入調整事業</p> <p>教員免許介護等体験受入調整事業 (対象学生予定数：530人)</p>	<p>小学校及び中学校の教諭の免許状を取得しようとする大学等入学者 者に対する介護等体験の社会福祉施設への受入調整を行った。</p> <p>〈介護等体験申込者数〉 529人 〈介護等体験終了者数〉 524人 〈介護等体験期間〉 令和3年7月4日(月)～令和4年2月13日(月)</p>	<p>所管部署 福祉人材・研修センター</p> <p>教員免許取得志望者の資質向上及び学校教育の充実に寄与できた。 ①介護等体験申込者数 前年度より119人減 ②介護等体験終了者数 前年度より117人減</p>								

VI 介護実習・普及センターの運営		事業実施概要等		所管部署	介護実習・普及センター	
令和4年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等		
1	介護実習・普及センター運営事業					介護実習・普及センター
(1)	介護に関する情報収集・提供 ア 図書・ビデオ等の貸出	① 貸出状況				図書・ビデオ等の貸出により、介護に関する情報提供が図られた。
		区分	年度	令和4年度	令和3年度	
		図書	31冊	72冊	△41冊	
		ビデオ	0本	0本	0本	
		D V D	6本	5本	1本	
	イ パンフレットの配布	② 整備状況				パンフレットの配布により、介護実習・普及センター事業の周知が図られ、多くの県民の参加を得ることができた。
		区分	年度	令和4年度	令和3年度まで	
		図書	14冊	595冊	609冊	
		ビデオ	0本	79本	79本	
		D V D	102本	41本	143本	
		介護実習・普及センターの実施事業等の周知を図り、研修及び講座等への参加を募るため、15,000部のパンフレットを作成し、一般県民、介護施設及び県内関係機関等に配布した。				
ウ	全国会議及び九州ブロック会議への参加	① 全国福祉用具相談・研修機関協議会 ア 臨時総会 2名参加 〈期日〉 令和4年9月2日 〈会場〉 リモート開催 イ 総会及び全国会議 1名参加 〈期日〉 令和5年2月12日 〈会場〉 千葉市 ② 九州ブロック介護実習・普及センター代表者及び担当者会議 2名参加 〈期日〉 令和4年10月26日 〈会場〉 リモート開催 ③ 国際福祉機器展 随時閲覧 〈期日〉 令和4年9月5日～11月10日 〈会場〉 Web開催				福祉用具に関する新たな知識や九州各県等の情報を広く共有し、業務遂行に役立てることができた。
		② 介護知識・技術の普及及び体験学習等（一般県民向け）				
		家庭で介護を行っている家族や介護に関心のある県民に対し、専門家講師の指導による介護の基礎的な知識と介護方法の習得の				
		県民の介護に対する関心を高め、介護の知識や技術の普及促進				

ア やさしい介護教室 (6回・定員各30人)	ための講座を開催した。				につなげた。	
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	参加者数	定員に比べ114人減 前年度より14人増
	〈前期〉 令和4年6月24日 令和4年7月16日 令和4年8月26日	30人 30人 30人	13人 6人 14人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の理解, 声かけ, 接し方 ・ 排泄用具の選び方, 使い方 ・ 福祉用具の選び方・使い方 ・ 寝返りから移乗までの介助法 ・ 衣服の着脱, 歩行の介助方法 ・ 誤嚥をふせぐ食事の介助方法 		
	〈後期〉 令和4年9月17日 令和4年10月26日 令和4年11月12日	30人 30人 30人	9人 13人 11人			
	計	180人	66人			
イ 地域介護講座 (4か所(回)・定員各30人) (鹿児島地区, 北薩地区 大隅地区, 熊毛地区)	地域において介護技術の普及・啓発を図るため, 県内4地区で 専門家講師の指導による講座を開催した。					
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	参加者数	定員に比べ71人減 前年度より14人減
日置市 令和4年10月14日	30人	11人	<ul style="list-style-type: none"> ・ らくらく！寝返り, 起き上がり, 立ち上がり, 移乗の介助方法 			
阿久根市 令和4年11月2日	30人	11人	<ul style="list-style-type: none"> ・ ここに注意！誤嚥をふせぐ食事の介助方法 			
南大隅町 令和4年9月22日	30人	8人	<ul style="list-style-type: none"> ・ これは助かる！福祉用具の選び方, 使い方 			
中種子町 令和4年10月21日	30人	19人				
計	120人	49人				

1 介護実習・普及センター運営事業	所管部署	介護実習・普及センター																												
<p>令和4年度事業計画</p> <p>ウ 快護生活フェス！福祉機器展 & セミナーinがごしま (1回)</p> <p>併催： 介護ロボット鹿児島フォーラム</p>	<p>事業実施概要等</p> <p>「10月1日福祉用具の日」に関連して、高齢者や障がい者等の生活に役立つ福祉用具をもっと身近に感じてもらうためのイベントとして、「快護生活フェス！」を感染症拡大防止対策を行い、集合形式で開催した。併せて、「介護ロボット鹿児島フォーラム」を行った。</p> <table border="1" data-bbox="454 712 614 1948"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>参加者数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年10月7日～8日</td> <td>2,175人</td> <td>最新の福祉用具（機器）の展示や体験・介護相談等を行いました。</td> </tr> </tbody> </table>	実施日	参加者数	内容	令和4年10月7日～8日	2,175人	最新の福祉用具（機器）の展示や体験・介護相談等を行いました。	<p>具体的成果等</p> <p>多くの参加者があり、最新の福祉用具や介護知識・技術の普及啓発が図られ、「福祉用具の日」の周知に寄与できた。</p>																						
実施日	参加者数	内容																												
令和4年10月7日～8日	2,175人	最新の福祉用具（機器）の展示や体験・介護相談等を行いました。																												
<p>エ 福祉体験教室 (随時)</p>	<p>福祉用具見学、車いす体験及び高齢者疑似体験を通して、介護・福祉への理解を深めてもらうため体験教室を開催した。</p> <table border="1" data-bbox="726 712 837 1948"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>R4年度</th> <th>R3年度</th> <th>増減</th> <th>実施回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通年</td> <td>882人</td> <td>534人</td> <td>348人</td> <td>160回</td> </tr> </tbody> </table>	実施日	R4年度	R3年度	増減	実施回数	通年	882人	534人	348人	160回	<p>生活に役立つ車いすなど福祉用具を広く知ってもらうことで、介護やバリアフリーについて理解を深めることにつながった。</p> <p>実施回数 前年度より65回増</p>																		
実施日	R4年度	R3年度	増減	実施回数																										
通年	882人	534人	348人	160回																										
<p>オ 公立学校共済組合鹿児島支部介護講座 (5回)</p>	<p>公立学校共済組合からの委託を受け、教職員を対象に、専門家講師の指導による介護講座（基礎・技術コース）を開催した。</p> <table border="1" data-bbox="973 712 1380 1948"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>参加定員</th> <th>参加者数</th> <th>講座内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年8月3日</td> <td>25人</td> <td>19人</td> <td>・介護の心得と福祉用具の選び方</td> </tr> <tr> <td>令和4年8月4日</td> <td>25人</td> <td>16人</td> <td>・認知症の理解と身体ケア</td> </tr> <tr> <td>令和4年8月5日</td> <td>25人</td> <td>7人</td> <td>・感染症対策と排泄ケア</td> </tr> <tr> <td>令和4年8月23日</td> <td>25人</td> <td>12人</td> <td>・食事の介助と口腔ケア</td> </tr> <tr> <td>令和4年8月24日</td> <td>25人</td> <td>15人</td> <td>・身体介助とポジショニングケア</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>125人</td> <td>69人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	令和4年8月3日	25人	19人	・介護の心得と福祉用具の選び方	令和4年8月4日	25人	16人	・認知症の理解と身体ケア	令和4年8月5日	25人	7人	・感染症対策と排泄ケア	令和4年8月23日	25人	12人	・食事の介助と口腔ケア	令和4年8月24日	25人	15人	・身体介助とポジショニングケア	計	125人	69人		<p>教職員やその家族への介護に関する知識・技術の普及・啓発が図られた。</p> <p>参加者数 定員に比べ21人増</p>
実施日	参加定員	参加者数	講座内容																											
令和4年8月3日	25人	19人	・介護の心得と福祉用具の選び方																											
令和4年8月4日	25人	16人	・認知症の理解と身体ケア																											
令和4年8月5日	25人	7人	・感染症対策と排泄ケア																											
令和4年8月23日	25人	12人	・食事の介助と口腔ケア																											
令和4年8月24日	25人	15人	・身体介助とポジショニングケア																											
計	125人	69人																												

<p>(3) 介護専門職員向け研修 ア 介護レクリエーション研修 (2回・定員各30人)</p>	<p>社会福祉施設等の介護専門職を対象に、介護の基礎技術を確認し、さらなるスキルアップを図るための研修を開催した。</p>				<p>介護専門職の介護技術向上を図ることにより、より良いサービス提供を行う人材育成に寄与した。</p> <p>参加者数 定員に比べ13人減 前年度より28人減</p>
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	
	〈前期〉 令和4年5月20日	30人	23人	・簡単な運動や創作を楽しむ介護状態別レクリエーション	
	〈後期〉 令和4年11月16日 計	30人 60人	24人 47人		
<p>イ 介護食調理教室 (2回・定員各25人)</p>	<p>高齢者が食べやすく、栄養バランスの取れた調理方法、補助食品の紹介</p>				<p>参加者数 定員に比べ24人減 前年度より12人増</p>
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	
	〈前期〉 令和4年7月3日	25人	13人	・高齢者が食べやすく、栄養バランスの取れた調理方法、補助食品の紹介	
	〈後期〉 令和4年12月4日 計	25人 50人	13人 26人		
<p>ウ 介護職の体リフレッシュ研修 (2回・定員各20人)</p>	<p>介護職(自分の身体状態把握と自己改善を図るストレッチ体操</p>				<p>参加者数 定員に比べ11人減 前年度より10人増</p>
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	
	〈前期〉 令和4年5月19日	20人	11人	・介護職(自分の身体状態把握と自己改善を図るストレッチ体操	
	〈後期〉 令和4年11月15日 計	20人 40人	18人 29人		

1 介護実習・普及センター運営事業		所管部署		介護実習・普及センター	
令和4年度事業計画		事業実施概要等			
工 介護職基礎研修 (4回・定員各30人)		実施日	参加定員	参加者数	講座内容
		A：第1回 令和4年6月16日 令和4年6月17日	30人	13人	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の理解と介護の心得 ・身体や腰に負担をかけない起居、移乗、移動の介助方法 ・高齢者のための転倒予防体操 ・心身機能低下予防体操 ・身体状況に応じたおむつの選び方、あて方、交換方法
		A：第2回 令和4年9月8日 令和4年9月9日は中止	30人	11人	
		B：第1回 令和4年7月27日 令和4年7月28日	30人	9人	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具の選び方、使い方等 ・体位変換、ホジヨンニング方法 ・誤嚥をふせぐ食事の姿勢と介助方法 ・認知症疾患鑑別の理解とケア、コミュニケーションのとり方
		B：第2回 令和4年10月27日 令和4年10月28日	30人	8人	
		計	120人	41人	
オ 介護職スキルアップ研修 (7) 口腔ケア (2回・定員各30人)		(7) 口腔ケア			
		実施日	参加定員	参加者数	講座内容
		令和4年7月7日	30人	25人	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアの基礎知識と方法 ・拒否される方への対応等 ・口腔ケア体操
		令和4年12月8日	30人	17人	
		計	60人	42人	
(4) 認知症ケア (2回・定員各30人)		(4) 認知症ケア			
		実施日	参加定員	参加者数	講座内容
		令和4年6月1日	30人	30人	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症疾患別援助の方法 ・事例を通しての理解 (ダブルミーニング)
		令和4年11月30日	30人	28人	
		計	60人	58人	
		参加者数		定員に比べ18人減 前年度より42人増	
		参加者数		定員に比べ2人減 前年度より36人増	

(ウ) 体位変換・ポジションニングケア ケア (3回・定員各30人)		(ウ) 体位変換・ポジションニングケア				参加者数 定員に比べ40人減 前年度より39人増
実施日	参加定員	参加者数	講座内容			
令和4年6月25日	30人	23人	褥瘡の基礎知識		参加者数 定員に比べ9人減 前年度より15人増	
令和4年9月7日	30人	19人	座位、寝姿勢別体位変換、 ポジションニング方法			
令和4年1月20日	30人	8人	車いすのシーティング方法			
計	90人	50人				
(エ) 排泄ケア I (4回・定員各20人)		(エ) 排泄ケア I				参加者数 定員に比べ9人減 前年度より15人増
実施日	参加定員	参加者数	講座内容			
令和4年6月9日	20人	15人	排泄やアセスメントについ ての基礎知識		参加者数 定員に比べ13人減 前年度より14人増	
令和4年11月10日	20人	16人	おむつの選び方・あて方 ・褥瘡予防の介助方法			
計	40人	31人				
(オ) 排泄ケア II (2回・定員各20人)		(オ) 排泄ケア II				参加者数 定員に比べ3人減 前年度より37人増
実施日	参加定員	参加者数	講座内容			
令和4年7月8日	20人	17人	身体状況に応じたおむつの 種類と選び方		参加者数 定員に比べ3人減 前年度より37人増	
令和4年12月7日	20人	10人	おむつのあて方のポイント			
計	40人	27人				
(カ) 感染症予防対策と褥瘡ケア & 救急対応 (2回・定員各30人)		(カ) 感染症予防対策と褥瘡ケア & 救急対応				参加者数 定員に比べ3人減 前年度より37人増
実施日	参加定員	参加者数	講座内容			
令和4年6月10日	30人	30人	褥瘡ケア、感染症の予防 対策・汚染物の処理方法		参加者数 定員に比べ3人減 前年度より37人増	
令和4年11月11日	30人	27人				
計	60人	57人				

1 介護実習・普及センター運営事業	事業実施概要等		所管部署	介護実習・普及センター																																													
令和4年度事業計画	事業実施概要等		具体的成果等																																														
<p>カ 専門職団体等連携講座 (4回)</p>	<p>各職能団体と連携し、地域における在宅介護や施設介護のリーダ一育成を図るための講義や実技等の講座開催を支援した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>団体名</th> <th>実施日</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県言語聴覚士会</td> <td>令和4年 5月15日</td> <td>リモート独自開催30人</td> </tr> <tr> <td>県理学療法士協会</td> <td>令和4年12月18日</td> <td>リモート独自開催25人</td> </tr> <tr> <td>3団体連絡協議会</td> <td>令和4年 9月25日</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>県作業療法士協会</td> <td>令和5年 2月19日</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td>55人</td> </tr> </tbody> </table>	団体名	実施日	参加者数	県言語聴覚士会	令和4年 5月15日	リモート独自開催30人	県理学療法士協会	令和4年12月18日	リモート独自開催25人	3団体連絡協議会	令和4年 9月25日	中止	県作業療法士協会	令和5年 2月19日	中止	計		55人	専門職の知識・技術の向上につながった。																												
団体名	実施日	参加者数																																															
県言語聴覚士会	令和4年 5月15日	リモート独自開催30人																																															
県理学療法士協会	令和4年12月18日	リモート独自開催25人																																															
3団体連絡協議会	令和4年 9月25日	中止																																															
県作業療法士協会	令和5年 2月19日	中止																																															
計		55人																																															
<p>(4) 福祉用具・バリアフリー住宅の展示・相談、福祉用具の情報収集・提供等</p>	<p>介護実習・普及センターの来所者に対し、福祉用具やモデルハウスの案内・説明等を行うとともに、福祉用具等介護に関する相談に対応した。</p> <p>[来所者数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来所者数</td> <td>7,582人</td> <td>3,782人</td> <td>3,800人</td> </tr> <tr> <td>開所日数</td> <td>307日</td> <td>308日</td> <td>△1日</td> </tr> <tr> <td>1日平均</td> <td>24人</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table> <p>[相談件数] (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>相談内容</th> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護保険</td> <td></td> <td>377</td> <td>7</td> <td>370</td> </tr> <tr> <td>研修関係</td> <td></td> <td>511</td> <td>317</td> <td>194</td> </tr> <tr> <td>移動機器</td> <td></td> <td>252</td> <td>126</td> <td>126</td> </tr> <tr> <td>排泄</td> <td></td> <td>133</td> <td>37</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>入浴</td> <td></td> <td>114</td> <td>18</td> <td>96</td> </tr> </tbody> </table>	年度	令和4年度	令和3年度	増 減	来所者数	7,582人	3,782人	3,800人	開所日数	307日	308日	△1日	1日平均	24人	12人	12人	相談内容	年度	令和4年度	令和3年度	増 減	介護保険		377	7	370	研修関係		511	317	194	移動機器		252	126	126	排泄		133	37	96	入浴		114	18	96	県民への福祉用具・介護用品等への周知に寄与できた。	
年度	令和4年度	令和3年度	増 減																																														
来所者数	7,582人	3,782人	3,800人																																														
開所日数	307日	308日	△1日																																														
1日平均	24人	12人	12人																																														
相談内容	年度	令和4年度	令和3年度	増 減																																													
介護保険		377	7	370																																													
研修関係		511	317	194																																													
移動機器		252	126	126																																													
排泄		133	37	96																																													
入浴		114	18	96																																													

起居移乗	157	38	119	
資格	55	12	43	
住宅改修	250	20	230	
障害福祉	164	3	161	
図書ビデオ	34	59	△25	
自助具	114	105	9	
介護食	174	4	170	
その他	1,559	775	784	
計	3,894	1,521	2,373	
〔展示数〕 (単位:点)				
分類別	年度	令和4年度	令和3年度	増減
治療訓練用具		17	17	0
義肢・装具		0	0	0
パソコン関連用具		253	247	6
移動機器		145	140	5
家事用具		94	95	△1
家具・建具建築設備		45	46	△1
コミュニケーション関連用具		16	16	0
操作用具		16	16	0
環境改善機器・作業用具		0	0	0
レクリエーション用具		6	6	0
その他		44	44	0
計		636	627	9
105社の福祉用具販売（貸与）事業所・メーカーによる使用貸借契約等による展示品				

2 介護ロボット相談窓口設置事業	事業実施概要等		所管部署	介護実習・普及センター																		
令和4年度事業計画	<p>事業実施概要等</p>		<p>具体的成果等</p>																			
<p>(1) 介護ロボット相談窓口(地域拠点)の設置 ア 相談窓口担当職員の配置</p>	<p>・ 専任職員1名, 兼務職員1名配置 ・ 介護ロボットに関する専門的知識を有する業務アドバイザーの配置2名 鹿兒島大学医学部保健学科作業療法学専攻 助教 保健学博士 吉満孝二氏 鹿兒島医療技術専門学校 作業療法学科 副学科長 藤田 賢太郎 氏 相談件数等</p>		<p>業務アドバイザーを1名増員し, 介護ロボットに関する専門的な相談体制の充実を図った。</p>																			
イ 相談対応	<table border="1" data-bbox="509 1010 1078 1514"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開発企業</td> <td>10件</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム</td> <td>17件</td> </tr> <tr> <td>障害児者福祉施設</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>グループホーム等</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>老人保健施設</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>デイサービスセンター</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>13件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>57件</td> </tr> </tbody> </table>		種別	件数	開発企業	10件	特別養護老人ホーム	17件	障害児者福祉施設	6件	グループホーム等	5件	老人保健施設	4件	デイサービスセンター	2件	その他	13件	合計	57件	<p>多くの相談が寄せられ, 介護ロボットの普及に貢献できた。</p>	
種別	件数																					
開発企業	10件																					
特別養護老人ホーム	17件																					
障害児者福祉施設	6件																					
グループホーム等	5件																					
老人保健施設	4件																					
デイサービスセンター	2件																					
その他	13件																					
合計	57件																					
ウ 相談窓口・リビンググラーボネットネットワーク連絡会議への参加	<p>2回の連絡会議への参加 (1) 第1回相談窓口・リビンググラーボネットネットワーク連絡会議 開催日時 令和4年9月8日(木) 内容 ・今年度の取組, 事業進捗報告 ・新規拠点の紹介 ・介護現場における生産性向上について ・意見交換 など</p>		<p>介護ロボット相談窓口に関する役割や機能及び介護ロボットに関する知識を得ることができ, 介護ロボットの相談に役立てることができた。</p>																			

<p>工 作業療法士協会との連携による介護ロボット導入マニュアル等の検討</p>	<p>(2) 第2回相談窓口・リビングラボネットワーク連絡会議 開催日時 令和5年3月22日(木) 内容 ・ 事業の成果報告 ・ 拠点の事例紹介 ・ 介護現場における生産性向上の推進について ・ 意見交換 など</p>	
<p>介護ロボット導入施設への 伴走支援</p>	<p>鹿児島県作業療法士協会と連携し、介護ロボット導入支援に係る研修プログラムや展示ロボットの説明資料、導入マニュアルの検討取りまとめを行った。</p> <p>(1) 第1回検討会 開催日時 令和4年6月5日(日) 内容 ・ 研修プログラム検討 ・ 体験展示用ロボットの特性や利用上の留意点等に関する検討 ・ 介護現場での効果的導入方法の検討</p> <p>(2) 第2回検討会 開催日時 令和4年7月3日(日) 内容 ・ 研修プログラム作成 ・ 「介護ロボット体験時の留意点等」の修正検討 ・ 介護ロボットの円滑導入手法のポイント整理</p> <p>(3) 第3回検討会 開催日時 令和4年9月4日(日) 内容 ・ 研修プログラム及び「介護ロボット体験時の留意点等」の見直し ・ 円滑導入に係る介護現場での課題抽出方法及び評価指針の検討整理</p>	<p>介護ロボット導入支援研修における効果的なプログラムや展示ロボットの説明資料等の作成ができた。</p>
<p>介護ロボット導入施設への 伴走支援</p>	<p>鹿児島県内の特別養護老人ホーム3施設を対象に伴走支援を実施した。</p> <p>(1) 対象施設・支援期間・試行介護ロボット ① 特別養護老人ホーム シルクロード七福神 支援期間：8月～11月 試行ロボット：排尿予測デバイスDfree ② 特別養護老人ホーム 鹿屋長寿園 支援期間：8月～2月 試行ロボット：排尿予測デバイスDfree ③ 特別養護老人ホーム さつま園 支援期間：10月～2月 試行ロボット：マッスルスーツEvery</p>	<p>介護ロボットを導入を検討している施設等の参考事例となる施設を創出することができた。</p>

2 介護ロボット相談窓口設置事業	事業実施概要等		所管部署	介護実習・普及センター									
令和4年度事業計画	事業実施概要等			具体的成果等									
<p>カ 介護事業所等とのネットワーク構築</p>	<p>(2) 主な支援内容 ① 各施設の課題抽出・整理 ② 課題解決に適したロボットの選定 ③ 介護ロボットの導入時の評価指針の検討・作成 ④ ロボットの導入支援(試用貸出等) ⑤ 導入時のオペレーション変更の検討支援 ⑥ 効果測定</p> <p>介護ロボット・プラットフォーム事業への意見要望を聴き、介護ロボットに関する熊本・鹿児島・沖縄各県におけるネットワーク構築と介護ロボットの普及促進を図るため、介護ロボット普及連絡会を開催した。</p> <p>(1) 開催日 ① 鹿児島県 令和5年1月12日(木) 対面方式 ② 沖縄県 令和5年2月6日(月) オンライン ③ 熊本県 令和5年2月17日(金) オンライン</p> <p>(2) 事業説明 「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」の紹介 行政説明 「各県における介護ロボット普及状況等について」 意見交換 「介護ロボットの普及・導入について」</p>	<p>各県における介護ロボット普及についてのネットワーク構築することができた。</p>											
<p>(2) 介護ロボットの体験展示 ア 介護ロボットの常設展示</p>	<p>「ロボット技術の介護利用における重点分野」(平成29年10月改定)における6分野から4分野の介護ロボット15種類を展示した。(展示ロボット一覧)</p> <table border="1" data-bbox="1007 748 1406 1541"> <thead> <tr> <th>分野</th> <th>介護ロボット名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">移乗支援(装着型)</td> <td>HAL腰タイプ介護・自立支援用</td> </tr> <tr> <td>衣服型アクティバパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)</td> </tr> <tr> <td>マッスルスーツ Every</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">移乗支援(非装着型)</td> <td>移乗サポートルロボット HUG T1</td> </tr> <tr> <td>ROBOHELPER SASUKE</td> </tr> </tbody> </table>	分野	介護ロボット名称	移乗支援(装着型)	HAL腰タイプ介護・自立支援用	衣服型アクティバパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)	マッスルスーツ Every	移乗支援(非装着型)	移乗サポートルロボット HUG T1	ROBOHELPER SASUKE	<p>介護事業所や県民への介護ロボットの周知・理解促進に寄与できた。</p>		
分野	介護ロボット名称												
移乗支援(装着型)	HAL腰タイプ介護・自立支援用												
	衣服型アクティバパワーアシストスーツ J-PAS fleairy(フレアリー)												
	マッスルスーツ Every												
移乗支援(非装着型)	移乗サポートルロボット HUG T1												
	ROBOHELPER SASUKE												

	<p>移動支援</p> <p>排泄支援</p> <p>見守り・コミュニケーション支援</p>	<p>ロボットアシストウオーカー-RT.2</p> <p>ラップオン エール2</p> <p>排尿予測デバイス Dfree</p> <p>見守りセンサ AiSleep</p> <p>見守りセンサ 「ANSIEL」</p> <p>見守りシステム ネオスケア</p> <p>e伝之介くん</p> <p>レガーム</p> <p>PALRO 高齢者福祉施設向けモデルⅡ</p> <p>音声認識コミュニケーションロボット Chapit</p>									
<p>イ 介護ロボットの体験</p>	<p>介護事業所の職員や福祉・医療系大学、短期大学、専門学校生及び介護ロボットに関心のある個人など多くの方に介護ロボットを体験していただき、介護ロボットの機能や活用方法について理解を得た。</p> <table border="1" data-bbox="1023 1290 1153 1529"> <thead> <tr> <th>介護事業所職員等</th> <th>大学等団体</th> <th>個人</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>161人</td> <td>769人</td> <td>282人</td> <td>1,212人</td> </tr> </tbody> </table>	介護事業所職員等	大学等団体	個人	合計	161人	769人	282人	1,212人		<p>介護事業所職員や介護・福祉・医療分野への就職を目指す学生、県民への介護ロボットに関する周知と理解促進に寄与できた。</p>
介護事業所職員等	大学等団体	個人	合計								
161人	769人	282人	1,212人								
<p>(3) 介護ロボットの試用貸出</p>	<p>厚生労働省が作成する「介護ロボットの試用貸出リスト」に基づき、介護事業所からの相談を受け、当該介護事業所の課題に合った介護ロボットを紹介し、開発企業からの貸出調整を行った。 貸出実績（29件）</p> <table border="1" data-bbox="1350 1200 1428 1559"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出ロボット等</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種別	件数	貸出ロボット等			<p>介護現場での介護ロボット導入の効果について、事前準備で理解を深めるなど、試用貸出を通して、円滑な導入に寄与できた。</p>				
種別	件数										
貸出ロボット等											

2 介護ロボット相談窓口設置事業	事業実施概要等		所管部署	介護実習・普及センター						
令和4年度事業計画										
	特別養護老人ホーム	12件	ASUKE, HUG-T1, HAL, スカイリフト マッスルスーツEvery	<p>介護ロボットの効果的な活用と効果、また相談窓口の役割等について広く周知広報することができた。</p>						
	老人保健施設	5件	SASUKE, Hakobe lude, iViz air							
	通所介護	4件	マッスルスーツEvery, PALRO							
	障害者支援施設	3件	SASUKE, フレアリー							
	グループホーム	2件	マッスルスーツEvery, Aams							
	小規模多機能型居宅介護事業所	1件	ネオスケア							
	有料老人ホーム	1件	SASUKE							
	居宅介護支援事業所	1件	FUKU助							
<p>(4) 介護ロボットに関する情報提供 ア 介護ロボット鹿児島フォーラムの開催</p>	<p>高齢者や障がい者等の生活に役立つ福祉用具をもっと身近に感じてもらおうためのイベントである「快護生活フェス！」に併せて、「介護ロボット鹿児島フォーラム」を開催した。</p> <table border="1" data-bbox="975 775 1238 1585"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>参加者数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年10月8日</td> <td>25事業所 40人</td> <td>介護ロボットの効果的活用・効果などの発表・報告。 また、介護ロボット体験を実施（「快護生活フェス！」来場者を含め228人が体験）</td> </tr> </tbody> </table>				実施日	参加者数	内容	令和4年10月8日	25事業所 40人	介護ロボットの効果的活用・効果などの発表・報告。 また、介護ロボット体験を実施（「快護生活フェス！」来場者を含め228人が体験）
実施日	参加者数	内容								
令和4年10月8日	25事業所 40人	介護ロボットの効果的活用・効果などの発表・報告。 また、介護ロボット体験を実施（「快護生活フェス！」来場者を含め228人が体験）								
<p>イ 介護ロボット導入支援研修会の開催</p>	<p>介護ロボットの円滑な導入のためにまとめられたパッケージモデルを基に、現場の課題に対応する介護ロボットの選定や導入時の留意事項、効果等について理解を深め介護現場におけるロボット導入</p>			<p>介護施設等に対し、介護ロボットの円滑な導入に向けた支援ができた。</p>						

	<p>を支援するために担当エリアである熊本・鹿児島・沖縄の各県で開催した。</p> <p>(1) 開催日・参加者数</p> <p>① 鹿児島県 令和4年9月2日(金) 参集型 14事業所 18人</p> <p>② 沖縄県 令和4年11月6日(日) 参集型 35事業所 48人</p> <p>③ 熊本県 令和4年12月20日(火) 参集型 37事業所 46人</p> <p>(2) 内容</p> <p>講義 「介護ロボットの円滑な導入のポイント」 行政説明 「介護ロボットの導入及び活用促進に向けた取組」 実践報告 「各県の介護ロボット導入施設における取組」 介護ロボット体験及び相談</p>
<p>ウ 介護職員向け介護ロボット 体験講座の開催</p>	<p>介護現場で働く介護職員の介護ロボットに関する理解と関心を高め、介護ロボットの普及を促進するため、県民交流センターにおいて開催した。</p> <p>(1) 開催日・参加者数</p> <p>① 第1回 令和4年8月11日(木) 9人 ② 第2回 令和5年2月2日(木) 9人</p> <p>(2) 内容</p> <p>講義 「介護ロボットの活用と効果」 実践報告 「介護ロボット導入事業所の取組」 講義 「介護ロボット導入時の留意点等」 介護ロボット体験及び相談</p> <p>介護現場で働く介護職員の介護ロボットに関する理解と関心を高め、介護ロボットの普及を促進するため、県民交流センターにおいて開催した。</p> <p>介護現場で働く職員に介護ロボットに対する理解と関心を高めてもらうことができた。</p>
<p>エ 介護ロボットに関する情報 収集</p>	<p>相談窓口・リビングワークネットワーク連络会や勉強会、また介護ロボット開発企業との協議等から介護ロボットに関する最新情報を収集し、介護ロボットに関する研修会等で提供した。</p> <p>収集した介護ロボットに関する新たな情報を研修会等を通じて広く提供することができた。</p>
<p>オ ホームページ等による介護 ロボットの情報発信</p>	<p>鹿児島県社会福祉協議会ホームページの介護ロボット専用ページによる業務内容・展示介護ロボットの紹介や、広報紙「ふくしのひろば」による研修・イベントの情報発信の他、チラシによる広報啓発を行った。</p> <p>また、福祉の職場就職面談会やハローワーク鹿児島でのロボット体験会を実施した。</p> <p>・「ふくしのひろば」掲載 4回 ・チラシ作成配布 2,000枚</p> <p>介護ロボットの定義や機能、種類また相談窓口の役割について広く周知広報することができた。</p>

Ⅶ 生活福祉資金貸付事業の推進															
総合支援資金、福祉資金、教育支援資金、不動産担保型生活資金及び離職者生活支援つなぎ資金の貸付															
所管部署 生活支援部															
具体的成果等															
令和4年度事業計画															
事業実施概要等						新型コロナウイルス感染症に 係る特例貸付の実施により、収 入の減少や失業した方等、生活 困窮者への経済的な支援を行う ことができた。									
〔令和4年度生活福祉資金申込及び貸付決定状況〕 (単位：千円)															
資金の種類	区分			申込状況			貸付決定状況			申込に対する 決定の比較		前年度 貸付決定状況		前年度に対する 比較 増 減	
	件数	金額	構成率%	件数	金額	構成率%	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
総合支援資金	生活支援費	964	517,300	964	517,300	58.8	100.0	100.0	7,346	4,693,050	△6,382	△4,175,750	△6,382	△4,175,750	
	(内数)特例貸付	964	517,300	964	517,300	—	100.0	100.0	7,346	4,693,050	△6,382	△4,175,750	△6,382	△4,175,750	
福祉資金	住宅入居費	0	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0	0	0	
	一時生活再建費	0	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0	0	0	
教育支援資金	福祉費	124	28,317	124	28,317	3.2	100.0	100.0	163	35,923	△39	△7,606	△39	△7,606	
	緊急小口資金 (内数)特例貸付	1,320 1,277	256,921 253,280	1,320 1,277	256,921 253,280	29.2 —	100.0 100.0	100.0 100.0	4,397 4,359	860,047 856,480	△3,077 △3,082	△603,126 △603,200	△3,077 △3,082	△603,126 △603,200	
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	0	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0	0	0	
	要保護世帯向け 不動産担保型 生活資金	0	0	0	0	0	—	—	1	6,818	△1	△6,818	△1	△6,818	
合計		2,531	879,344	2,531	879,344	100.0	100.0	100.0	12,013	5,676,021	△9,482	△4,796,677	△9,482	△4,796,677	
(内数)特例貸付		2,241	770,580	2,241	770,580	—	100.0	100.0	11,705	5,549,530	△9,464	△4,778,950	△9,464	△4,778,950	

[令和4年度離職者生活支援つなぎ資金申込及び貸付決定状況]

※ 平成21年10月創設

(単位：千円)

区分	申込状況		貸付決定状況		申込に対する決定の比較		前年度貸付決定状況		前年度に対する比較増減	
	件数	金額	件数	金額	件数%	金額%	件数	金額	件数	金額
資金の種類 離職者生活支援つなぎ資金	0	0	0	0	-	-	0	0	0	0

ア 適正な資金貸付の推進

市町村社協と連携して審査体制を充実し、適正な貸付を実行することにより、制度の趣旨に基づく生活福祉資金の運営を推進する。

生活福祉資金貸付審査等運営委員会の開催（年2回）

イ 生活福祉資金の広報及び活用促進
広報紙「ふくしのひろば」及びホームページ等において、資金の広報啓発を行う。

県社協のホームページ、広報紙「ふくしのひろば」他、各市町村の社協だより等により周知を図った。
また、民生委員の改選にあわせて、「民生委員さんの生活福祉資金貸付の手引書」を作成・配付により、制度の理解と周知を図った。

ウ 市町村社協担当職員研修の充実

資金貸付から債権回収までの一連の留意事項について周知を図るとともに、初任者向けのわかりやすい研修を行い、市町村社協担当職員のスキルアップを図る。

令和4年度第1回市町村社協生活福祉資金事務担当者会議
 〈期 日〉 令和4年4月27日(水)
 〈開催方法〉 Web会議システム (Zoom)
 〈参加者数〉 55人
 〈内 容〉 ①事務説明：「特例貸付における市町村社協の償還事務について」
 ②事業説明：「生活福祉資金貸付業務の流れとポイントについて」

令和4年度第2回市町村社協生活福祉資金事務担当者会議

令和4年度第2回市町村社協生活福祉資金事務担当者会議
 〈期 日〉 令和4年11月11日(金)
 〈開催方法〉 Web会議システム (Zoom)
 〈参加者数〉 40人
 〈内 容〉 ①事務説明：「特例貸付により貸付を受けた者への償還猶予の取扱について」

令和4年度第3回市町村社協生活福祉資金事務担当者会議

令和4年度第3回市町村社協生活福祉資金事務担当者会議
 〈期 日〉 令和4年12月27日(火)
 〈開催方法〉 Web会議システム (Zoom)
 〈参加者数〉 58人

生活福祉資金貸付制度の理解を深めることができた。

新型コロナウイルス感染症に係る特例貸付の現状と債権管理について理解を深めるとともに、各種資金の貸付相談におけるポイントを整理・確認することができた。

1	総合支援資金，福祉資金，教育支援資金，不動産担保型生活資金及び離職者生活支援つなぎ資金の貸付	生活支援部	生活支援部
令和4年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
<p>工 市町村社協の貸付事務指導 市町村社協の担当者との連携を十分に図り、適正な貸付事務ができるように年間を通して指導を行う。</p> <p>才 各市町村民生委員児童委員協議会の定例会研修への職員派遣 市町村単位民生委員協議会の定例会研修に出向き、資金の概要を説明し支援体制の理解を深めるとともに利用促進を図る。</p> <p>(2) 新型コロナウイルス感染症に係る特例貸付への対応 市町村社協と連携して適正な貸付を実行することにより、制度の趣旨に基づく生活福祉資金特例貸付の運営を推進する。</p> <p>(3) 市町村社協の相談支援体制の充実 相談支援体制を充実するため、専任の相談員を配置する市町村社協に対し財政的支援を行う。(対象社協：8社協)</p>	<p>〈内 容〉 ①事務説明：「令和5年度からの新規事業について」 令和4年度第4回市町村社協生活福祉資金事務担当者会議 〈期 日〉 令和5年2月24日(金) 〈開催方法〉 Web会議システム (Zoom) 〈参加者数〉 58人 〈内 容〉 ①事務説明：「特例貸付における貸付事務費と債権管理事務費の取扱いについて」 ②事業説明：「新規事業における進め方や人員配置、記録・報告等について」</p> <p>市町村社協担当職員からの相談・問い合わせに対して、事務処理にあたっての留意事項等の指導を行った。</p> <p>県内の各市町村民生委員協議からの要請により職員を派遣するとともに、研修会実施の支援を行った。</p> <p>市町村単位民生委員協議会 1回 200名 新任民生委員研修会 (県主催) 12回 1,170名</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入の減少や失業等により生活に困窮した方等を対象に、緊急小口資金等特例貸付を実施した。(令和2年3月25日～令和4年9月30日) 資金貸付に当たっては、市町村社協と連携して適正な貸付を行い、迅速な資金交付を行った。</p> <p>平成21年10月からの資金貸付制度の大幅な見直し・実施に伴い、市町村社協において相談件数の急増に対応し配置している専任の相談員の経費について、相談・貸付の状況に応じて財政的な支援を行った。 〈対象社協数〉 8市社協</p>	<p>市町村社協への迅速な事務指導により、円滑な資金貸付業務に寄与することができた。</p> <p>民生委員児童委員への制度の認識が深められた。</p> <p>特例貸付の実施により、収入の減少や失業した方等、生活困窮者への経済的な支援を行うことができた。</p> <p>市町村社協の相談員が増員配置されたこと等により、借入相談者への丁寧で適切な相談支援が図られ、過重となっていた相談員の負担軽減が図られた。</p>	

〈交付総額〉 31,610千円		〈内 容〉 相談員の人件費に対する経費の助成							
2 債権管理の強化	所管部署 生活支援部								
(1) 市町村社協等との連携による債権管理の充実 市町村社協や民生委員との緊密な連携の下、借入者の状況、債還状況等の把握と情報の整理、共有化に努める。 また、市町村社協の債還指導等に対し、適切な指導・助言を行う。	債還指導推進員を設置し、債権管理強化体制を強化した。 〈設置数〉 県 社 協 2人 鹿児島市社協 1人		専任者の配置により、債権管理体制が強化され借受関係者の状況把握や債還指導の充実が図られた。						
(2) 債権管理の強化、推進 債還滞り月間を設け、滞納債務者に督促状や催告書を、計画的に債還滞り者へは残額通知を送付し、債務状況の認識と債還意識の高揚を図るとともに、債還指導を強化する。特に滞り期間が長い者、債還実績が無い者等の悪質な滞納債務者に対しては、直接訪問し債還指導を行うとともに、必要に応じて法的処置を講ずる。	借受関係者の債務状況を確認するため、市町村社協へ毎月、債還月次報告書を送付した。 また、滞納している借受関係者に対して、「督促状」及び「残高のお知らせ」を発送し、債還指導を行った。 ①督促状送付 年 1回 (10月) 1,741件 1,867人 ②残高のお知らせ送付 年 1回 (10月) 1,763件 2,133人		滞納している借受関係者に対する文書や面接による債還指導の実施により、債還意識の喚起や債権回収が促進された。						
〔令和4年度生活福祉資金種類別償還状況：本則〕 (単位：千円)									
	償還計画額 A	償還免除額 B	償還予定額 C-A-B	償還済額 D	未償還額 C-D	償還率 D/C %	貸付中 の件数	前年度 償還率%	前年度に対す る比較増減
総支支援資金	54,480	1,251	53,229	2,964	50,265	5.6	156	8.7	△3.1
更生資金	29,573	1,132	28,441	1,780	26,661	6.3	87	4.3	2.0
障害者更生資金	7,097	334	6,763	278	6,485	4.1	14	5.6	△1.5
生活資金	2,619	0	2,619	27	2,592	1.0	7	3.8	△2.8
福祉資金	78,414	545	77,869	31,307	46,562	40.2	553	38.6	1.6
住宅資金	20,676	871	19,805	483	19,322	2.4	43	1.8	0.6
療養介護等資金	255	0	255	17	238	6.7	7	6.3	0.4
災害援護資金	1,744	0	1,744	222	1,522	12.7	12	11.1	1.6
生活復興支援資金	681	0	681	0	681	0	1	0	0
緊急小口資金	28,207	1,585	26,622	4,484	22,138	16.8	433	38.1	△21.3
小 計	169,266	4,467	164,799	38,598	126,201	23.4	1,157	26.4	△3.0
教育支援資金	149,036	1,760	147,276	34,934	112,342	23.7	1,381	27.0	△3.3

2 債権管理の強化		所管部署		生活支援部			
令和4年度事業計画		事業実施概要等				具体的成果等	
不動産担保型生活資金	0	0	0	0	0	1	-
要保護世帯向け不動産担保型生活資金	0	0	0	0	0	12	-
離職者支援資金	45,299	1,114	44,185	1,432	42,753	42	3.0
合計	418,081	8,592	409,489	77,928	331,561	2,749	21.5
現年度分	72,475	0	72,475	53,871	18,604		78.6
過年度分	345,606	8,592	337,014	24,057	312,957		6.3
〔令和4年度離職者生活支援つなぎ資金償還状況〕 (単位：千円)							
償還計画額 A	935	償還免除額 B	442	償還予定額 C=A-B	493	償還率 D/C %	8.9
離職者生活支援つなぎ資金				44	未償還額 C-D	449	貸付中の件数
							8
							前年度償還率% 1.9
							前年度に対する比較増減 7.0
〔令和4年度生活福祉資金種類別償還状況：コロナ特例貸付〕 (単位：千円)							
償還計画額 A	2,623,152	償還免除額 B	2,554,370	償還予定額 C=A-B	68,782	償還率 D/C %	55.1
総支援助資金（コロナ）	2,623,152				37,902	未償還額 C-D	30,880
緊急小口資金（コロナ）	1,449,738	1,281,278	168,460	107,947	37,902	償還率 D/C %	64.1
合計	4,072,890	3,835,648	237,242	145,849	107,947	償還率 D/C %	61.5
現年度分	4,049,325	3,834,176	215,149	143,944	143,944	償還率 D/C %	66.9
過年度分	23,565	1,472	22,093	1,905	20,188	償還率 D/C %	8.6
<p>(3) 償還困難案件の適切な処理 償還困難で償還免除の適格要件を具備する債権について、適切な処理を行う。</p> <p>訪問による償還指導や市町村社協を通じての状況調査等を実施し、借入関係者が死亡するなど免除要件に該当している案件については、償還免除を行い、貸付債権の適切な整理を行った。</p>							
				〈償還金免除〉 …………… 49件 償還元金免除額 9,037,500円 貸付利子免除額 491,067円 延滞利子免除額 22,444,100円 〈延滞利子免除〉 …………… 16件 延滞利子免除額 8,072,864円			

<p>(4) 市町村社協における債権管理の充実</p> <p>ア 民生委員との連携により不良債権の債務者生活実態を把握する。</p> <p>イ 滞納者に対する債還指導を行う。</p>	<p>不良債権の回収など市町村社協における債権管理機能を一層強化するため、市町村社協に対し次のとおり助成金を交付した。</p> <p>〈交付社協数〉 34社協</p> <p>〈交付総額〉 2,400千円</p>																			
<p>(5) 新型コロナウイルス感染症に係る特例貸付の債権管理</p> <p>ア 市町村社協等との連携により債権管理の充実を図る。</p> <p>イ 債還免除への対応</p> <p>債還免除の適格要件を具備する債権について、適切な処理を行う。</p>	<table border="0"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>債還免除対象件数</td> <td>25,716件</td> </tr> <tr> <td>"</td> <td>債還免除決定件数</td> <td>11,519件</td> </tr> <tr> <td>"</td> <td>" 決定金額</td> <td>3,836,328,426円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(免除決定率：44.8%)</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>債還猶予決定件数</td> <td>1,148件</td> </tr> <tr> <td>"</td> <td>" 決定金額</td> <td>383,970,000円</td> </tr> </table>	令和4年度	債還免除対象件数	25,716件	"	債還免除決定件数	11,519件	"	" 決定金額	3,836,328,426円			(免除決定率：44.8%)	令和4年度	債還猶予決定件数	1,148件	"	" 決定金額	383,970,000円	<p>債還免除及び債還猶予業務を適切に実施したことにより、特例貸付の債権管理業務を推進することができた。</p>
令和4年度	債還免除対象件数	25,716件																		
"	債還免除決定件数	11,519件																		
"	" 決定金額	3,836,328,426円																		
		(免除決定率：44.8%)																		
令和4年度	債還猶予決定件数	1,148件																		
"	" 決定金額	383,970,000円																		

Ⅷ すこやか長寿社会づくり運動の推進		所管部署	長寿社会推進部
1 すこやか長寿社会づくり運動の推進		具体的成果等	
令和4年度事業計画		事業実施概要等	
(1) 広報媒体による意識啓発 ア ポスター・チラシの作成及び配布 部数 ポスター：300枚程度 チラシ：10,000枚程度 イ 広報紙「ふくしのひろば」による広報（発行部数：13,700部×6回） ウ ホームページによる広報 エ 「老人の日・老人週間」の周知広報 オ 「高齢者元気・ふれあい推進月間」の周知広報	すこやか長寿社会運動の推進を図るため、次の広報活動を行った。 ① 「ふくしのひろば」による広報（13,700部×6回 2ヶ月に1回） ② ホームページによる広報 ③ ポスター（300枚）・チラシ（12,000枚）の作成 配布先：市町村社協、県・市町村老連、市町村担当課、県関係機関 ④ 「老人の日・老人週間」のポスター配布（100枚）	広報紙等の啓発活動により、定期的・継続的な情報提供ができた。	
(2) シルバー文化作品展の開催 ア 展示期間 令和4年9月7日(水)～11日(日) ※搬入日 9月2日(金) 関連イベント ・開場式 9月7日(水) ・ギャラリートーク 日本画・洋画・書 9月7日(水) 工芸・写真・彫刻 9月11日(日) ・表彰式 9月11日(日) イ 会場 県歴史・美術センター黎明館 ウ 対象部門 日本画、洋画、書、工芸、写真、彫刻の6部門 エ 対象者 県内在住の60歳以上の者 オ 出品料 1,000円 カ その他 施設等での入賞作品の展示	高齢者の趣味活動や文化創作意欲を高めるとともに、広く県民に高齢者の文化作品の鑑賞機会を提供した。 なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、関連イベント（開場式・ギャラリートーク・表彰式）は中止とした。 〈部門〉 日本画、洋画、書、工芸、写真、彫刻 〈会場〉 県歴史・美術センター 黎明館 〈会期〉 令和4年9月7日(水)～11日(日) 〈出品数〉 日本画28点、洋画78点、書44点、工芸43点、写真 47点、彫刻10点 〈入場者数〉 2,938人 〈表彰〉 (87点) 県知事賞 1点(洋画) 特別賞(寺園勝志賞) 1点(日本画) 県社会福祉協議会会長賞 6点(各部門1点) 審査委員長賞 3点 洋画1点、工芸1点、彫刻1点 金賞 16点 日本画3点、洋画3点、書3点、工芸3点、写真3点、彫刻1点 銀賞 19点 日本画3点、洋画4点、書4点、工芸3点、写真4点、彫刻1点	高齢者の趣味活動や文化創作意欲を高めるとともに、幅広い世代にすこやか長寿社会運動をPRすることができた。 ※参考 (R3は中止のためR2と比較) R2年度出品数 234点 対前回比 106.8% R2年度入場者数 2,332人 対前回比 125.9%	

	<p>銅賞 15点 賞 10点 賞 4点</p> <p>日本画1点, 洋画4点, 書3点, 工芸3点, 写真4点 日本画1点, 洋画4点, 書2点, 工芸1点, 写真2点 洋画1点, 書1点, 工芸1点, 写真1点</p> <p>〈入賞作品の貸出〉 作品展の入賞者に対し、福祉施設等への展示依頼を行い、施設等の入所者等に作品鑑賞機会を提供した。(貸出…15点, 8か所)</p>	<p>高齢者の健康づくりに資することのできた。</p> <p>R3年度参加者数 5,265人 対前年度 93.6%</p>																																																												
<p>(3) いいきシルバースポーツ大会の実施 ア 実施カ所 県下7地区 イ 実施方法 県老人クラブ連合会に委託</p>	<p>高齢者の心身の健康と生きがいの助長を図るとともに、高齢者に対する地域住民の理解と関心を高めるため、県老人クラブ連合会に事業の実施を委託してシルバースポーツ大会を実施した。</p> <p>〈開催時期〉 令和4年6月～令和5年2月 〈開催場所〉 県下7地区 (鹿児島、南薩、北薩、始良・伊佐、大隅、熊毛、大島) 〈参加者数〉 4,931人</p>	<p>23種目(24チーム)に監督・選手176人及び役員9人を派遣した。</p> <p>各競技で優秀な成績を収めるとともに、他県選手や地元の方々と親睦を深めることができ、すこやかで心豊かな長寿社会の形成に大いに寄与することができた。</p>																																																												
<p>(4) 全国健康福祉祭派遣事業 ア 派遣期間 令和4年11月11日(金)～11月15日(火) イ 派遣地 神奈川県内(17市7町) ウ 派遣人員 159人(予定)</p>	<p>高齢者の健康と福祉に関する総合的な普及啓発イベントである「第34回全国健康福祉祭神奈川・横浜・川崎・相模原大会(ねんりんピックかながわ2022)」に選手を派遣した。</p> <p>〈主催〉 厚生労働省、神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、(一財)長寿社会開発センター 〈会期〉 令和4年11月12日(土)～15日(火) 〈開催地〉 神奈川県内15市4町 〈参加イベント〉 総合開会式・総合閉会式、スポーツ交流大会、ふれあいスポーツ交流大会、文化交流大会、美術展 〈参加競技種目と派遣選手〉</p>	<p>各競技で優秀な成績を収めるとともに、他県選手や地元の方々と親睦を深めることができ、すこやかで心豊かな長寿社会の形成に大いに寄与することができた。</p>																																																												
<p>派遣人員：監督・選手176人(23種目24チーム) 役員9人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">スポーツ交流大会</th> <th colspan="2">ふれあいスポーツ交流大会</th> <th colspan="2">文化交流大会</th> </tr> <tr> <th>種目</th> <th>チーム数</th> <th>選手数</th> <th>種目</th> <th>チーム数</th> <th>選手数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>卓球</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>水泳</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>テニス</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>ケラウンド・ゴルフ</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>ソフトニス</td> <td>1</td> <td>9</td> <td>ラゲビー</td> <td>1</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>ソフトボール</td> <td>1</td> <td>15</td> <td>サッカー</td> <td>1</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>ゲートボール</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>ソフトバレーボール</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>ペタンク</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>太極拳</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>ゴルフ</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>軟式野球</td> <td>1</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>マラソン</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>ターゲットバードゴルフ</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>			スポーツ交流大会		ふれあいスポーツ交流大会		文化交流大会		種目	チーム数	選手数	種目	チーム数	選手数	卓球	1	6	水泳	1	7	テニス	1	7	ケラウンド・ゴルフ	1	6	ソフトニス	1	9	ラゲビー	1	17	ソフトボール	1	15	サッカー	1	17	ゲートボール	2	10	ソフトバレーボール	1	7	ペタンク	1	3	太極拳	1	7	ゴルフ	1	3	軟式野球	1	15	マラソン	1	6	ターゲットバードゴルフ	1	4
スポーツ交流大会		ふれあいスポーツ交流大会		文化交流大会																																																										
種目	チーム数	選手数	種目	チーム数	選手数																																																									
卓球	1	6	水泳	1	7																																																									
テニス	1	7	ケラウンド・ゴルフ	1	6																																																									
ソフトニス	1	9	ラゲビー	1	17																																																									
ソフトボール	1	15	サッカー	1	17																																																									
ゲートボール	2	10	ソフトバレーボール	1	7																																																									
ペタンク	1	3	太極拳	1	7																																																									
ゴルフ	1	3	軟式野球	1	15																																																									
マラソン	1	6	ターゲットバードゴルフ	1	4																																																									

1 すこやか長寿社会づくり運動の推進	所管部署	長寿社会推進部															
<p>令和4年度事業計画</p>	<p>事業実施概要等</p>																
<p>弓道 剣道 計(10)</p>	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>7</td> <td>ダンスホーツ</td> <td>1</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>5</td> <td>インディアカ</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>71</td> <td>計(10)</td> <td>10</td> <td>95</td> </tr> </table>	1	7	ダンスホーツ	1	8	1	5	インディアカ	1	7	11	71	計(10)	10	95	<p>具体的成果等</p>
1	7	ダンスホーツ	1	8													
1	5	インディアカ	1	7													
11	71	計(10)	10	95													
<p>〈美術展への出品〉 令和2年度シルバークラフト文化作品展の上位入賞者の作品をねんりんピックかながわ2022美術展に出品した。</p>																	
<p>・会場 神奈川県民ホール ギャラリー ・出品数 12点(日本画・洋画・書・工芸・写真・彫刻の部 各2点) ・期間 11月12日(土)～15日(月)</p>																	
<p>〈主な成績〉 ・交流大会</p>																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>団体戦</th> <th>個人戦</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優勝</td> <td>1チーム(サッカー)</td> <td>4人(水泳,将棋)</td> </tr> <tr> <td>準優勝</td> <td>なし</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>2チーム(ソフトテニス・ソフトバレーボール)</td> <td>2人(水泳)</td> </tr> </tbody> </table>			区分	団体戦	個人戦	優勝	1チーム(サッカー)	4人(水泳,将棋)	準優勝	なし	なし	3位	2チーム(ソフトテニス・ソフトバレーボール)	2人(水泳)			
区分	団体戦	個人戦															
優勝	1チーム(サッカー)	4人(水泳,将棋)															
準優勝	なし	なし															
3位	2チーム(ソフトテニス・ソフトバレーボール)	2人(水泳)															
<p>・美術展</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>賞</th> <th>部門</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>横浜市長賞</td> <td>写真の部</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>金賞</td> <td>工芸の部</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>銀賞</td> <td>洋画の部</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>			賞	部門	人数	横浜市長賞	写真の部	1人	金賞	工芸の部	1人	銀賞	洋画の部	1人			
賞	部門	人数															
横浜市長賞	写真の部	1人															
金賞	工芸の部	1人															
銀賞	洋画の部	1人															
<p>(5) 高齢者による社会参加活動の促進 ア かながわアクティブシニアのちから活用事業</p>	<p>ア かながわアクティブシニアのちから活用事業 地域活動に意欲のある高齢者を「いきいきシニア人材バンク」に登録し、社会参加の促進を図ってきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、令和5年2月21日開催「ふれあい・いきいきサロン研究会」のみ運営ボランティアを募集し、9人が参加した。 〈登録件数〉 団体：17団体 個人：90人</p>																
<p>イ 世代間交流活動支援事業</p>	<p>イ 世代間交流活動支援事業 元気高齢者と児童・生徒等の異なる世代とふれ合う機会を提供するため、自主活動グループの支援を行った。</p>																
<p>社会参加活動希望者に対する活動機会の提供や活動情報発信等により、高齢者による社会参加活動の促進が図られ、地域活動の活性化に資することとなりました。</p>																	

	<p>【支援対象団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿兒島県おもちゃ病院連絡協議会 (活動中止中) ・読み聞かせグループ たけとんぼ ・なかよしパソコンお絵かきクラブ <p>【支援実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃ病院に関する問い合わせ対応 (情報提供) 1回 								
2	<p>かごしまシニア人材育成促進事業</p> <p>(1) 研修等の運営 (年間3地域×3年間=計9地域) ア 研修内容等 (7) 人材育成基礎研修 (1日開催) ①対象者 市町村・市町村社会福祉協議会の職員 ②内容 ・高齢者の人材育成についてのメリットと留意点 ・高齢者の人材育成に必要なスキルなど (4) 人材育成講座 (半日開催) ①対象者 市町村・市町村社会福祉協議会の職員、地域の高齢者 ②内容 地域における高齢者の役割、地域活動についての情報交換など (7) 人材育成実践研修 (半日開催) ①対象者 市町村・市町村社会福祉協議会の職員、地域の高齢者</p>	<p>所管部署</p> <p>長寿社会推進部</p> <p>市町村等職員はシニア人材の育成・活用に必要なスキルが得られ、地域活動に意欲のある高齢者については、必要な知識を習得し、地域の実情に応じた活動の実践につなげることができた。</p>							
<p>実施内容・参加者数</p> <p>開催地域・日程</p> <p>【北薩地域】 本研修： 7月6日(水)～7日(木) フォローアップ研修： 11月17日(木)</p> <p>【大島地域 (徳之島等)】 本研修： 7月21日(木)～22日(金) フォローアップ研修： 12月 8日(木)</p>	<p>本 研 修</p> <table border="1"> <tr> <td>人材育成 基礎研修</td> <td>市町村等：26人</td> </tr> <tr> <td>人材育成講座</td> <td>市町村等：27人 高齢者：17人</td> </tr> <tr> <td>人材育成 実践研修</td> <td>市町村等：27人 高齢者：17人</td> </tr> </table> <p>フォローアップ研修</p> <table border="1"> <tr> <td>市町村等：23人 高齢者：17人</td> </tr> <tr> <td>市町村等：11人 高齢者：17人</td> </tr> </table>	人材育成 基礎研修	市町村等：26人	人材育成講座	市町村等：27人 高齢者：17人	人材育成 実践研修	市町村等：27人 高齢者：17人	市町村等：23人 高齢者：17人	市町村等：11人 高齢者：17人
人材育成 基礎研修	市町村等：26人								
人材育成講座	市町村等：27人 高齢者：17人								
人材育成 実践研修	市町村等：27人 高齢者：17人								
市町村等：23人 高齢者：17人									
市町村等：11人 高齢者：17人									

<p>かごしまシニア人材育成促進事業</p>	<p>所管部署</p>		<p>長寿社会推進部</p>
<p>事業実施概要等</p>			
<p>【大隅地域（肝属地区）】 本研修： 8月3日(水)～4日(木) フォローアップ研修： 11月29日(火)</p>	<p>市町村等：18人 高齢者：13人</p>	<p>市町村等：12人 高齢者：13人</p>	<p>市町村等：10人 高齢者：8人</p>
<p>具体的成果等 合計：352人</p>			
<p>令和4年度事業計画 議会の職員、地域の高齢者 ②内容 地域課題解決のための具体的取組の作成 (エ)フォローアップ研修（半日開催） ①対象者 市町村・市町村社会福祉協議会の職員、地域の高齢者 ②内容 地域毎の具体的な取組の現状確認や改善・促進策等に関するグループワークの実施 イ 開催地域 北薩地域、大隅地域（肝属）、大島地域（徳之島等）</p>	<p>(2) 事例集の作成・配布 ア 内容・配布数 ①市町村等による取組事例集 485部 ②シニア世代の活動好事例集 575部 イ 配布先 市町村、市町村社協、県関係先</p>		
<p>(2) 事例集の作成・配布 ア 内容 (7)市町村等による取組事例集 (イ)シニア世代の活動好事例集 イ 作成数 各500部程度 ウ 配布先 市町村、市町村社協、県関係先など</p>	<p>(2) 事例集の作成・配布 ア 内容・配布数 ①市町村等による取組事例集 485部 ②シニア世代の活動好事例集 575部 イ 配布先 市町村、市町村社協、県関係先</p>		

Ⅹ 地域医療介護総合確保基金事業の推進		介護実習・普及センターほか	
1 介護の仕事理解促進事業		所管部署	
令和4年度事業計画		具体的成果等	
(1) 地域コミュニティ福祉体験教室開催事業 高齢者疑似体験、車いす体験、ユニバーサルデザイン・自助具体験の実施 実施数 31か所程度	遠隔地等の小・中学校、高等学校等を訪問して、福祉体験教室を開催した。児童・生徒の高齢者や障害のある人に対する理解促進と福祉の心の涵養を図り、将来の介護の担い手育成に資することを目的に高齢者疑似体験・車いす体験・ユニバーサルデザイン及び自助具体験を行った。	事業実施概要等	児童・生徒に、介護等の体験を広く提供することの思いやりの心が育まれ、介護の仕事への理解と関心を高めることができた。教育現場における福祉体験活動の普及が図られた。
イ 実施場所 鹿嶋市から遠隔地の小・中学校、高等学校等		実施期間	
		区分	
		小学校	参加者数 524人
		中学校	22校 174人
		義務教育学校	6校 26人
		高等学校	1校 88人
		合計	33校 812人
(2) 未来の福祉・介護担い手スタートアップ事業及び介護事業所の「小中高生と相互訪問」の職員実地実施。	子どもたちの福祉・介護の職場への興味や関心を高めるため、小・中・高校や介護事業所において、介護に関する講話等を実施した。 実施校数 15校（小学校6、中学校2、高等学校7） 参加者数 696人 協働事業所数 14事業所 特別養護老人ホーム1、その他3 多機能ホーム8、介護老人保健施設2、小規模		福祉・介護の職場に興味を持つ機会を作ることで、将来の多分野でも活躍することへの希望も生まれるよう、小中高生に期待を込めてきた。
(3) 介護教室派遣事業 県内の事業所や各種団体等に理学療法士、作業療法士、福祉指導者、社会福祉士、介護指導者を派遣する派遣数 22か所程度 ア 派遣数 ⇒ 14か所へ契約変更 イ 研修内容の基礎 (7) 在宅介護の基礎 (4) 介護保険と福祉用具の利用方法 (4) 認知症の理解と対応 (エ) お口のケアと飲み込む体操 (オ) 足腰げんき体操 (カ) 笑顔で脳トレ	企業等における介護離職の防止や就労の継続を図るとともに、地域における福祉人材の育成・確保につなげるため、県内の事業所を開業等に、福祉・介護・医療の専門家講師を派遣し、介護教室を開催した。 〈実施期間〉令和4年7月28日～令和5年2月17日		介護の基礎的知識や技術を提供できることで、介護士としての成長や地域の人材の育成に資するところを図ることができた。
		講座名	参加者数 (人)
		箇所数 (箇所)	
		認知症って？認知症の理解と対応	6 132
		健康寿命を延ばす足腰げんき体操	2 44
		かんたん楽しい！笑顔で脳トレ	6 147
		計	14 323

<p>2 介護職員チームリーダー養成研修支援事業</p>	<p>令和4年度事業計画</p>	<p>所管部署 福祉人材・研修センター</p>
<p style="text-align: center;">事業実施概要等</p> <p>新人職員の定着と離職防止、質の高い介護サービスの提供を促すため、介護事業所に勤務する中堅職員等を対象に新人職員への指導方法等も含めたスキルアップ研修を実施した。</p> <p>研修実施箇所 26か所（離島7か所） 研修実施回数 43回 参加事業所数 118事業所 研修参加人数 496人（研修会1回当たり参加人数約11名）</p>		
<p style="text-align: center;">3 住民参加型福祉サービス支援事業</p> <p>住民参加型在宅福祉サービス団体の立ち上げ支援及び既存団体活性化支援</p> <p>(1) 支援実施地域の選定（6か所程度） (2) ワークショップや担い手養成講座等の実施 (3) 先進地域の視察調査</p> <p>地域に暮らす高齢者や意欲のある地域住民に住民参加型福祉サービス活動への参加及び組織化・活性化を促し、持続的な生活支援の担い手養成等を図り、高齢者等の生活支援や介護予防の推進に努めた。</p> <p>① 支援実施地域の選定 この事業に参加意向を持つ市町村社協から次のとおり選定した。 ア 新規団体立ち上げ支援参加社協…阿久根市社協、長島町社協、徳之島町社協 イ 既存団体活性化支援参加社協…大和村社協、徳之島町社協、和泊町社協</p>		
<p>新規団体立ち上げ支援</p>	<p>主な支援の実施内容</p> <p>【団体名：Kindness（カインドネス）】 (1) 担当職員との事業打合せ（8月） (2) 担当職員の広報スキルアップ研修（9月） (3) 対象学生へのワークショップ（10月） （高齢者疑似体験装備での日常生活体験から高齢者等の日常生活における課題と支援ボランティアについて考える） (4) 立ち上げメンバーの確定、担当職員との打ち合わせ（11月・12月）</p>	<p>設立又は活動開始年月日</p> <p>令和5年3月22日</p>
<p>阿久根市</p>	<p>主なサービスの内容</p> <p>話し相手、見守り、地域食堂のサポート</p>	<p>サービス支援員数</p> <p>8人</p>
<p style="text-align: center;">具体的成果等</p> <p>介護事業所に勤務する中堅職員等の資質向上を通じて、若手職員の離職防止や事業所の介護サービスの質の向上に資するとともに、職場内研修の充実にも資することができた。</p>		

3 住民参加型福祉サービス支援事業		所管部署		ボランティアセンター	
令和4年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等	
既存団体活性化支援	主な支援内容	主な強化内容・成果等	サービス利用者	サービス支援員	
大和村	<p>【団体名：大和村地域支え合い団体】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 村内11集落の地域支え合い団体代表者に向けて事業説明会の実施(7月) (2) 担当職員の見学ツアー(9月) (3) 4地区の代表者によるワークショップ(10月) (4) 地域を超えたネットワークづくりについて (5) オンラインによる担当者会議(10月) (6) 地域食堂の試み(11/12(土) 名音地区) (7) オンラインによる担当者との打ち合わせ(12月) (8) 11集落の支援員による交流・意見交換会の開催(3月) 	<p>立ち上げから11年が経過し、団体間に格差が広がりました。また、特色ある活動が学ばれたり、活動を補完し合えるネットワークづくりが課題でした。</p> <p>高齢者の食事に関する支援活動を行うところが多かったため、団体の垣根を越えて取り組みやすい「地域食堂」を定期的に団体を変えて開催し、開催団体は周辺の団体にサポートを依頼する形からネットワークづくりを進めることとなった。</p> <p>3月には、地域を越えたサービス支援員の交流・意見交換会を実施し、令和5年度には11団体の活動周知やサービス支援員の確保等を目的に「ふくし大会」の運営に協働で携わることが決まるなど、ネットワークの形成に期待が持てるままであった。</p>	250人	20人	
先進地視察	<ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉法人隣の会、鹿屋市社協(鹿屋市 R4/12/8) (2) いっただんもめんと結の家(肝付町)、ひまわりハウス加治木(始良市) (R4/12/9) 				
徳之島町	<p>【団体名：徳之島町生活支援サービス】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) オンラインによる担当者との打ち合わせ(7月) (2) 担当職員の広報スキルアップ研修(9月) (3) 尾母地区住民へ地域の現状について聞き 	<p>サービスの支援員・利用者ともに少ないことが課題だった。</p> <p>まず広報スキルアップ研修を行い、サービス利用者掘り起こしのための広報チラシを</p>	16人	14人	

		取り(10月) (4) オンラインによる担当者会議(11月) (5) サービス支援員養成と新規募集のための講座(室内清掃スキルアップ研修)(2月) なし	作成するなど広報機能の強化が図られ、利用者が3人増となった。 また、サービス支援員を新たに確保するためのサービス支援員養成講座も開催し、サービス支援員が1人増加した。		
先進地視察					
和泊町	ワークショップ や養成講座等	【団体名：和泊町「あぐネット」】 (1) オンラインによる担当者との打ち合わせ(7月) (2) 担当職員の広報スキルアップ研修(9月) (3) サービス支援員との意見交換会(9月) (4) サービス支援員によるワークショップ(活動上の困りごと地域の「あぐネット」) (5) オンラインによる担当者会議(11月) (6) サービス支援員・新規サービス支援員養成講座(室内清掃スキルアップ研修)(1月)	サービス支援員との意見交換会やワークショップ等を通じて、「あぐネット」の認知度が低いこと、また特定のサービス支援員に活動が偏りがちになるなど課題の明確になった。 認知度向上の強化策として、携行・配布しやすいリーフレットを新たに作成し、利用対象の住民やその家族等への手渡し配布などをサービス支援員や民生委員、見守り隊などに要請し、「あぐネット」の認知度向上とともに、利用しやすい環境づくりを整えた。 また、既存サービス支援員のスキルアップと新規サービス支援員の確保に向けて支援員養成講座を開催し、2人の新規支援員増につながった。	23人	14人
	先進地視察	(1) 湧水町わくわくサービス(湧水町社協), ひまわりハウスしげとみ(始良市)(R4/12/15(木)) (2) 薩摩川内市地域支え愛事業(薩摩川内社協), さつま町地域互助活動(さつま町社協), ちよこつと世話焼き隊(阿久根市)(R4/12/16(金)) (3) いったんもめんと結の家(肝付町)(R4/12/17(土))			
		③ その他 事業を円滑に進めるため「住民参加型福祉サービス支援事業参加社協分担金交付要項」に基づき、参加社協が事業実施に要する経費について8万円を上限に参加社協へ交付した。 (1) 阿久根市社協(新規団体立上げ支援)……………80,000円 (2) 長島町社協(新規団体立上げ支援)……………80,000円			

3	住民参加型福祉サービス支援事業	事業実施概要等	所管部署 ボランティアセンター
令和4年度事業計画		<p>(3) 徳之島町社協（新規団体立上げ＋既存団体活性化支援）80,000円＋56,000円＝136,000円</p> <p>(4) 大和村社協（既存団体活性化支援）80,000円</p> <p>(5) 和泊町社協（既存団体活性化支援）80,000円</p> <p style="text-align: right;">合計 456,000円</p>	具体的成果等
4	離職介護職員の登録促進事業	<p>① 届出制度に関する相談及び問合せ対応</p> <p>② 市町村社協、介護事業所、養成校等におけるポスター、リーフレット等を活用した周知広報</p> <p>③ 届出システムと福祉人材情報システム等との連携等</p>	<p>所管部署 福祉人材・研修センター</p> <p>離職した場合の円滑な再就業の促進に向けた登録体制の充実に資することができた。</p> <p>令和4年度 新規登録者数 97人</p> <p>(参考：登録者数) 令和4年度末 登録者数 1,199人 令和3年度末 登録者数 921人 令和2年度末 登録者数 864人</p>
5	介護の入門的研修事業	<p>① 介護の入門的研修の実施 〈実施場所〉 県内7か所 〈参加者数〉 受講者数 132名（修了者数125名） 〈研修時間〉 21時間（1地区7時間×3日間） 〈研修内容〉 基礎知識、認知症・障害への理解、基本的な介護の方法など</p> <p>② 研修終了者へのフォローアップ 就労を希望する者に対する就職支援 求職票提出者数 22名 就労決定者数 1名</p>	<p>所管部署 福祉人材・研修センター</p> <p>介護未経験者が、介護の業務に携わる上で、知っておくべき基本的な介護技術を内容とする入門的研修の実施により、介護の仕事への理解が深まり、業務に携わる上での不安を払拭し、介護分野への多様な人材の参入のきっかけづくりに資することができた。</p>

<p>(2) 研修終了者へのフォローアップ 就労を希望する者に対する就 職支援</p>		
<p>6 介護分野への元気高齢者等参入促進セミナー事業</p>		
<p>(1) 高齢者等を対象とするセミナー等の開催 ア セミナー等の開催（県内4か所） 介護に関する高齢者向けセミナーを開催することにより介護分野への就労に向けた気運を醸成し、就職面談会への参加を促進する。 イ 出張講座の開催（県内13か所） 高齢者向けイベント等の機会を活用し、介護の入門的研修等の事業を紹介する。</p>	<p>高齢者等（概ね55歳以上）を対象とするセミナー及び出張講座を開催した。 ① セミナー開催地区 4地区（鹿児島、北薩、大隅、大島） ※ 大隅、北薩及び鹿児島地区は、福祉・介護の職場就職面談会と合同で開催 〈参加人数〉85人 ② 出張講座開催か所 13か所 ※ 日置市、枕崎市、薩摩川内市（2か所）、阿久根市、霧島市、始良市（2か所）、湧水町、鹿屋市、肝付町、西之表市、天城町 〈参加人数〉468人 ③ 就職面談会参加者数 26人 採用決定者数 1人</p>	<p>所管部署 福祉人材・研修センター 高齢者等を対象にセミナーや出張講座を開催し、福祉現場で介護人材が不足していること、高齢者でもできる介護助手等の紹介を通じて介護現場への関心を高め、就職面談会等への参加を促すことができた。</p>
<p>(2) セミナー受講者等へのフォローアップ 就労を希望する者に対する就職支援を実施する。</p>		

X 県社会福祉センターの管理・運営		所管部署	総務部																																																					
1 県社会福祉センターの整備及び維持管理、利用促進等		具体的成果等																																																						
令和4年度事業計画	事業実施概要等	経年劣化等に伴う不具合等については速やかに修繕を行うとともに、更新が必要な設備等の調査等を行うなど館利用者等の利便性向上に寄与した。																																																						
(1) 県社会福祉センターの維持管理（緊急を要する修繕工事のほか、法令等に基づき設備等の更新・改修工事等を含む）	<p>民間社会福祉団体の活動拠点施設として、適切かつ効率的な管理運営に努め利用促進を図った。</p> <p>① 法定による保守点検等の実施と届出 「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づく保守点検及び消防用設備等の必要な維持管理を行った。</p> <p>② 施設整備（小規模補修は除く）</p> <p>(1) 1階トイレ・宿泊室埋込型換気扇取替工事</p> <p>(2) 別館外壁パネル張替・目地シーリング工事</p> <p>(3) 県庁側・2階内側入口自動ドア更新工事</p> <p>(4) 5階LEDランプ取替工事</p> <p>(5) 煙感知器・避難誘導灯等不良設備取替工事</p>	<p>宿泊施設利用はコロナウィルス感染症拡大防止による利用制限の影響があったが、全会議室にインターネット環境を整備したことにより利用促進及び利便性向上に寄与した。</p>																																																						
(2) 会議室、宿泊室の利用促進	<p>本会ホームページの掲載内容見直しのほか、来館者にリーフレットや「宿泊室のご案内」のチラシを配布するなど、会議室・宿泊室の利用促進を図った。</p> <p>なお、会議室及び宿泊室の利用状況は下表のとおり。</p>	<p>〔会議室利用状況〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">福祉関係</th> <th colspan="2">一般</th> <th colspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>回数</th> <th>金額(円)</th> <th>回数</th> <th>金額(円)</th> <th>回数</th> <th>金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>818</td> <td>6,907,810</td> <td>170</td> <td>2,224,170</td> <td>988</td> <td>9,131,980</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>554</td> <td>3,955,510</td> <td>259</td> <td>3,119,870</td> <td>813</td> <td>7,075,380</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>82.3%</td> <td>77.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>〔宿泊施設利用状況〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">合計</th> <th colspan="2">対前年度</th> </tr> <tr> <th>人員</th> <th>金額</th> <th>人員比較</th> <th>金額比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>234</td> <td>663,000</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>320</td> <td>919,400</td> <td>136.7%</td> <td>138.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>宿泊施設利用はコロナウィルス感染症拡大防止対策の緩和により利用者増となった。</p>		区分	福祉関係		一般		合計		回数	金額(円)	回数	金額(円)	回数	金額(円)	令和3年度	818	6,907,810	170	2,224,170	988	9,131,980	令和4年度	554	3,955,510	259	3,119,870	813	7,075,380						82.3%	77.5%	区分	合計		対前年度		人員	金額	人員比較	金額比較	令和3年度	234	663,000	—	—	令和4年度	320	919,400	136.7%	138.6%
区分	福祉関係		一般		合計																																																			
	回数	金額(円)	回数	金額(円)	回数	金額(円)																																																		
令和3年度	818	6,907,810	170	2,224,170	988	9,131,980																																																		
令和4年度	554	3,955,510	259	3,119,870	813	7,075,380																																																		
					82.3%	77.5%																																																		
区分	合計		対前年度																																																					
	人員	金額	人員比較	金額比較																																																				
令和3年度	234	663,000	—	—																																																				
令和4年度	320	919,400	136.7%	138.6%																																																				

<p>(3) 省エネルギー対策の推進</p>	<p>① 休憩時間における照明の消灯やクールビズ・ウォームビズによる空調機器利用抑制等の省エネルギー対策を推進した。 ② 県社会福祉センター事務室内の照明器具をLED照明に改修するなど、消費電力の低減に努めた。</p>	<p>ハードとソフトウェア両面からの省エネルギー対策を推進すること で、職員も省エネルギーについて の意識が高まった。</p>
<p>(4) 入居団体との連絡調整</p>	<p>県社会福祉センターにおける消防訓練（同時訓練）の実施など 共通して取り組むべきこと及び県社会福祉センターの管理運営と 連絡調整が必要事項や工事に関すること等について、随時入居団体と 連絡調整を行った。</p>	<p>入居団体及び県青少年会館と 連携すること、同一敷地内に 勤務する全ての職員の防災意識 等の向上や連携・協力の構築 に資することができた。</p>

XI 会務の運営並びに連絡調整等		所管部署	総務部
1	役員会等の開催		
令和4年度事業計画		具体的成果等	
(1) 理事会の開催 3回(6月, 3月)	<p>① 第214回理事会(令和4年度第1回) <日 時> 令和4年6月3日(金) 午前10時～ <場 所> 鹿児島県社会福祉センター 別館 会議室 <上程議案> 第1号議案 令和3年度事業報告について 第2号議案 令和3年度一般会計及び生活福祉資金会計決算について 第3号議案 理事候補者の選定について 第4号議案 評議員候補者の選定及び評議員選任・解任委員会の開催について 第5号議案 令和4年度定時評議員会の招集について 第6号議案 評議員選任・解任委員会委員の選任について 第7号議案 会計監査人の報酬について 報告第1号 専決処分分の報告について 報告第2号 令和3年度福祉サービス運営適正化委員会業務報告について</p> <p>② 第215回理事会(令和4年度第2回) <日 時> 令和4年6月21日(火) 午後1時～ <場 所> 鹿児島県社会福祉センター 別館 会議室 <上程議案> 第1号議案 常務理事の選定について</p> <p>③ 第216回理事会(令和4年度第3回) <日 時> 令和5年3月15日(水) 午前10時30分～ <場 所> 鹿児島県社会福祉センター 別館 会議室 <上程議案> 第1号議案 令和4年度一般会計及び生活福祉資金会計資金収支補正予算(案)について 第2号議案 令和5年度事業計画(案)について 第3号議案 令和5年度一般会計及び生活福祉資金会計資金収支予算(案)について</p>	<p>本会の経営に重要な事業計画, 予算, 役員等改選及び諸規程等改正の審議のため, 適宜理事会・評議員会を開催し, 効率的かつ適正・確実な法人経営が図られた。</p>	

	<p>第4号議案 評議員候補者の選定及び評議員選任・解任委員会の開催について</p> <p>第5号議案 役員及び評議員等の報酬等に関する規程の一部改正について</p> <p>第6号議案 第193回評議員会の招集について</p> <p>報告第1号 令和4年度生活福祉資金会計第1次資金収支補正算の件</p> <p>第2号 令和4年度一般会計第2次資金収支補正予算の件</p> <p>第3号 令和4年度一般会計第3次資金収支補正予算の件</p> <p>第4号 就業規則及び職員給与規程の一部改正の件</p> <p>第5号 就業規則及び職員給与規程の一部改正の件</p> <p>第6号 職員給与規程の一部改正の件</p> <p>第7号 事務局規程の一部改正の件</p> <p>報告第2号 会長及び常務理事の職務執行状況の報告について</p>	
<p>(2) 評議員会の開催 2回 (6月, 3月)</p>	<p>① 第192回評議員会 (定時評議員会) 〈日 時〉 令和4年6月21日(火) 午前10時～ 〈場 所〉 鹿児島県社会福祉センター 別館 会議室 〈上 程 議 案〉 第1号議案 令和3年度事業報告について 第2号議案 令和3年度一般会計及び生活福祉資金会計決算について 第3号議案 理事の選任について</p> <p>② 第193回評議員会 (令和4年度第2回) 〈日 時〉 令和5年3月22日(水) 午前10時30分～ 〈場 所〉 鹿児島県社会福祉センター 別館 会議室 〈上 程 議 案〉 第1号議案 令和4年度一般会計及び生活福祉資金会計資金収支補正予算(案)について 第2号議案 令和5年度事業計画(案)について 第3号議案 令和5年度一般会計及び生活福祉資金会計資金収支予算(案)について 第4号議案 役員及び評議員当の報酬等に関する規程の一部改正について</p>	
<p>(3) 監事会の開催 1回 (5月)</p>	<p>① 令和4年度第1回監事会 〈日 時〉 令和4年5月20日(金) 午前10時30分～ 〈場 所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 第3会議室</p>	<p>当初の予定どおり令和3年度の監査を行い、適正に処理されていることが認められた。</p>

1 役員会等の開催	所管部署	総務部
令和4年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等
<p>(4) 評議員選任・解任委員会の開催</p>	<p>〈協議事項〉 ・ 会計監査人の報酬に関する同意について ・ 令和3年度事業実施報告、令和3年度一般会計及び生活福祉資金会計決算について ・ 財務諸表及び証拠書類等の監査 ・ 監査結果の講評</p> <p>① 令和4年度第1回評議員選任・解任委員会 〈日時〉 令和4年6月3日(金) 午後1時～ 〈場所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 第3会議室 〈審議事項〉 社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会評議員の選任について (1名辞任に伴う後任の選任)</p> <p>② 令和4年度第2回評議員選任・解任委員会 〈日時〉 令和5年3月15日(水) 午後1時30分～ 〈場所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 第2会議室 〈審議事項〉 社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会評議員の選任について (2名辞任に伴う後任の選任)</p>	
2 関係機関・団体との連絡調整	所管部署	総務部ほか関係部所
<p>(1) 市町村社会福祉協議会、種別協議会との連絡調整</p>	<p>① 市町村社会福祉協議会会長及び事務局局長会議の開催 〈日時〉 令和4年4月21日(木) 午後1時～ 〈場所〉 マリンパレスかごしま 〈内容〉 ・ 令和4年度県社協事業概要説明 ・ 県社協各部所連絡事項</p> <p>② その他 社会福祉法人運営等について、市町村社会福祉協議会及び種別協議会等の関係団体に対し、随時情報提供を行った。 また、種別協議会が実施する研修会等に出席し、社会福祉の新たな動向等についての説明や現状・課題等の説明及び各種別協議会活動支援のための研修費等の助成や後援等を行った。</p>	<p>市町村社協等への必要な情報の提供や研修会等の活動支援により、的確な法人運営に資することができた。</p>

<p>(2) 社会福祉, 保健衛生, 社会教育など関係機関・団体との連絡調整</p>	<p>① 県社会福祉審議会委員など国・県, 社会福祉法人及び保健医療福祉関係諸団体等の役員や委員等に就任し, 県社会福祉協議会として積極的に参画した。</p> <p>② 「小さな親切」運動県本部との協定に基づき, 同本部の大会や研修会の開催, 運営等の業務支援を行った。</p> <p>③ そのほか, 市町村社協とも密接な関係を有する県共同基金会及び日本赤十字社鹿児島県支部とも連絡調整・連携を図った。</p>	
<p>(3) 全国社会福祉協議会, 九州社会福祉協議会連合会等関係会議への参加等</p>	<p>① 全国社会福祉協議会の評議員, 各種委員会委員及び九州社会福祉協議会連合会理事等に就任し, オンライン出席及び書面表決等の対応を行った。</p> <p>② 新型コロナウイルスの影響により, 書面やオンラインでの開催となった全国社会福祉協議会及び九州社会福祉協議会主催の会議・研修会等において情報交換を行った。</p> <p>③ そのほか, 大規模災害の発生に備え, 九州ブロック災害時相互応援協定に基づき各種連絡窓口等の調整等を行った。</p>	<p>全社協及び九州ブロックの会議や研修会に書面やオンライン等で参画し, 中央情勢等の情報や九州各県の取組等の情報交換により, 種々の課題解決等につなげることができた。</p>
<p>(4) 韓国 全羅北道社会福祉協議会との交流</p>	<p>姉妹盟約に基づく全羅北道社会福祉協議会との交流事業については, 国内外の情勢等により令和元年度から実施を保留している。</p>	
<p>3 自主財源の確保</p>		<p>所管部署 総務部ほか関係部所</p>
<p>図書等の販売や斡旋</p>	<p>社会福祉に関する書籍等や帳簿類の販売・斡旋を行い, 自主財源の確保に努めた。</p> <p>〈書籍等販売・斡旋〉</p> <p>(1) 民生委員・社会福祉手帳</p> <p>(2) ボランティアATシャツ等</p> <p>(3) 市町村社協帳簿用紙</p> <p>(4) 介護体験ノート</p> <p>(5) 地域見守りネットワーク冊子</p> <p>(6) 全社協等外部発行図書</p> <p>(7) その他自動車保険・がん保険等の団体加入</p>	<p>書籍等販売・斡旋を通じて, 社会福祉関係者等への福祉関連書籍等を円滑に提供できた。</p>

4 広報活動等の推進		総務部										
令和4年度事業計画		具体的成果等										
(1) 広報紙「ふくしのひろば」の発行 ア 発行回数：年6回(奇数月発行) イ 発行部数：13,700部/1回あたり	事業実施概要等 県民の福祉への関心と理解を深めるため、広報紙「ふくしのひろば」を発行し、福祉関係情報を提供した。 〈発行回数等〉 年6回(奇数月の1日) 〈発行部数〉 各回13,700部(12ページ/1部あたり) 〈配布先〉 市町村, 市町村社協, 民生委員, 社会福祉施設, 小・中・高校, 警察署, 病院, 金融機関ほか県内外関係機関・団体等											
	(2) 本会ホームページの運営 (URL http://www.kaken-shakyo.jp/)											
(3) SNS等の活用		福祉関係者を含む一般県民等 幅広い閲覧者に対して、社協活動への理解促進につながった。										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>R4年度実績</th> <th>R3年度実績</th> <th>対前年度(件数)割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>74,997</td> <td>76,767</td> <td>97.7%</td> </tr> <tr> <td>アクセス件数</td> <td>△1,770</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	R4年度実績	R3年度実績	対前年度(件数)割合	74,997	76,767	97.7%	アクセス件数	△1,770		
R4年度実績	R3年度実績	対前年度(件数)割合										
74,997	76,767	97.7%										
アクセス件数	△1,770											
		情報発信へ適宜対応すること で、県民への広報に資すること ができた。										
5 会計監査人の設置		総務部										
会計監査人の設置及び会計監査の実施		会計監査人と連携して、内部 管理体制の充実を図ること で、適正に業務を実施する体制を 整備できた。										
		経営組織のガバナンスの強化や財務規律の強化を図るため、会計 監査人を設置し、会計監査人による監査を下記の日程で実施した。 ① 1回目：令和4年5月12日(木), 13日(金), 14日(土) ② 2回目：令和4年11月4日(金), 7日(月) ③ 3回目：令和5年3月7日(火)										

